



Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

目次

- 改訂情報
- システム管理者について
- システム管理者画面
 - システム管理者としてログインする
 - システム管理者の画面について
- システム環境構築
 - ライセンス管理
 - データソース設定
 - テナント管理
 - テナント環境セットアップ
 - Solr接続設定
- システム管理
 - モジュール参照
 - サービス設定
 - アプリケーションロック一覧
 - ファイル操作
 - データベース操作
 - 非同期-タスクキュー一覧
 - シェアードデータベース設定
 - ログインセッション一覧
 - 一般ユーザ管理
 - ポートレット管理
 - ポータル設定
 - クロスオリジンリソース共有設定
 - システム用OAuthプロバイダ設定
 - システム用外部連携アプリケーション
 - SMTPサーバ設定
 - モバイル通知
- システム管理者設定
 - パスワードを変更する
 - ロケールを変更する
 - 多要素認証を設定する
- 多要素認証を行う
 - 確認コードを利用してログインする
 - バックアップコードを利用してログインする
 - ログインできなくなってしまった場合

改訂情報

変更年月日	変更内容
2012-10-01	初版
2013-04-01	第2版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「モジュール参照」を追加 ▪ 「パスワードを変更する」を追加
2014-08-01	第3版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「ロケールを変更する」を追加 ▪ 「テナント管理」を追加 ▪ 「データソース設定」を変更 ▪ 「Solr接続設定」を追加 ▪ 「システム管理者の画面について」を追加 ▪ 「ログインセッション一覧」を追加 ▪ 「システム管理者としてログインする」を追加
2014-12-01	第4版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「ログインセッション管理」を追加 ▪ 「テナント環境情報」に「グローバルナビ最大表示数」を追加 ▪ 「テナント環境情報」に「グローバルナビ最大表示数」を追加 ▪ 「システム管理者用ホームウィジェット」のシステム情報にダウンロードリンクを追加 ▪ 他のドキュメントへの参照をリンクに変更
2015-04-01	第5版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「ライセンス設定」にテナントごとのライセンス数初期値の説明を追加 ▪ 「ライセンス管理」に注意を追加 ▪ 「Solr接続設定」の「Solr接続設定 入力項目」にポート番号についてのノートを追加 ▪ 「システム管理者の画面について」の画像を最新バージョンに変更 ▪ 「サービス設定」の画像を最新バージョンに変更
2015-08-01	第6版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「LDAP連携・設定」に 2014 Spring(Granada) 以降のバージョンで LDAP認証モジュールを追加する場合の記載を追加 ▪ 「Apache Cassandra接続情報」に 2014 Spring(Granada) 以降のバージョンで IMBoxモジュールを追加する場合の記載を追加 ▪ 「Solr接続設定」の「Solr接続設定 入力項目」に「分散検索」を追加
2015-12-01	第7版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「ライセンス管理」の説明を追加
2016-04-01	第8版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「テナント環境情報」に日付・時刻の入力形式の変更を追加 ▪ 「パスワード保存方式設定」を追加
2016-12-01	第9版 下記を追加・変更しました。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ ブックマークウィジェットのリンク先名称の変更に伴い、「システム管理者の画面について」内の画像を修正。
2018-04-01	第10版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「多要素認証」を追加

変更年月日	変更内容
2018-08-01	<p>第11版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「多要素認証を設定する」を追加 ▪ 「多要素認証を行う」を追加
2018-12-01	<p>第12版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「非同期-タスクキュー一覧」の画像を最新バージョンに変更 ▪ 「非同期-タスクキュー一覧」に「タスクの実行詳細を確認する」を追加 ▪ 「テナント環境情報」のリソース参照名に関する注意の説明を変更 ▪ 「ファイル操作」の画像を最新バージョンに変更 ▪ 「データベース操作」の説明を変更
2019-08-01	<p>第13版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「クロスオリジンリソース共有設定」を追加
2019-12-01	<p>第14版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「データソース設定」に selectMethod の指定に関する説明を追加
2020-04-01	<p>第15版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「サービスを停止する」を追加 ▪ 「サービスを再開する」を追加 ▪ 「クロスオリジンリソース共有設定」の「クロスオリジンリソース共有設定を登録する」のパスに関する説明を変更
2021-08-01	<p>第16版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「非同期-タスクキュー一覧」の画像を最新バージョンに変更 ▪ 「非同期-タスクキュー一覧」に「エラー終了タスクを再登録する」を追加
2022-06-01	<p>第17版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「システム用OAuthプロバイダ設定」を追加 ▪ 「システム用外部連携アプリケーション」を追加 ▪ 「SMTPサーバ設定」を追加
2023-04-01	<p>第18版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「ライセンス管理」の記載をライセンスの種別ごとの記載に変更
2024-04-01	<p>第19版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「モバイル通知」を追加
2024-08-30	<p>第20版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「ライセンス管理」の「カスタマーサクセスライセンス」に ASEAN 地域向けのローコードとプロコードに関する注意書きを追加
2024-10-01	<p>第21版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「データベース操作」の SQL 実行結果画面の画像を最新バージョンに変更 ▪ 「Solr接続設定 入力項目」のテキスト抽出設定に関するコラムを追加 ▪ 「ベクトルデータベース接続情報」を追加

変更年月日	変更内容
2025-04-01	<p>第22版 下記を追加・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none">■ 「ライセンス管理」の構成をライセンス種別ごとに記載するよう変更■ 「ベクトルデータベース接続情報」にベクトルデータベース接続情報の設定が必要な状況に関する説明を追加■ 「ベクトルデータベース接続情報」にシェアードデータベースの使用に関する説明および注釈を追加■ 「ベクトルデータベース接続情報」にベクトルデータベース種別の選択候補に pgvector が表示されない場合の確認事項に関する説明を追加

intra-mart Accel Platform では、ひとつの intra-mart Accel Platform システムを独立した複数の会社などのグループで共同利用するような場合には WAR ファイルによる複数テナント や バーチャルテナントによる複数テナント として構築することができます。

同じハードウェアやアプリケーションを利用していながら、ロール、ユーザ、メニューそしてデータベースなどはテナントごとに異なる設定で利用できます。

そのため、各テナントが個別の intra-mart Accel Platform システム利用している感覚で使用することができます。

intra-mart Accel Platform では、共同で利用するそれぞれのグループを「テナント」、その管理者を「テナント管理者」と呼んでいます。そして、これら「テナント」や「テナント管理者」を統括管理するのが「システム管理者」です。

システム管理者は、 intra-mart Accel Platform のデータベース設定など共通の設定管理と各テナントとその管理者に関する管理を行います。

ここではシステム管理者の画面について説明します。

システム管理者としてログインする

- Webブラウザより以下のURLへアクセスします。

システム管理者ログイン画面：*http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/system/login*

i コラム

下記構築例の場合、システム管理者へのログイン画面へのURLは次の通りです。

システム管理者ログイン画面：*http://localhost:8080/imart/system/login*

項目	例
<HOST>	「ローカル環境（localhost）」
<PORT>	「8080」ポート
<CONTEXT_PATH>	「imart」

構築された環境によってログイン画面へのURLは異なります。詳細については、環境を構築した管理者にお問合せください。

i コラム

多要素認証を利用する場合、以下の設定を行ってください。

「[多要素認証を有効化する](#)」

i コラム

多要素認証を利用したログイン手順は以下を参照してください。

「[多要素認証を行う](#)」

システム管理者の画面について

システム管理者のホーム画面から intra-mart Accel Platform の各種システム情報にアクセスできます。

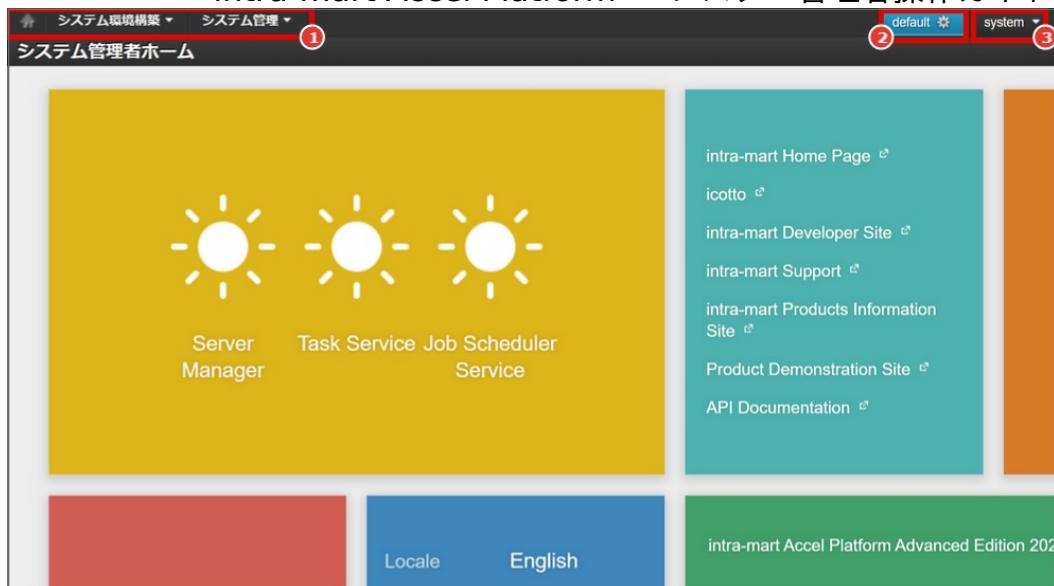
目次

- システム管理者のホーム画面
 - システム管理者のメニュー
 - テナントの切り替え
 - システム管理者用ホームウィジェット
 - ウィジェットを移動する

システム管理者のホーム画面

システム管理者のメニュー

ここではシステム管理者が標準で操作できるメニューについて説明します。



1. グローバルナビ

システム環境構築やシステム管理の各種メニューにアクセスできます。

2. 操作中のテナントID

現在操作中のテナントIDを確認できます。

3. ユーティリティメニュー

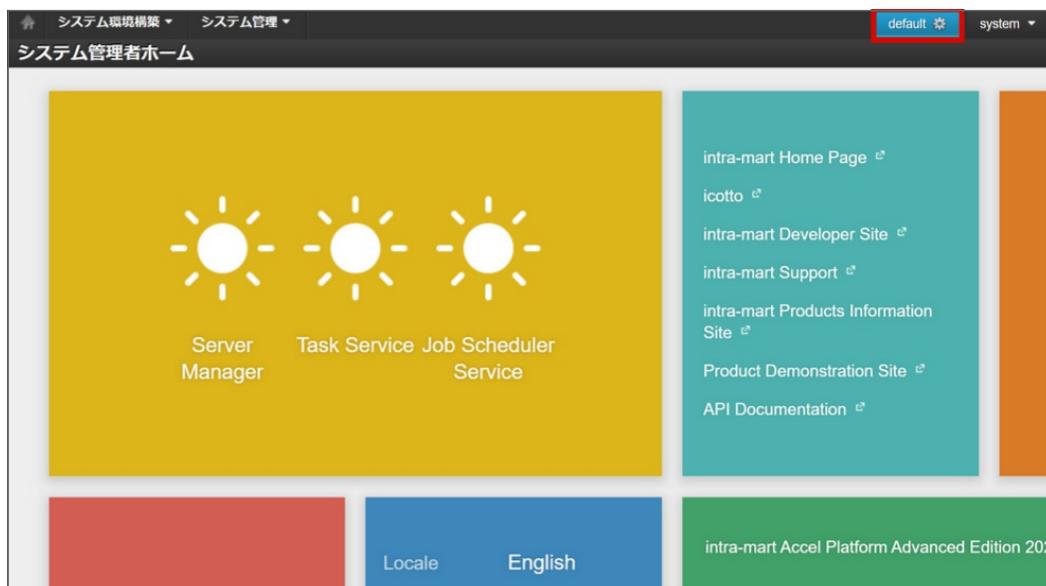
メニューから各種機能を利用するためには、メニューグループカテゴリにメニューアイテムを登録する必要があります。

メニューアイテムのリンク先のURLにアクセス権が設定されている場合のみ、画面上（グローバルナビ、サイトマップ等）に表示されます。

テナントの切り替え

ここでは操作対象のテナントを切り替える方法を説明します。

1. 現在操作中のテナントIDの表示箇所をクリックします。



2. 切り替えたいテナントIDの行を選択し、「テナントを切り替える」ボタンをクリックしてください。

切り替えるたいテナントIDの行を選択し、テナントを切り替えるボタンをクリックしてください。

テナントID	エンコーディング	ロケール	タイムゾーン
default	UTF-8	ja	Asia/Tokyo
secondary	UTF-8	ja	Asia/Tokyo

1 ページ中 1 ページ目 | ▶ ▷ 10 ▼ 2 件中 1 - 2 を表示

テナントを切り替える

- 操作対象のテナントを切り替えることができました。

secondary

システム管理者ホーム

Server Manager Task Service Job Scheduler Service

Locale English

intra-mart Home Page

icotto

intra-mart Developer Site

intra-mart Support

intra-mart Products Information Site

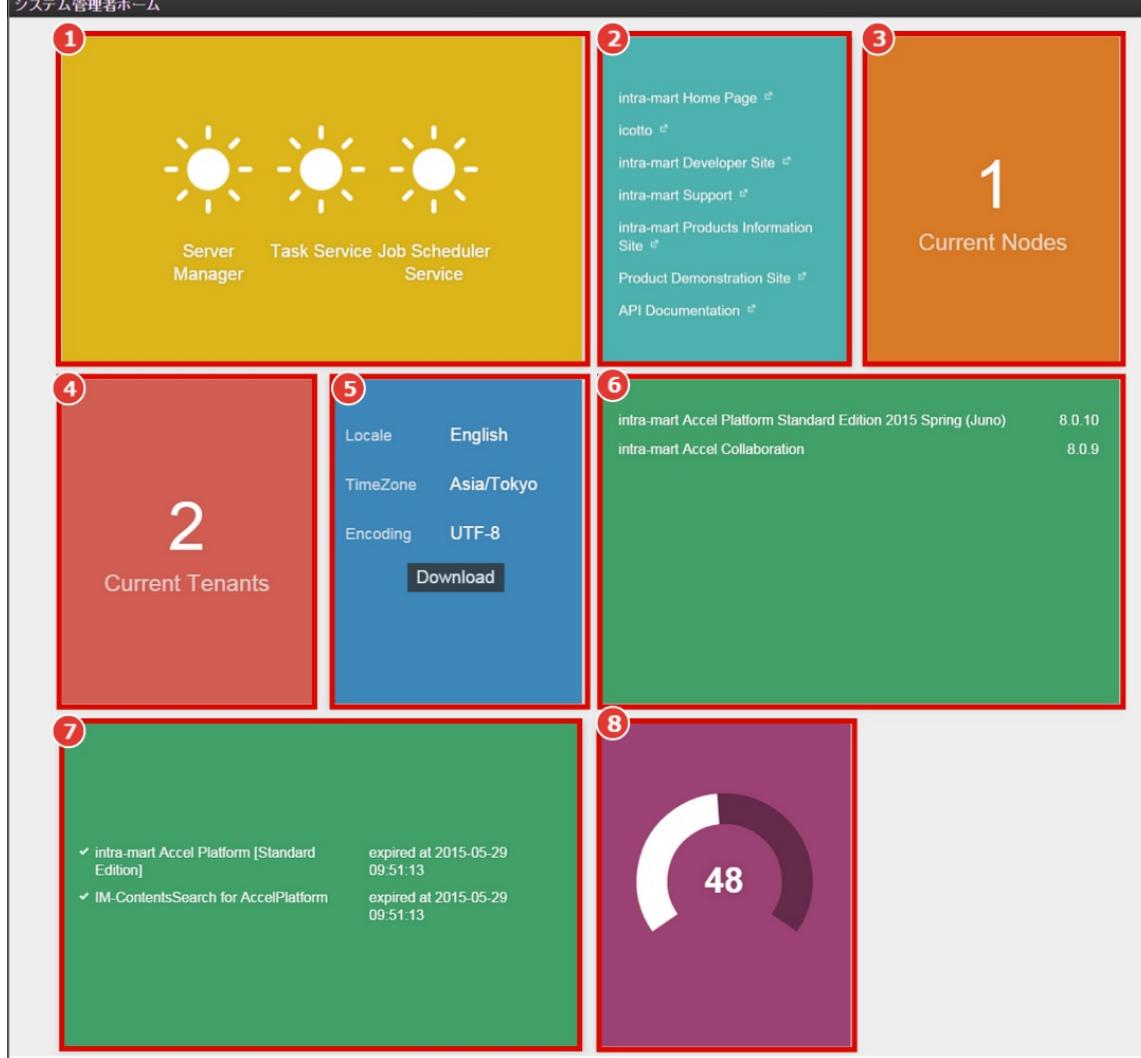
Product Demonstration Site

API Documentation

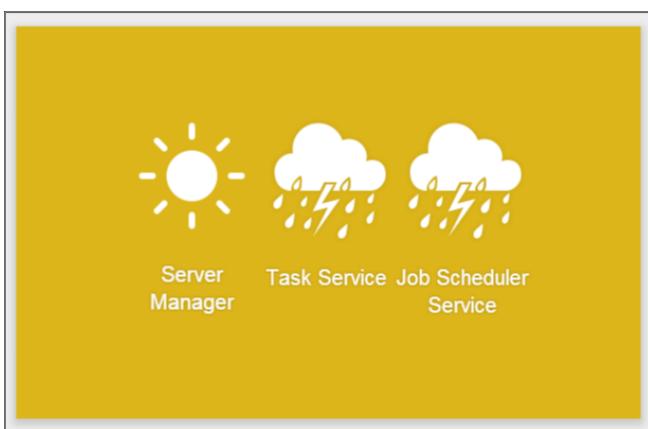
intra-mart Accel Platform Advanced Edition 202

システム管理者用ホームウィジェット

システム管理者のホーム画面ではシステムの各種情報を確認できます。



1. システムサービスステータス
システムサービスの稼働状況を示します。
ウィジェットをクリックすると、「[サービス設定](#)」画面に遷移し、詳細を確認できます。



晴れマークはシステムサービスが動作していることを示しています。
雨マークはシステムサービスが停止していることを示しています。

2. ブックマーク
ブックマークを表示します。
3. ノード
現在システムを構築しているノードの数を表示します。
ウィジェットをクリックすると「[サービス設定](#)」画面が表示されます。
4. テナント数
現在システムに登録されているテナントの数を表示します。
ウィジェットをクリックすると、「[テナント管理](#)」画面が表示されます。

5. システム情報

以下のシステム情報を表示します。

- ロケール
- タイムゾーン
- エンコーディング

ダウンロードをクリックすると、「status.zip」がダウンロードできます。status.zipは弊社サポートへお問い合わせの際に問い合わせ内容とあわせて送付してください。

(status.zipのダウンロードは2014 Winter(Iceberg)版以降で利用できます。)

6. プロダクト

インストールされているプロダクトの一覧を表示します。

ウィジェットをクリックすると「[モジュール参照](#)」画面が表示されます。

7. ライセンス

インストールされているライセンスの一覧を表示します。

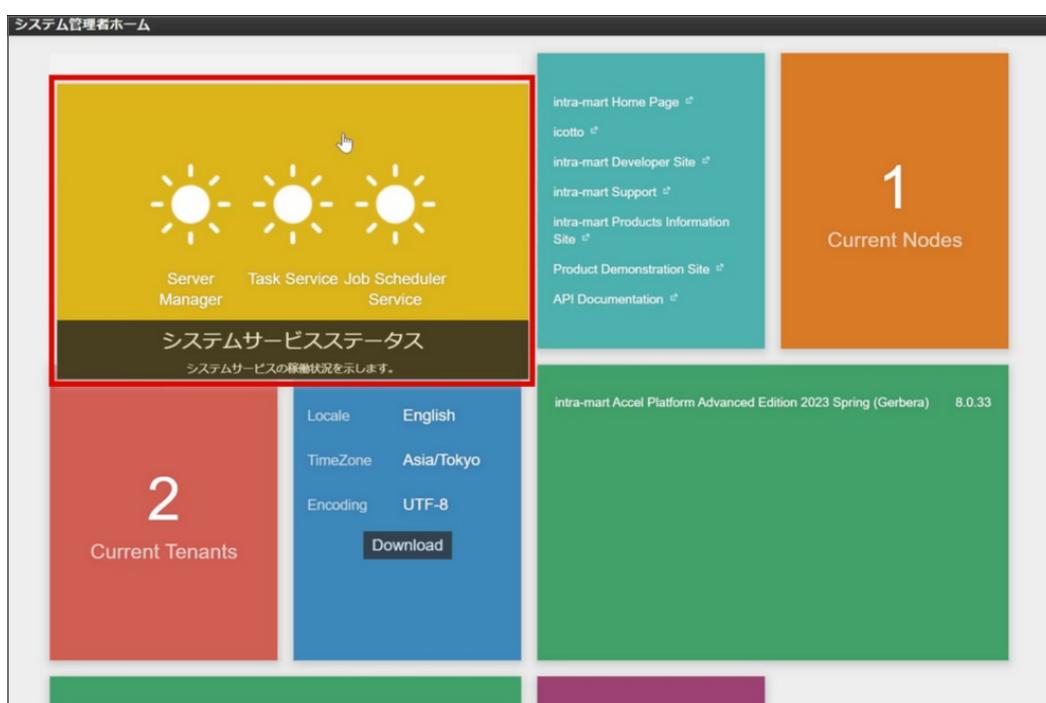
ウィジェットをクリックすると「[ライセンス管理](#)」画面に遷移します。

8. メモリ使用量

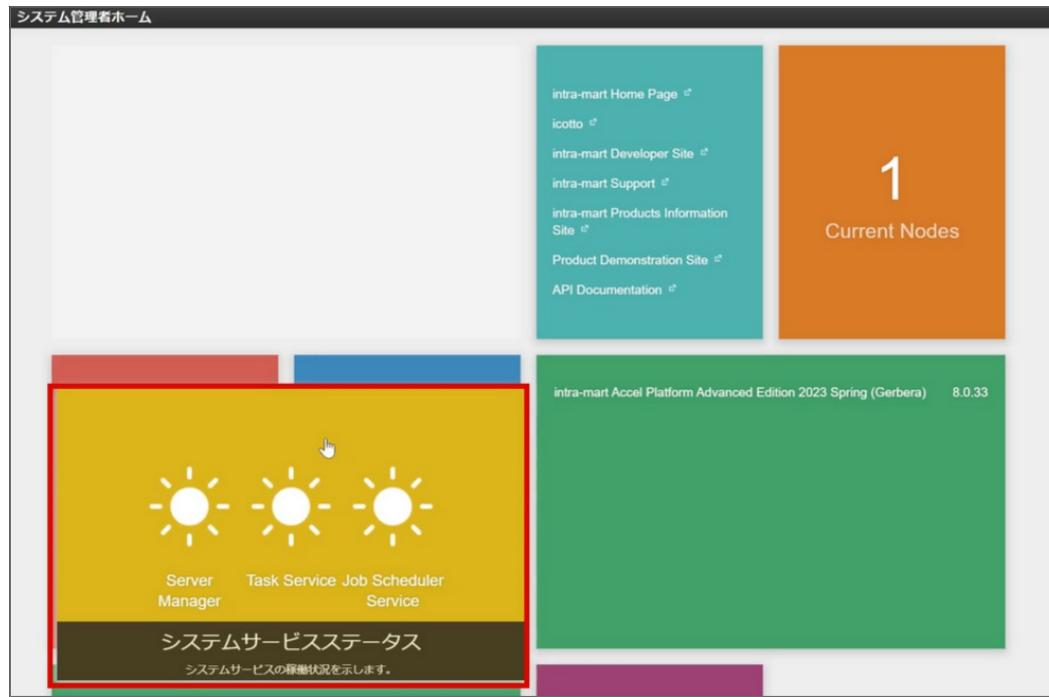
ヒープメモリの使用量をパーセント表示で確認できます。

ウィジェットを移動する

1. 表示位置を変更したいウィジェットの任意の場所をドラッグします。

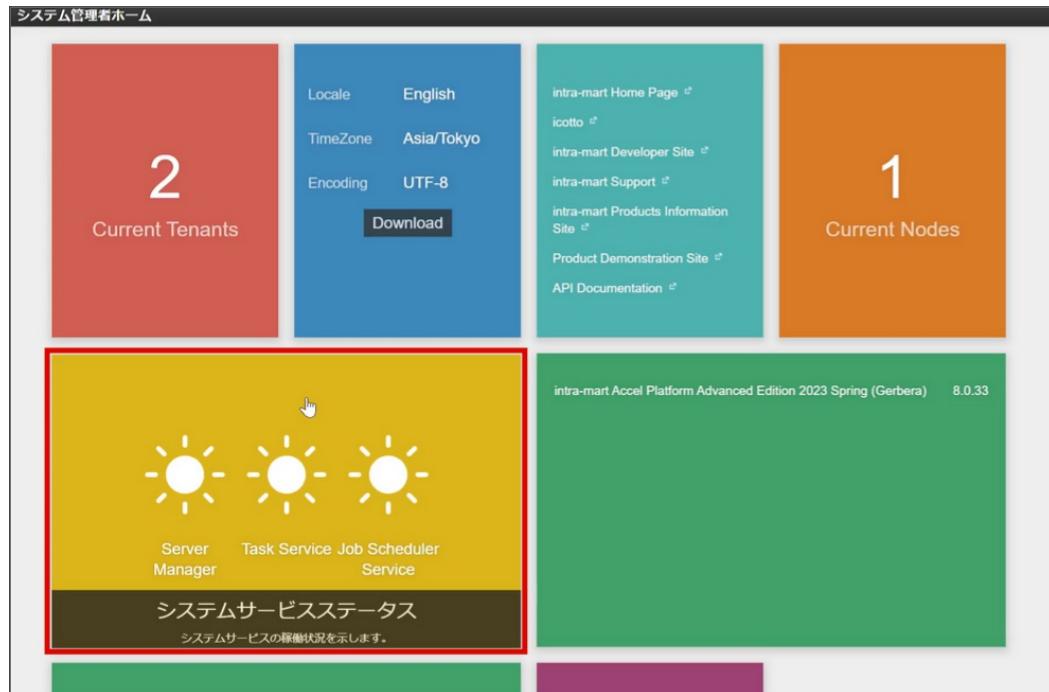


2. ウィジェットを移動する場所にドロップします。



3. 表示位置の変更が完了しました。

変更した表示位置は保存されますので、再表示をおこなっても変更した表示位置で表示されます。



ここではシステム環境構築の操作を説明します。

ライセンス管理

intra-mart Accel Platform のライセンス情報を表示、登録します。

ライセンスには、カスタマーサクセスライセンスとパッケージライセンスという2つのライセンス種別が存在します。

ライセンス種別によって操作が異なるため、本項では、種別毎に操作方法を記載します。

ライセンスの種別の詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」の「[ライセンスについて](#)」を参照してください。

目次

- [カスタマーサクセスライセンス](#)
 - [カスタマーサクセスライセンスを新規登録する](#)
 - [カスタマーサクセスライセンスを更新する](#)
 - [インターネットに接続できない環境の場合](#)
- [パッケージライセンス](#)
 - [パッケージライセンスを登録する](#)
 - [分散環境でのライセンスの登録](#)

カスタマーサクセスライセンス



注意

ASEAN 地域向けのローコードとプロコードについては、「[カスタマーサクセスライセンス](#)」の手順ではなく、「[パッケージライセンス](#)」を参照してください。

カスタマーサクセスライセンスを新規登録する

カスタマーサクセスライセンスは、以下の手順で登録できます。

1. ライセンスポータルに環境を作成します。
2. 環境に製品を割り当てます。
3. アクティベートします。

より詳細な手順は、「[ライセンスポータル操作ガイド](#)」の「[環境を利用するための手続き](#)」を参照してください。

カスタマーサクセスライセンスを更新する

カスタマーサクセスライセンスを更新するには、ご契約を更新していただく必要があります。

ご契約内容が更新された場合には、24時間程度で更新後の内容が自動的に反映されます。

これにより、ライセンスを更新する操作等を行うことなく、環境を継続してご利用いただくことが可能です。

また、ライセンス管理画面の「即時に反映」をクリックすることで、ご契約内容の即時反映が可能です。

ただし、ご契約の自動反映および即時反映を行うには、環境がインターネットに接続できる必要があります。

ご契約名
サンプルプロジェクト01

ご契約種別
販売

ご契約終了日
2023-03-31

環境名
サンプル環境01

ご契約内容が更新された場合
ご契約内容が更新された場合には、24時間程度で本環境に対して更新後の内容が自動的に反映されます。また、以下の「即時に反映」を押下することで即時反映が可能です。
ただし、自動反映および即時反映を行うには、本環境がインターネットに接続できる必要があります。

即時に反映

ご契約内容が更新された場合※インターネットに接続できない環境の場合
インターネットに接続できない環境では、更新されたご契約内容が自動的に反映されません。
以下の「再アクティベート」を押下して再度環境のアクティベートを行っていただくことで、更新後のご契約内容が反映可能です。

再アクティベート



注意 ライセンスの有効期限が切れた場合

一般利用者が利用する画面は表示できなくなり、システム管理者画面のみ表示可能です。

インターネットに接続できない環境の場合

カスタマーサクセスライセンスは、ご契約を更新していただくだけで、環境に更新後の契約内容が自動的に反映されます。
ただし、ご契約の自動反映を行うには、環境がインターネットに接続できる必要があります。
環境がインターネットに接続できない場合は、「再アクティベート」をクリックし、手動で更新後のご契約内容を反映していただく必要があります。

以下の手順で更新後のご契約内容を反映できます。

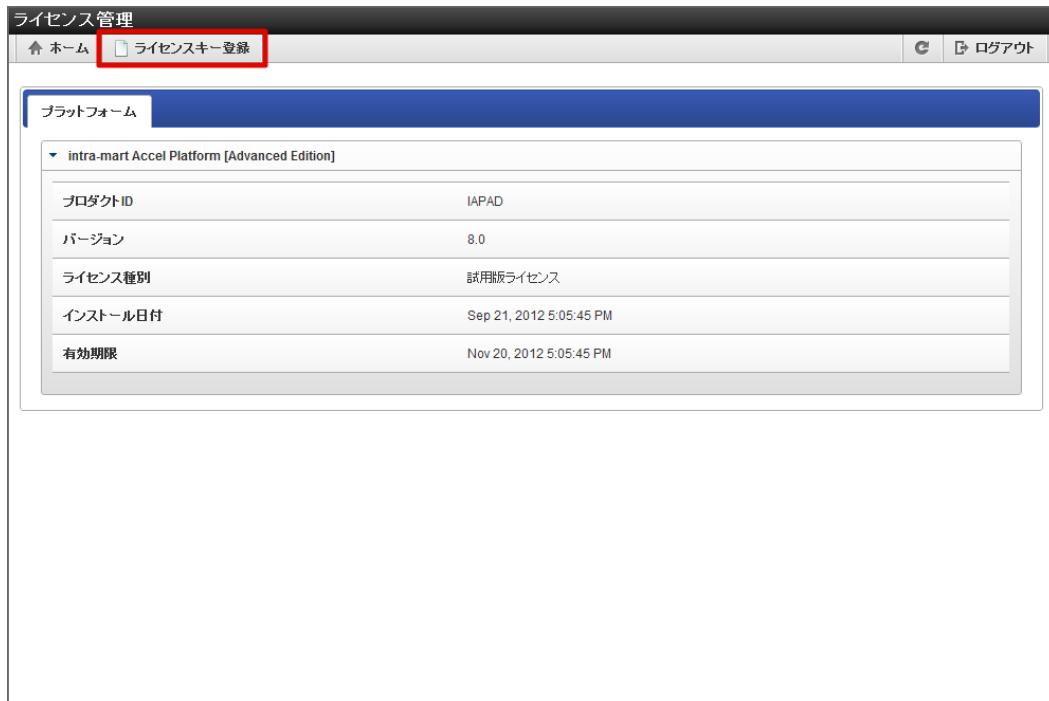
1. ライセンス管理画面で「再アクティベート」をクリックします。
2. 再アクティベートします。

より詳細な手順は、「ライセンスポータル操作ガイド」の「インターネットに接続できない環境でのライセンス更新」を参照してください。

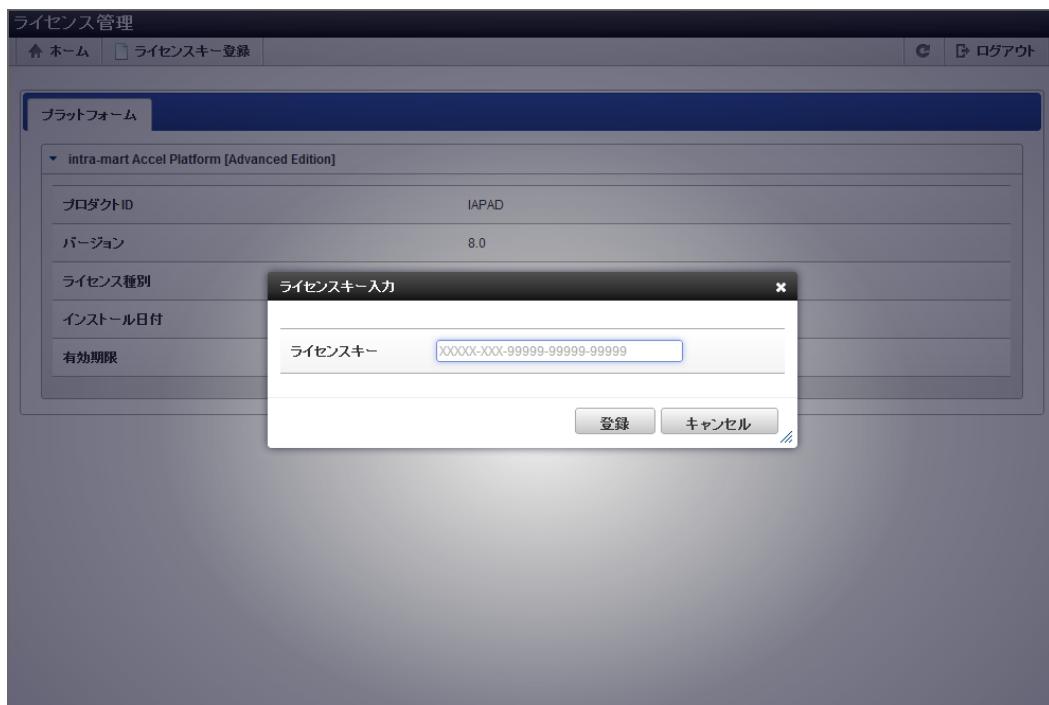
パッケージライセンス

パッケージライセンスを登録する

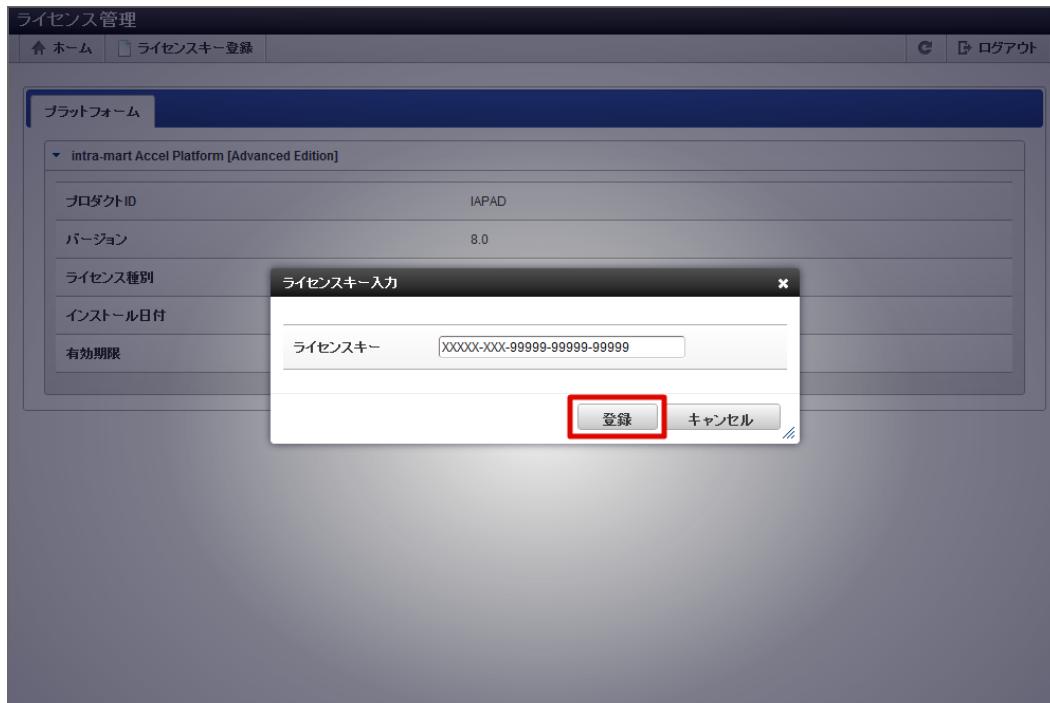
1. 「システム環境構築」→「ライセンス管理」をクリックします。
2. 「ライセンスキーエンタリオ」をクリックします。



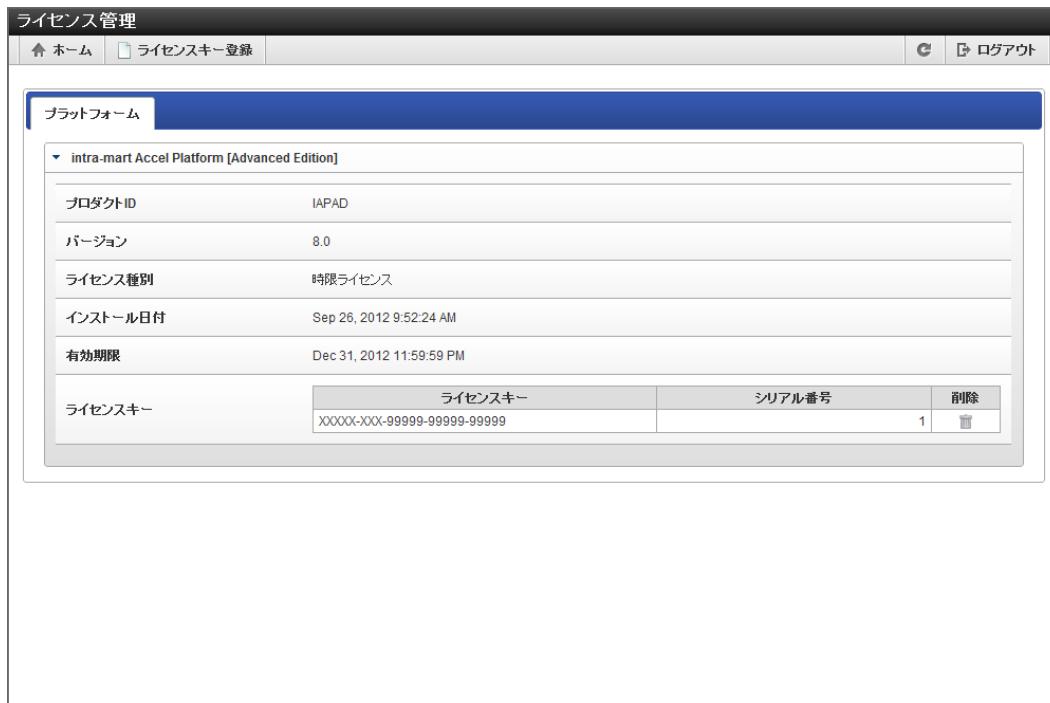
3. 「ライセンスキー入力」画面が表示されます。



4. 「登録」をクリックします。



5. ライセンスの登録が完了しました。



コラム

ライセンスを削除する場合

ライセンスキーの アイコンをクリックします。



注意

ライセンスを追加、変更する場合

既存のライセンスキーを削除せず、新規のライセンスキーを登録してください。

新規のライセンスキーを登録後、既存のライセンスキーを削除してください。（削除しなくても動作上問題はありません）

同じ製品のライセンスが複数登録されている場合、ユーザ数が多いライセンスが有効なライセンスとして扱われます。

**注意****ライセンスの有効期限が切れた場合**

一般利用者が利用する画面は表示できなくなり、システム管理者画面のみ表示可能です。

システム管理者画面よりライセンスキーを登録してください。

アプリケーションやエクステンションの一部のライセンスのみ有効期限が切れた場合も同様に、システム管理者画面のみ表示可能です。

**注意****ライセンスキーを登録したアプリケーション製品を利用するためには**

「テナント管理」の「ライセンス設定」からテナントごとの有効ライセンス数を設定する必要があります。

この手順を行わない場合、有効なアプリケーションライセンス数の上限は「0」となりアプリケーションを利用することはできません。

アプリケーションが利用できない場合にアプリケーションのページへアクセスした場合、403のエラーページが表示されます。

分散環境でのライセンスの登録

分散環境の場合、任意の Web Application Server 1台に、ライセンスをサーバ台数分登録します。

1. 任意の Web Application Server にシステム管理者としてログインします。
2. 「システム環境構築」→「ライセンス管理」をクリックします。
3. サーバ台数分のライセンスを登録します。ライセンスの登録方法は「[パッケージライセンス](#)」を参照してください。

データソース設定

intra-mart Accel Platform で利用するテナントのデータソース情報を登録、参照します。

**注意**

Resin または Payara 以外の Web Application Server の場合、データソース設定は行えません。

目次

- [データソースを登録する](#)
- [データソースを参照する](#)

データソースを登録する

1. 「システム環境構築」→「データソース設定」をクリックします。
2. 「新規作成」をクリックします。

データソース設定

新規作成

データソース一覧

JNDI名	ドライバクラス名	URL
jdbc/default	org.postgresql.Driver	jdbc:postgresql://localhost:5432/iap_db

1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 10 ▼ 1件中 1 - 1 を表示

3. 内容を入力し、「新規作成」をクリックします。

データソース設定 新規登録

新規登録

▼ 基本設定プロパティ

JNDI名*	jdbc/secondary
ドライバクラス名*	org.postgresql.Driver
URL*	jdbc:postgresql://localhost:5432/secondary
ユーザ*	imart
パスワード*

▶ 詳細設定プロパティ

▶ 接続検証プロパティ

▶ カスタムプロパティ

新規作成 テスト接続

4. 「決定」をクリックします。



5. データソースを登録できました。



コラム

テスト接続する場合

「テスト接続」をクリックします。



コラム

Microsoft SQL Server の場合に selectMethod を設定する

selectMethod はカスタムプロパティに指定してください。

利用するドライバクラスによって指定するキーが異なります。

- com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource を利用する場合はキーに「selectMethod」を指定してください。
- com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver を利用する場合はキーに「SelectMethod」を指定してください。

以下は com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource を利用する場合の設定例です。

データソース設定 新規登録

基本設定プロパティ

JNDI名 *	jdbc/secondary
ドライバクラス名 *	com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServer
URL *	jdbc:sqlserver://localhost:1433;Database=
ユーザ *	username
パスワード *	*****

カスタムプロパティ

プロパティ名	プロパティ値	削除
selectMethod	cursor	X

新規作成 テスト接続

データソースを参照する

1. 「システム環境構築」→「データソース設定」をクリックします。

2. 参照したいデータソースのJNDI名をクリックします。

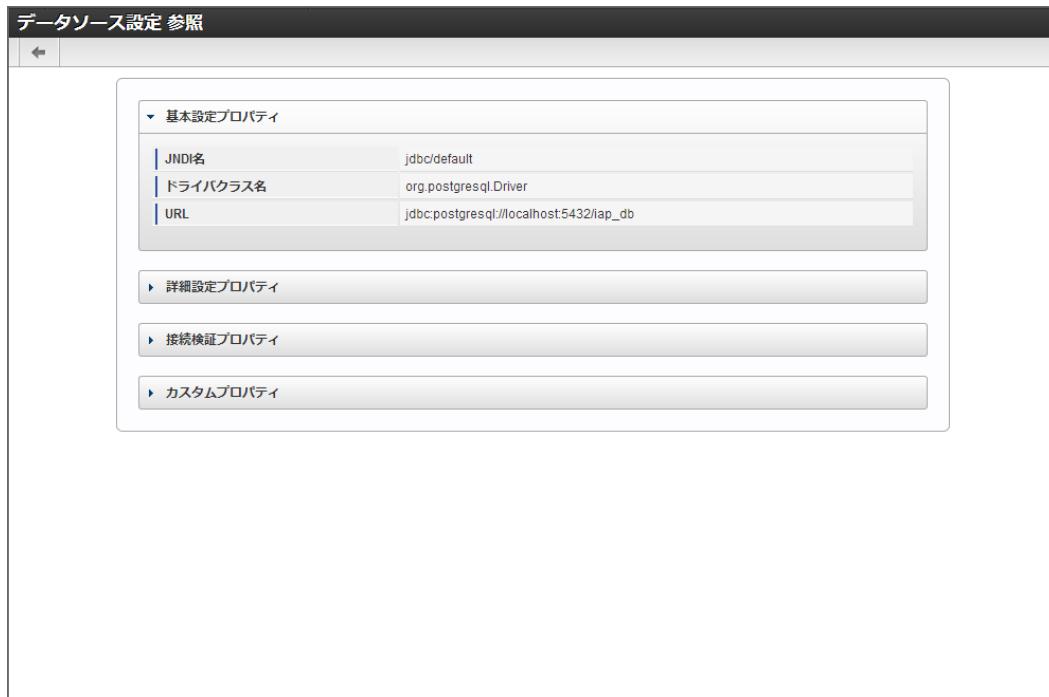
データソース設定

データソース一覧

JNDI名	ドライバクラス名	URL
jdbc/default	org.postgresql.Driver	jdbc:postgresql://localhost:5432/iap_db

C ◀◀ | 1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 10 ▾ 1件中 1-1を表示

3. データソースの詳細が表示されます。



テナント管理

ここではテナント管理の操作の説明を行います。

テナント管理

システム管理者はテナント管理画面から intra-mart Accel Platform の作成済みのテナント情報の更新やテナントの削除を行うことができます。

目次

- [テナント情報を更新する](#)
- [テナントを削除する](#)

[テナント情報を更新する](#)

1. 「システム環境構築」→「テナント管理」をクリックします。
2. 操作中のテナントの情報が表示されます。

The screenshot shows the 'Tenant Management' interface with the 'Tenant Information' tab selected. The form contains the following fields:

- テナントID*: default
- デフォルトロケール*: 日本語
- タイムゾーン*: (GMT+09:00) 日本 / 東京
- デフォルトテナント: デフォルトテナントに設定する
- アカウントライセンス数*: 無制限

各ウィザードの詳細については下記を参照してください。

テナント情報

1. テナントの基本的な情報を設定します。

The screenshot shows the 'Tenant Management' interface with the 'Tenant Information' tab selected. The form contains the following fields:

- テナントID*: default
- デフォルトロケール*: 日本語
- タイムゾーン*: (GMT+09:00) 日本 / 東京
- デフォルトテナント: デフォルトテナントに設定する
- アカウントライセンス数*: 無制限

項目	必須/任意	説明
テナントID	変更不可	テナントのIDが表示されます。
デフォルトロケール	変更不可	テナントのデフォルトロケールが表示されます。
タイムゾーン	必須	テナントのタイムゾーンを選択します。
デフォルトテナント	任意	デフォルトテナントかどうかを選択します。既にデフォルトテナントの場合は変更できません。
アカウントライセンス数	必須	テナントのアカウントライセンス数を入力します。 テナント管理者を登録するため「1」以上を入力してください。



注意

TRY版利用などにおいてサンプルデータセットアップを行う場合は、「アカウントライセンス数」は 無制限 を選択する事を推奨します。

テナント環境情報



注意

「Resinデータソース設定」モジュールまたは「Payaraデータソース設定」モジュールを適用している場合、リソース参照名にセレクトボックスが表示されます。
モジュールが適用されていない場合はリソース参照名は表示されません。

テナント管理

新規作成	ライセンス設定	操作																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>テナント情報</th> <th>テナント環境情報</th> <th>LDAP連携・設定</th> <th>Cassandra接続情報</th> <th>Solr接続情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リソース参照名</td> <td>java:comp/env/jdbc/default</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ストレージパス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベースURL</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グローバルナビ最大表示数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>日付の入力形式の変更</td> <td><input type="radio"/> 許可する <input checked="" type="radio"/> 許可しない</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>時刻の入力形式の変更</td> <td><input type="radio"/> 許可する <input checked="" type="radio"/> 許可しない</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			テナント情報	テナント環境情報	LDAP連携・設定	Cassandra接続情報	Solr接続情報	リソース参照名	java:comp/env/jdbc/default				ストレージパス					ベースURL					グローバルナビ最大表示数					日付の入力形式の変更	<input type="radio"/> 許可する <input checked="" type="radio"/> 許可しない				時刻の入力形式の変更	<input type="radio"/> 許可する <input checked="" type="radio"/> 許可しない			
テナント情報	テナント環境情報	LDAP連携・設定	Cassandra接続情報	Solr接続情報																																	
リソース参照名	java:comp/env/jdbc/default																																				
ストレージパス																																					
ベースURL																																					
グローバルナビ最大表示数																																					
日付の入力形式の変更	<input type="radio"/> 許可する <input checked="" type="radio"/> 許可しない																																				
時刻の入力形式の変更	<input type="radio"/> 許可する <input checked="" type="radio"/> 許可しない																																				

項目	必須/任意	説明
リソース参照名	任意	リソース参照名を選択します。
ストレージパス	任意	ストレージパスを入力します。
ベースURL	任意	ベースURLを入力します。
グローバルナビ最大表示数	任意	グローバルナビの最大表示件数を入力します。
日付の入力形式の変更	必須	「許可する」を選択した場合、「日付と時刻の形式」にて日付の入力形式の変更が可能です。 未指定の場合の初期値は「許可しない」です。
時刻の入力形式の変更	必須	「許可する」を選択した場合、「日付と時刻の形式」にて時刻の入力形式の変更が可能です。 未指定の場合の初期値は「許可しない」です。



コラム

ストレージパスに storage-config.xml の <storage-directory-name> を付加したパスが
パブリックストレージパス %PUBLIC_STORAGE_PATH% に設定されます。
(例)

ストレージパスに /var/imart と入力し
設定ファイル storage-config.xml の <storage-directory-name> に storage と設定した場合、
%PUBLIC_STORAGE_PATH% は /var/imart/storage に設定されます。



コラム

未指定の場合は、それぞれの設定ファイルの内容が有効です。

パスワード保存方式設定

アカウントパスワードの保存方式を設定します。



コラム

パスワード保存方式設定は 2016 Spring(Maxima) から利用可能です。

2016 Spring(Maxima) より前のバージョンでの保存方式は「暗号化」です。

設定画面

パスワード保存方式設定

パスワード保存方式

● 暗号化：アカウントパスワードを暗号化して保存します。
● ハッシュ化：アカウントパスワードをハッシュ化して保存し、複合化困難になります。

パスワード保存方式を「ハッシュ化」に変更した場合、「アカウントパスワードハッシュ化移行処理」ジョブを実行する必要があります。

一度パスワード保存方式を「ハッシュ化」に設定すると、その後設定を変更することはできません。
設定値をよく確認した上で設定を行ってください。

「ハッシュ化」に設定することで一部の機能がご利用いただけなくなります。
詳しくは製品のドキュメントを参照してください。

ハッシュアルゴリズム*	SHA-256
ソルト値*	intramart <small>ここで設定した値をソルトに付加します。 パスワードにソルトを付加してハッシュ処理を行うことで変換元のパスワードの特定が難しくなります。</small>
ストレッチング回数*	1000 <small>ここで設定した数だけハッシュ処理を繰り返しています。 ストレッチングの回数が多いほど変換元のパスワードの特定が難しくなります。</small>

項目	必須/任意	説明
パスワード保存方式	必須 / 変更不可	<p>データベース内で保持するアカウントパスワードの保存方式です。</p> <p>以下の2つの方式を選択可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 暗号化：アカウントパスワードを暗号化して保存します。キーを用いる事でパスワードの復号化（平文パスワードの取得）が可能です。 ■ ハッシュ化：アカウントパスワードのハッシュ値を保存します。復号化（平文パスワードの取得）はできません。



注意

「ハッシュ化」を選択し更新した場合、以下の制限があります。

- 設定値を基にアカウントパスワードのハッシュ化を行うため一度設定した「ハッシュ化」の設定値を変更することはできません
- 平文パスワードを復元する方法が失われるため「暗号化」に戻すことはできません
- 平文パスワードを復元する方法が失われるため一部の機能がご利用いただけません
 - 詳細は [要件情報公開サイト](#) を参照してください
- 既存のアカウントパスワードを変換するために「アカウントパスワードハッシュ化移行処理」ジョブを実行する必要があります。
 - 詳細は [「アカウントパスワードハッシュ化移行処理」](#) を参照してください。

以下の項目はパスワード保存方式で「ハッシュ化」を選択した場合のみ入力必須です。

パスワード保存方式が「ハッシュ化」で登録済みの場合は変更不可です。

項目	必須/任意	説明
ハッシュアルゴリズム	必須 / 変更不可	<p>ハッシュ文字列を生成する計算式（関数）です。 intra-mart Accel Platform では以下の値が利用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ SHA-256 ▪ SHA-384 ▪ SHA-512
ソルト値	必須 / 変更不可	<p>ハッシュ文字列を生成するためのパラメータの1つです。 パスワードのハッシュ化において、パスワード値にソルト値を付与した値に対して ハッシュアルゴリズムによる計算を行った値がハッシュ文字列（パスワードとして保 存される値）です。 ソルト値はユーザ毎に異なる値を利用するため、異なるユーザが同じパスワードを利 用していた場合も保存されている値は異なります。 ソルト値の生成式は以下の通りです。 対象ユーザのユーザコード + "!" + テナントID + "!" + テナント属性で永続化されて いるソルトサフィックス</p>
ストレッ칭回数	必須 / 変更不可	<p>ハッシュ文字列を生成するためのパラメータの1つです。 パスワードのハッシュ化において、ハッシュアルゴリズムによる計算をストレッチング 数の回数繰り返して生成された値がハッシュ文字列（パスワードとして保存される 値）です。 ストレッ칭回数が多いほどパスワードの特定が難しくなりますが、ハッシュ化す るための負荷が高くなります。</p>

アカウントパスワードハッシュ化移行処理

アカウントパスワード、および、パスワード履歴管理で保存しているパスワード履歴の値を暗号化された値からハッシュ化された値に変更するためのジョブです。

パスワード保存方式を「暗号化」にて構築済みのテナントに対して「ハッシュ化」に変更した場合、一般ユーザによるログイン時にパスワードの照合に失敗してしまいます。

そのため、上述の環境においては「アカウントパスワードハッシュ化移行処理」ジョブを実行する必要があります。

システム管理画面にログインした状態でジョブネット管理画面を開き「アカウントパスワードハッシュ化移行処理」ジョブを実行してください。

なお、ジョブネット管理画面はシステム管理画面のメニューには表示されません。

以下に示すURLをWebブラウザに直接入力してジョブネット管理画面を開いてください。

`http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/tenant/job_scheduler/jobnet_maintenance`

「アカウントパスワードハッシュ化移行処理」ジョブに関する詳細は「[ジョブ・ジョブネットリファレンス](#)」の「[アカウントパスワードハッシュ化移行処理](#)」を参照してください。



注意

ジョブを実行する前に「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」の「[バックアップ・リストア（復元）](#)」を参考にバックアップを行ってください。

LDAP連携・設定

1. **LDAP連携・設定** 情報を設定します。

The screenshot shows the 'Tenant Management' section of the intra-mart Accel Platform. The top navigation bar includes 'New Creation' and 'License Management' buttons, and a 'Operation' dropdown menu. Below the navigation is a tab bar with 'Tenant Information', 'Tenant Environment Information', 'LDAP Binding Configuration', 'Cassandra Connection Information', and 'Solr Connection Information'. The current tab is 'LDAP Binding Configuration'. The main content area displays the XML configuration for LDAP binding, which includes details like provider URL (localhost:389), context factory (com.sun.jndi.ldap.LdapCtxFactory), base DN (dc=ldaps, dc=intra, dc=jp), search filter (sAMAccountName=?), and connection timeout properties. At the bottom of this panel are 'Update' and 'Delete' buttons.



注意

- <enable>タグの内容がtrueである場合のみLDAP認証が有効です。
LDAP認証を有効とする場合、認証先であるLDAPの設定を正しく行ってください。
- 2014 Spring(Granada) 以降のバージョンでLDAP認証モジュールを追加する場合は、テナント環境セットアップを実行する前にLDAP連携・設定情報を更新する必要があります。

項目	必須/任意	説明
設定内容	必須	LDAP認証の有効/無効、および、認証先であるLDAPの情報を入力します。 入力内容については「 intra-mart Accel Platform セットアップガイド 」 - 「 LDAP認証設定ファイル 」の説明を参照してください。

ログインセッション管理



注意

IM-Jugglingにおいて、ログインセッション管理モジュールを選択した場合のみ、この画面が表示されます。

1. 一般ユーザのログイン時に二重ログインを検出した場合の動作を設定します。

テナント設定

Step 7 - ログインセッション管理

(i) 一般ユーザがログインした時に二重ログインを検出した場合の動作を設定します。

標準の認証エラーページを表示する
 二重ログインの検出を表示する
 ログインユーザによるセッションの無効化を許可する

次へ

ログインセッション管理の設定内容は以下のとおりです。

■ 標準の認証エラーページを表示する

標準の認証エラーページを表示します。

■ 二重ログインの検出を表示する

二重ログインを検出したことを一般ユーザに通知します。

一般ユーザは通知された画面からログインを再試行することができます。

■ ログインユーザによるセッションの無効化を許可する

二重ログインを検出したことを一般ユーザに通知します。

一般ユーザは通知された画面からログイン中のセッションを強制的に無効化しログインすることができます。

Apache Cassandra接続情報

- Apache Cassandra接続情報を更新します。

テナント設定

Step 7 - Cassandra接続情報

クラスタ名*	Test Cluster
キースペース*	default
接続先*	127.0.0.1:9160
レプリケーションファクタ*	1
認証情報設定	<input type="checkbox"/> 設定する (i) 認証情報が必要なCassandraへの接続時のみ、設定してください。 認証情報を設定する場合には書き込み権限の確認を行うため、事前にキースペースを作成しておく必要があります。

テスト接続

次へ



注意

- Apache Cassandra接続情報はIMBox利用時のみ表示されます。
- Apache Cassandra接続情報の更新時には、IMテナント拡張テーブル（im_tenant_attr）のみ更新が行われ、キースペースの作成などのApache Cassandraへの処理は行われません。
- Apache Cassandra接続情報の削除時には、IMテナント拡張テーブル（im_tenant_attr）のみ削除が行われ、キースペースの削除などのApache Cassandraへの処理は行われません。
- 接続先に指定するすべてのCassandraサーバは、同一クラスタとして構築されている必要があります。
- テナント情報の更新時には、接続できないCassandra接続情報への更新が可能となるため設定内容の変更には注意してください。
- 2014 Spring(Granada) 以降のバージョンでIMBoxモジュールを追加する場合は、テナント環境セットアップを実行する前にCassandra接続情報を更新する必要があります。

項目	必須/任意	説明
クラスタ名	必須	Cassandraサーバのクラスタ名を入力します。
キースペース	必須	Cassandraサーバのキースペースを入力します。
接続先	必須	<p>Cassandraが稼働しているサーバのIPアドレスとポート番号を入力します。</p> <p>接続先は「IPアドレス」または、「IPアドレス:ポート番号」の形式で入力します。（ポート番号を省略した場合、9160を利用します。）</p> <p>9160以外のポート番号を指定した場合、新規ノードの検出機能にてエラーが発生します。</p> <p>分散構成で複数のCassandraが稼働している場合、すべての接続先を1行ずつ入力してください。</p>
レプリケーションファクタ	必須	<p>クラスタ内部のデータのレプリカ数を入力します。</p> <p>レプリケーションファクタは、キースペース作成時のみ使用されます。</p> <p>レプリケーションファクタの値を変更する場合は、Cassandra自体に変更を行う必要があります。</p> <p>レプリケーションファクタ数の設定は、「Cassandra管理者ガイド」の「Cassandraのクラスタ構築」を参照してください。</p>
認証情報設定	任意	Cassandraへの接続における認証の利用を選択します。
認証ユーザ名	認証設定利用時のみ必須	<p>Cassandraへの認証接続における接続ユーザ名を入力します。</p> <p>認証設定利用時のみ表示されます。</p>
認証パスワード	認証設定利用時のみ必須	<p>Cassandraへの認証接続におけるパスワードを入力します。</p> <p>認証設定利用時のみ表示されます。</p>
テスト接続		<p>入力した内容でCassandraが接続可能であるかのテストが行えます。</p> <p>テナント作成時には、必ず行うことをお勧めします。</p>

Apache Solr接続情報

1. Apache Solr接続情報を入力します。

グループID	接続先
default	default

削除	グループID	接続先
<input type="checkbox"/>	option1	追加接続先1
<input type="checkbox"/>		default

更新 **削除**

**注意**

Apache Solr接続情報は、IM-ContentsSearch for Accel Platform利用時のみ表示されます。

IM-ContentsSearch for Accel Platformを利用する場合は、Apache Solrのセットアップが必要です。

Apache Solrのセットアップに関する詳細は「[Apache Solr](#)」を参照してください。

標準接続先 入力項目

項目	必須/任意	説明
グループID（標準接続先）	固定 ("default")	標準接続先のグループIDは"default"から変更することはできません。
標準接続先	必須（「Solr接続情報」ボタンが有効になっている場合のみ）	接続先を選択します。Solr接続設定に登録されている接続先がセレクトボックスに表示されます。 他のテナントの標準接続先に設定されている接続先は表示されません。 Solr接続設定が1件も登録されていない場合、Solrサーバ接続設定ファイル（solr-config.xml）に定義されているSolr接続設定（"default"）が選択項目に表示されます。

追加接続先 入力項目

項目	必須/任意	説明
接続先を追加する		追加接続先の入力項目を追加します。 追加接続先は20個まで追加可能です。
削除	任意	選択した行の追加接続先を更新時に削除します。
グループID（追加接続先）	任意	追加接続先のグループIDを入力します。 テキストボックスが空の場合は、右の接続先を選択していても更新されません。
追加接続先	任意	追加接続先を選択します。Solr接続設定に登録されている接続先がセレクトボックスに表示されます。 Solr接続設定に登録されているすべての接続先がセレクトボックスに表示されます。



コラム

追加接続先について

追加接続先はテナント管理画面で設定可能な項目です。

IM-ContentsSearch の全文検索機能では標準接続先のSolr接続先を利用します。

intra-mart Accel Platform 上の別のアプリケーションで、標準接続先とは別のSolr接続先を利用する場合に設定することを想定しています。



コラム

登録可能なSolr接続設定が存在しない場合、標準接続先・追加接続先の入力項目が表示されません。

Solr接続設定画面でSolr接続設定を登録してからSolr接続情報を編集してください。

Solr接続設定については [Solr接続設定](#) を参照してください。

The screenshot shows the 'Tenant Management' screen with the 'Solr Connection Information' tab selected. A message box displays: '登録可能なSolr接続設定がありません。' (No registered Solr connection settings exist). Below the message are 'Update' and 'Delete' buttons.

多要素認証



注意

IM-Jugglingにおいて、多要素認証機能モジュールを選択した場合のみ、この画面が表示されます。

1. 多要素認証設定情報を設定します。

The screenshot shows the 'Tenant Management' screen with the 'Multi-factor Authentication Settings' tab selected. It includes sections for 'General Settings' and 'Application Authentication Settings'. Under 'General Settings', there are fields for 'Multi-factor Authentication Policy' (radio buttons for 'Not applicable', 'User can apply at their discretion', and 'Mandatory application'), 'Number of backup codes generated' (input field '5'), 'Browser information management function' (radio buttons for 'Effective' and 'Ineffective'), and 'Browser information validity period (days)' (input field '30'). Under 'Application Authentication Settings', there is a field for 'Authentication application issuer' (input field 'intra-mart(default)').

項目

必須/任意

説明

項目	必須/任意	説明
多要素認証適用ポリシー	必須	多要素認証機能の運用に関するポリシーを以下から選択できます。
		<p>適用しない 多要素による認証を行いません。</p> <p>い</p> <p>ユーザが ユーザが個人設定の多要素認証設定を行うことにより、ログイン時にユーザコード・パスワードと多要素による認証が行われます。</p>
		<p>強制的に 多要素による認証を行うことをユーザに強制します。 多要素認証の設定が行われていないユーザに対して、ログイン時に設定を要求します。</p>
バックアップコードの生成数	必須	バックアップコードを生成する数を設定できます。
ブラウザ情報管理機能	必須	ブラウザ情報管理を有効にすることで、ユーザが多要素による認証時に認証を行うブラウザ情報を信頼済みのブラウザとして記憶できます。信頼済みのブラウザからログインを行う場合、次回のログインから多要素による認証を省略できます。
ブラウザ情報の信頼期間(日)	必須	ブラウザ情報管理機能を有効にした場合にブラウザ情報を信頼する期間を日数で設定します。設定されている日数を過ぎたブラウザでは、再び多要素による認証を要求します。
認証アプリ発行者情報	必須	認証アプリにアカウントを登録する際に付与する発行者情報を設定します。

ベクトルデータベース接続情報



注意

IM-Jugglingにおいて、**IM-Copilot** モジュールを選択した場合のみ、この画面が表示されます。



コラム

ローコードまたはプロコードでベクトルデータベースを利用する場合や以下のアシスタント機能を利用する場合は、ベクトルデータベース接続情報を設定してください。

- Wiki アシスタント
詳細は「[IM-Knowledge管理者操作ガイド](#)」の「Wiki アシスタント」を参照してください。
- SQL ビルダアシスタント
詳細は「[ViewCreator 管理者操作ガイド](#)」の「SQLビルダ アシスタント」を参照してください。



コラム

ベクトルデータベース接続情報は 2024 Autumn(Jasmine) から利用可能です。

1. ベクトルデータベース接続情報を入力します。

テナント管理

新規作成 ライセンス設定 操作 ▾ C

テナント情報	テナント環境情報	パスワード保存方式設定	多要素認証設定
ベクトルデータベース接続情報	Solr接続情報		

ベクトルデータベース接続情報

ベクトルデータベース接続情報を設定する

■ 基本設定

ベクトルデータベース種別*

■ 詳細設定

更新 削除

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by top ↑

**注意**

- intra-mart Accel Platform で標準で利用可能なベクトルデータベースは Apache Solr または PostgreSQL です。
- Apache Solr をベクトルデータベースとして利用する場合は **IM-ContentsSearch** モジュールが必要です。 IM-ContentsSearch for Accel Platform を利用する場合は、Apache Solr のセットアップが必要です。 Apache Solr のセットアップに関しての詳細は「[Solr管理者ガイド](#)」の「[Solrのベクトル検索機能の利用](#)」を参照してください。
- PostgreSQL を利用する場合は、pgvector のインストールと拡張機能の有効化が必要です。 インストール手順に関しての詳細は「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」の「[pgvector のインストール](#)」を参照してください。

項目	必須/任意	説明
ベクトルデータベース接続情報	任意	ベクトルデータベース接続情報を設定するかどうかをこのボタンで切り替えることができます。
ベクトルデータベース種別	必須	ベクトルデータベースの種別を選択します。

Apache Solr をベクトルデータベースとして使用する場合の設定方法

Solrサーバ接続設定ファイル (solr-config.xml) や「Solr接続設定」画面で登録したSolr接続情報を接続先として選択できます。

solr-config.xmlに関する詳細は「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」の「[IM-ContentsSearch](#)」を参照してください。

「Solr接続設定」画面に関する詳細は「[システム管理者操作ガイド](#)」の「[Solr接続設定](#)」を参照してください。

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by top ↑

項目	必須/任意	説明
Solr 接続先	必須	ベクトルデータベースとして使用するSolr接続情報を選択します。

PostgreSQL をベクトルデータベースとして使用する場合の設定方法

pgvector がインストールされた PostgreSQL を接続先に設定しているテナントデータベースまたはシェアードデータベースを接続先として選択できます。

コラム

PostgreSQL 以外をテナントデータベースに利用している場合も、シェアードデータベースとして PostgreSQL を用意することで使用できます。

シェアードデータベースは、データソースマッピング設定ファイル（data-source-mapping-config.xml）や「シェアードデータベース設定」画面で接続先を設定できます。

data-source-mapping-config.xmlに関する詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」の「[データソースマッピング設定](#)」を参照してください。

「シェアードデータベース設定」画面に関する詳細は「[システム管理者操作ガイド](#)」の「[シェアードデータベース設定](#)」を参照してください。

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by top ↑

項目	必須/任意	説明
接続先データベース	必須	ベクトルデータベースとして使用するデータベースを選択します。



コラム

ベクトルデータベース種別の選択候補に **pgvector** が表示されない場合について

ベクトルデータベース種別の選択候補に **pgvector** が表示されない場合は、以下の点について確認してください。

- PostgreSQL に **pgvector** がインストールされていること。
- ベクトルデータベースとして使用するデータベースの拡張機能 **vector** が有効になっていること。

```
CREATE EXTENSION vector;
```

- テナントデータベースをベクトルデータベースとして使用する場合、テナント環境情報のリソース参照名に該当データベースへの接続情報が設定されているリソース参照名が指定されていること。
- シェアードデータベースをベクトルデータベースとして使用する場合、シェアードデータベースの接続設定に該当データベースへの接続情報が登録されていること。



コラム

PostgreSQL によるベクトルデータベース構築について

PostgreSQL をベクトルデータベースとして構築する場合、通信はベクトルデータの更新・検索時に限定されるため、常時高負荷な通信が発生するわけではありません。

ただし、データ量や更新・検索の頻度によっては、適切なハードウェアリソースの調整が必要になる場合があります。

実際の運用状況に合わせてスペックを検討してください。



注意

シェアードデータベースをベクトルデータベースとして使用する場合、他のテナントで使用しているシェアードデータベースを接続先データベースに設定しないように注意してください。
ベクトルデータの格納先が重複すると、テナント固有の情報を他のテナントから更新・参照される可能性があります。



注意

Web Application Server に Oracle WebLogic Server または WebSphere Application Server を使用している環境では、シェアードデータベースをベクトルデータベースとして使用することはできません。
詳細については以下の制限事項を参照してください。

- [Oracle WebLogic Server 12c R2\(12.2.1\)](#) では、ベクトルデータベースにシェアードデータベースを利用できません。
- [WebSphere Application Server 9.0.5](#) では、ベクトルデータベースにシェアードデータベースを利用できません。

3. 各ウィザードの詳細を参考に変更内容を入力し、「更新」をクリックします。

The screenshot shows the 'Tenant Management' interface. At the top, there are tabs for 'New Creation' and 'License Settings'. Below that is a toolbar with 'Operation' and a refresh icon. The main area has tabs for 'Tenant Information', 'Tenant Environment Information', 'LDAP Connection Settings', 'Cassandra Connection Information', and 'Solr Connection Information'. The 'Tenant Information' tab is active. It contains fields for 'Tenant ID' (default), 'Default Locale' (Japanese), 'Time Zone' (Japan / Tokyo), 'Default Tenant' (checked), and 'Account License Number' (Unlimited). At the bottom, there are two buttons: 'Update' (highlighted with a red box) and 'Delete'.

4. 「決定」をクリックします。



5. テナント情報が更新されました。

The screenshot shows the "Tenant Management" page. A green message box at the top center says "テナント情報 (default) を更新しました。" (Tenant information (default) has been updated.). Below it, the "Tenant Information" tab is selected, showing the following details:

テナントID *	default
デフォルトロケール *	日本語
タイムゾーン *	(GMT+09:00) 日本 / 東京
デフォルトテナント	<input checked="" type="checkbox"/> デフォルトテナントに設定する
アカウントライセンス数 *	無制限

注意

テナント情報の更新では、テナントに紐づく情報が更新されます。
テナント環境セットアップが行われるわけではありません。

テナントを削除する

注意

テナントの削除をする前には、必ず事前に必要なバックアップを行ってください。

対象のテナントが動作していない時に削除を行ってください。
例えば以下の様な処理が行われていないよう注意してください。

- ジョブが実行中
- 非同期のキューがある状態
- アプリケーションロックのかかる処理が実行中
- ユーザがログイン中

テナント削除では以下の内容は削除されません。

- テナントデータベース
- 削除するテナントのパブリックストレージ
- Apache Cassandra の削除するテナントのキースペース
- Apache Solr に保存されているデータ

1. 「システム環境構築」→「テナント管理」をクリックします。

2. 操作中のテナントの情報が表示されます。

The screenshot shows the 'Tenant Management' interface. At the top, there are tabs for 'New Creation' and 'License Settings'. Below these are five tabs: 'Tenant Information' (selected), 'Tenant Environment Information', 'LDAP Integration Settings', 'Cassandra Connection Information', and 'Solr Connection Information'. The 'Tenant Information' tab displays the following fields:

Tenant ID *	default
Default Locale *	日本語
Time Zone *	(GMT+09:00) 日本 / 東京
Default Tenant	<input checked="" type="checkbox"/> Set as default tenant
Account License Number *	<input type="text"/> <input checked="" type="checkbox"/> Unrestricted

3. 「削除」をクリックします。

テナント管理

新規作成 ライセンス設定 操作 C

テナント情報	テナント環境情報	LDAP連携・設定	Cassandra接続情報	Solr接続情報
--------	----------	-----------	---------------	----------

テナント情報

テナントID *	default
デフォルトロケール *	日本語 ▾
タイムゾーン *	(GMT+09:00) 日本 / 東京 ▾
デフォルトテナント	<input checked="" type="checkbox"/> デフォルトテナントに設定する
アカウントライセンス数 *	<input type="text"/> <input checked="" type="checkbox"/> 無制限

更新 削除

4. 「決定」をクリックします。

テナント情報

テナントID *	secondary
デフォルトロケール *	日本語 ▾
タイムゾーン *	(GMT+09:00) 日本 / 東京 ▾
デフォルトテナント	<input type="checkbox"/> デフォルトテナントに設定する
アカウントライセンス数 *	<input type="text"/> <input checked="" type="checkbox"/> 無制限

削除確認

テナントを削除します。よろしいですか？

決定 取消し

更新 削除

5. テナントが削除されました。



テナントの新規作成

システム管理者はテナント管理画面から intra-mart Accel Platform のテナントを新たに作成できます。

テナントを新規作成する

テナント管理からテナントの新規作成を行えます。



注意

テナントの新規作成は Web Application Server が Resin の場合を対象としています。
Resin 以外の Web Application Server は、動作保証対象外です。



注意

テナントの新規作成の際は、あらかじめ新しいデータソース設定の登録が必要です。
詳しくは、「[データソース設定](#)」を参照してください。

1. 「システム環境構築」→「テナント管理」をクリックします。
2. 「新規作成」をクリックします。

The screenshot shows the 'Tenant Management' section of the system. At the top, there are tabs for 'Tenant Information', 'Tenant Environment Information', 'LDAP Connection Settings', 'Cassandra Connection Information', and 'Solr Connection Information'. A red box highlights the 'New Creation' button (新規作成) located in the top-left corner of the main content area.

3. テナントの新規作成に必要なステップが表示されます。

The screenshot shows the 'Tenant Setup' wizard. It has a progress bar at the top with steps 1 through 7. Step 1 is selected. The main area is titled 'Step 1 - Tenant Information' and contains fields for 'Tenant ID' (set to 'default'), 'Default Locale' (set to 'Japanese'), 'Time Zone' (set to '(GMT+09:00) Japan / Tokyo'), 'Default Tenant' (checkbox checked), and 'Account License Number' (set to 'Unlimited'). A 'Next' button is visible at the bottom right.

各ウィザードの詳細については下記を参照してください。

テナント情報

1. テナントの基本的な情報を設定します。

テナント設定

Step 3 - テナント情報

テナントID*	<input type="text"/>
デフォルトロケール*	日本語
タイムゾーン*	(GMT+09:00) 日本 / 東京
アカウントライセンス数*	<input type="text"/> <input checked="" type="checkbox"/> 無制限

次へ

項目	必須/任意	説明
テナントID	必須	テナントのIDを入力します。 「DataSourceマッピングの設定」の <tenant-id> で設定した値を入力します。DataSourceマッピングの設定を行っていない場合は、「default」を入力します。
デフォルトロケール	必須	テナントのデフォルトロケールを選択します。 初期表示されているロケールは、アクセスしているブラウザのロケール設定です。 このロケールは運用中に変更することは推奨していません。 運用に応じたロケールを設定してください。
タイムゾーン	必須	テナントのタイムゾーンを選択します。
アカウントライセンス数	必須	テナントのアカウントライセンス数を入力します。 テナント管理者を登録するため「1」以上を入力してください。



注意

試用版利用などにおいてサンプルデータセットアップを行う場合は、「アカウントライセンス数」は 無制限 を選択することを推奨します。

テナント環境情報

- テナントの環境情報を設定します。



コラム

「Resinデータソース設定」モジュールまたは「Payaraデータソース設定」モジュールを適用している場合、リソース参照名にセレクトボックスが表示されます。
モジュールが適用されていない場合はリソース参照名は表示されません。

テナント設定

Step 4 - テナント環境情報

リソース参照名	<input type="text"/>
ストレージパス	<input type="text"/>
ベースURL	<input type="text"/>
グローバルナビ最大表示数	<input type="text"/>
日付の入力形式の変更	<input type="radio"/> 許可する <input checked="" type="radio"/> 許可しない
時刻の入力形式の変更	<input type="radio"/> 許可する <input checked="" type="radio"/> 許可しない

次へ

項目	必須/任意	説明
リソース参照名	任意	リソース参照名を選択します。
ストレージパス	任意	ストレージパスを入力します。
ベースURL	任意	ベースURLを入力します。
グローバルナビ最大表示数	任意	グローバルナビの最大表示件数を入力します。
日付の入力形式の変更	必須	「許可する」を選択した場合、「日付と時刻の形式」にて日付の入力形式の変更が可能です。 初期値は「許可しない」です。
時刻の入力形式の変更	必須	「許可する」を選択した場合、「日付と時刻の形式」にて時刻の入力形式の変更が可能です。 初期値は「許可しない」です。



コラム

ストレージパスに storage-config.xml の <storage-directory-name> を付加したパスが、パブリックストレージパス %PUBLIC_STORAGE_PATH% です。

(例)

ストレージパスに /var/imart と入力し、設定ファイル storage-config.xml の <storage-directory-name> に storage と設定した場合、%PUBLIC_STORAGE_PATH% は /var/imart/storage です。



コラム

未指定の場合は、それぞれの設定ファイルの内容が有効です。

テナント管理者情報

- テナントの管理者を設定します。

テナント設定

Step 5 - テナント管理者情報

ユーザコード*	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
パスワード(確認)	<input type="password"/>

次へ

項目	必須/任意	説明
ユーザコード	必須	テナント管理者のユーザコードを入力します。 (例 : tenant)
パスワード	任意	テナント管理者のパスワードを入力します。
パスワード(確認)	任意	テナント管理者のパスワードを再入力します。



コラム

“任意”項目は、必要に応じて入力してください。必要がなければ入力の必要はありません。



コラム

テナント環境セットアップ中にエラーが発生してセットアップが中断してしまった場合、再度セットアップを実施してもテナント管理者は登録されません。
このように正常にテナント管理者を登録できなかった場合、テナント管理画面から改めてテナント管理者を登録することができます。
詳しくは「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[テナント管理](#)」の「テナント管理者を新規に作成する」の項を参照してください。

パスワード保存方式設定

- アカウントパスワードの保存方式を設定します。



コラム

パスワード保存方式設定は 2016 Spring(Maxima) から利用可能です。
2016 Spring(Maxima) より前のバージョンでの保存方式は「暗号化」です。

テナント設定

Step 5 – パスワード保存方式設定

① 暗号化: アカウントパスワードを暗号化して保存します。
ハッシュ化: アカウントパスワードをハッシュ化して保存し、複合化困難にします。

パスワード保存方式 * 暗号化 ハッシュ化

⚠️ 一度パスワード保存方式を「ハッシュ化」に設定すると、その後設定を変更することはできません。
設定値をよく確認した上で設定を行ってください。

⚠️ 「ハッシュ化」に設定することで一部の機能がご利用いただけなくなります。
詳しくは製品のドキュメントを参照してください。

ハッシュアルゴリズム *	SHA-256 ▾
ソルト値 *	inramart <small>① ここで設定した値をソルトに付加します。 パスワードにソルトを付加してハッシュ処理を行うことで変換元のパスワードの特定が難しくなります。</small>
ストレッチング回数 *	1000 <small>① ここで設定した数だけハッシュ処理を繰り返しています。 ストレッチングの回数が多いほど変換元のパスワードの特定が難しくなります。</small>

次へ

項目	必須/任意	説明
パスワード保存方式	必須	<p>データベース内で保持するアカウントパスワードの保存方式です。 以下の2つの方を選択可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 暗号化 : アカウントパスワードを暗号化して保存します。キーを用いる事でパスワードの復号化(平文パスワードの取得)が可能です。 ■ ハッシュ化 : アカウントパスワードのハッシュ値を保存します。復号化(平文パスワードの取得)はできません。

注意

「ハッシュ化」を選択し登録した場合、以下の制限があります。

- 設定値を基にアカウントパスワードのハッシュ化を行うため一度設定した「ハッシュ化」の設定値を変更することはできません
- 平文パスワードを復元する方法が失われるため「暗号化」に戻すことは出来ません
- 平文パスワードを復元する方法が失われるため一部の機能がご利用いただけなくなります
 - 詳細は [要件情報公開サイト](#) を参照してください

以下の項目はパスワード保存方式で「ハッシュ化」を選択した場合のみ入力必須です。

項目	必須/任意	説明
ハッシュアルゴリズム	必須	<p>ハッシュ文字列を生成する計算式（関数）です。 intra-mart Accel Platform では以下の値が利用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SHA-256 ■ SHA-384 ■ SHA-512

項目	必須/任意	説明
ソルト値	必須	<p>ハッシュ文字列を生成するためのパラメータの1つです。</p> <p>パスワードのハッシュ化において、パスワード値にソルト値を付与した値に対してハッシュアルゴリズムによる計算を行った値がハッシュ文字列（パスワードとして保存される値）となります。</p> <p>ソルト値はユーザ毎に異なる値を利用するため、異なるユーザが同じパスワードを利用していた場合も保存されている値は異なる値となります。</p> <p>ソルト値の生成式は以下の通りです。</p> <pre>対象ユーザのユーザコード + " " + テナントID + " " + テナント属性で永続化されているソルトサフィックス</pre>
ストレッ칭回数	必須	<p>ハッシュ文字列を生成するためのパラメータの1つです。</p> <p>パスワードのハッシュ化において、ハッシュアルゴリズムによる計算をストレッチング数の回数繰り返して生成された値がハッシュ文字列（パスワードとして保存される値）となります。</p> <p>ストレッ칭回数が多いほどパスワードの特定が難しくなりますが、ハッシュ化するための負荷が高くなります。</p>

LDAP連携・設定



注意

IM-Jugglingにおいて、 **LDAP認証モジュール** を選択した場合のみ、この画面が表示されます。

1. LDAP連携・設定 情報を設定します。

テナント設定

Step 1 Step 2 Step 3 Step 4 Step 5 Step 6 Step 7 Step 8

Step 9

Step 6 - LDAP連携・設定

設定内容 *

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<ldap-certification-config xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/security/certification/provider/ldap">
  <enable>false</enable>
  <load-balancing>false</load-balancing>
  <attempt-on-failed-authentication>true</attempt-on-failed-authentication>
  <log>false</log>
  <ldap-servers>
    <ldap-server>
      <permit-no-password>true</permit-no-password>
      <provider-uri>ldap://localhost:389</provider-uri>
      <context-factory>com.sun.jndi.ldap.LdapCtxFactory</context-factory>
      <base-dn>dc=ldaps,dc=intra,dc=intra-mart,dc=jp</base-dn>
      <search-filter>sAMAccountName=?</search-filter>
      <search-controls>
        <connect-timeout-property-name>com.sun.jndi.ldap.connect.timeout</connect-timeout-property-name>
        <connect-timeout>0</connect-timeout>
        <searching-dn>sAMAccountName=admin,cn=User,dc=ldaps,dc=intra,dc=intra-mart,dc=jp</searching-dn>
        <searching-pw>*****</searching-pw>
        <count-limit>0</count-limit>
        <time-limit>0</time-limit>
      </search-controls>
    </ldap-server>
  </ldap-servers>
</ldap-certification-config>
```

次へ



コラム

初期表示は IM-Juggling のプロジェクト /conf/ldap-certification-config.xml の内容が表示されます。
ただし、<enable>タグの値は false となっています。



注意

<enable>タグの内容がtrueである場合のみLDAP認証が有効となります。
LDAP認証を有効とする場合、認証先であるLDAPの設定を正しく行ってください。

項目	必須/任意	説明
設定内容	必須	LDAP認証の有効/無効、および、認証先であるLDAPの情報を入力します。 入力内容については「 intra-mart Accel Platform セットアップガイド 」 - 「 LDAP認証設定ファイル 」の説明を参照してください。

ログインセッション管理



注意

IM-Jugglingにおいて、**ログインセッション管理モジュール**を選択した場合のみ、この画面が表示されます。

- 一般ユーザのログイン時に二重ログインを検出した場合の動作を設定します。

テナント設定

Step 7 - ログインセッション管理

一般ユーザがログインした時に二重ログインを検出した場合の動作を設定します。

標準の認証エラーページを表示する
 二重ログインの検出を表示する
 ログインユーザによるセッションの無効化を許可する

次へ

ログインセッション管理の設定内容は以下のとおりです。

- 標準の認証エラーページを表示する
標準の認証エラーページを表示します。
- 二重ログインの検出を表示する
二重ログインを検出したことを一般ユーザに通知します。
一般ユーザは通知された画面からログインを再試行することができます。
- ログインユーザによるセッションの無効化を許可する
二重ログインを検出したことを一般ユーザに通知します。
一般ユーザは通知された画面からログイン中のセッションを強制的に無効化しログインすることができます。

Apache Cassandra接続情報



注意

IM-Jugglingにおいて、**IMBoxモジュール**を選択した場合のみ、この画面が表示されます。

- Apache Cassandra接続情報を入力します。

テナント設定

クラスタ名*	IMBox Cluster
キースペース*	default
接続先*	127.0.0.1:9160
レプリケーションファクタ*	1
認証情報設定	<input checked="" type="checkbox"/> 設定する <small>認証情報が必要なCassandraへの接続時のみ、設定してください。 認証情報を設定する場合には書き込み権限の確認を行いうため、事前にキースペースを作成しておく必要があります。</small>
認証ユーザ名*	admin
認証パスワード*
<input type="button" value="テスト接続"/>	
<input type="button" value="次へ"/>	



注意

Apache Cassandra接続情報はIMBox利用時のみ表示されます。

テナント環境セットアップを実行する前にApache Cassandraの設定、起動が行われている必要があります。

Apache Cassandraの設定に関しての詳細は「[IMBox Cassandra管理者ガイド](#)」を参照してください。

項目	必須/任意	説明
クラスタ名	必須	Cassandraサーバのクラスタ名を入力します。 (例 : IMBox Cluster)
キースペース	必須	Cassandraサーバのキースペースを入力します。 (例 : default)
接続先	必須	Cassandraが稼働しているサーバのIPアドレスとポート番号を入力します。 接続先は「IPアドレス」または、「IPアドレス:ポート番号」の形式で入力します。 (ポート番号を省略した場合、9160を利用します。) 9160以外のポート番号を指定した場合、新規ノードの検出機能にてエラーが発生します。 分散構成で複数のCassandraが稼働している場合、すべての接続先を1行ずつ入力してください。 (例 : 127.0.0.1:9160)
レプリケーションファクタ	必須	クラスタ内部のデータのレプリカ数を入力します。 レプリケーションファクタは、キースペース作成時のみ使用されます。 (例 : 1)
認証情報設定	任意	Cassandraへの接続における認証の利用を選択します。 認証情報を設定する場合には書き込み権限の確認を行いうため、事前にキースペースを作成しておく必要があります。
認証ユーザ名	認証設定利用時のみ必須	Cassandraへの認証接続における接続ユーザ名を入力します。 認証設定利用時のみ表示されます。 (例 : admin)
認証パスワード	認証設定利用時のみ必須	Cassandraへの認証接続におけるパスワードを入力します。 認証設定利用時のみ表示されます。 (例 : admin)

項目	必須/任意	説明
テスト接続		入力した内容でCassandraが接続可能であるかのテストが行えます。テナント作成時には、必ず行うことを推奨します。

i コラム

“任意”項目は、必要に応じて入力してください。必要がなければ入力の必要はありません。

i コラム

Cassandra接続情報の登録時の初期値は、Cassandraサーバ接続設定（cassandra-config.xml）の設定値となります。

cassandra-config.xmlに関する詳細は「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「IMBox」を参照してください。

Apache Solr接続情報

! 注意

- IM-Jugglingにおいて、 **IM-ContentsSearch**モジュール を選択した場合のみ、この画面が表示されます。
- IM-ContentsSearch for Accel Platformを利用する場合は、Apache Solrのセットアップが必要となります。

Apache Solrのセットアップに関しての詳細は「[Apache Solr](#)」の「セットアップ」を参照してください。

1. Apache Solr接続情報を入力します。

The screenshot shows the 'Tenant Setup' interface with Step 8 selected. The main area is titled 'Step 8 - Solr接続情報'. It contains a note: 'このタイミングで設定せずに、テナント環境セットアップ実行後にテナント管理画面で設定することも可能です。' (You can also set it up later in the tenant management screen after the tenant environment setup is completed). Below is a table with two rows: 'グループID' (Group ID) set to 'default' and '標準接続先' (Default Connection) also set to 'default'. A '次へ' (Next) button is at the bottom.

項目	必須/任意	説明
Solr接続情報を設定する	任意	テナント環境セットアップ時にApache Solr接続情報を設定するかどうかをこのボタンで切り替えることができます。 「Solr接続情報」ボタンを未選択状態にすることで、Apache Solr接続情報を設定せずにテナント環境セットアップを実行することができます。
グループID	固定("default")	標準接続先のグループIDは"default"から変更することはできません。
標準接続先	必須 (「Solr接続情報」ボタンが有効になっていない場合のみ)	接続先を選択します。 「Solr接続情報」ボタンが選択状態になっている場合のみ選択することができます。 他のテナントの標準接続先に設定されている接続先は表示されません。

Solr接続情報の設定方法

テナント環境セットアップ時に、システムデータベースへ登録するSolr接続情報を設定する方法は以下の通りです。

- 設定ファイルから変更する方法

初回のテナント環境セットアップ前にSolrサーバ接続設定ファイル（solr-config.xml）を設定しておくことで、solr-config.xmlの設定（<group name="default">）で定義されている設定値がSolr接続情報としてシステムデータベースへ登録されます。

Solrサーバ接続設定ファイル（solr-config.xml）は初回のテナント環境セットアップ時、または、Solr接続設定が1件も登録されていない場合に標準接続先の項目として利用します。

solr-config.xmlに関する詳細は「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「[IM-ContentsSearch](#)」を参照してください。

- 画面から変更する方法

別のテナントを新規作成するときは「Solr接続設定」画面で登録したSolr接続情報が標準接続先の選択項目として表示されます。

システム管理者メニューのテナント管理画面で、作成したテナントにApache Solr接続情報を設定することができます。

「Solr接続設定」画面に関する詳細は「[システム管理者操作ガイド](#)」 - 「[Solr接続設定](#)」を参照してください。

多要素認証



注意

IM-Jugglingにおいて、多要素認証機能モジュールを選択した場合のみ、この画面が表示されます。

1. 多要素認証機能の動作を設定します。

The screenshot shows the 'Tenant Settings' configuration interface. At the top, there is a navigation bar with a back arrow and a 'Next' button. Below it is a horizontal bar with icons for each step from 1 to 10. Step 7 is highlighted. The main area is titled 'Step 7 - Multi-factor Authentication configuration'. It contains two sections: 'General Settings' and 'Application Authentication Settings'. In 'General Settings', there is a field for 'Multi-factor authentication policy' with three radio button options: 'Not applicable', 'User can choose', and 'Mandatory'. Other fields include 'Number of backup codes' (set to 5), 'Browser information management function' (set to 'Ineffective'), and 'Browser information validity period (days)' (set to 30). In 'Application Authentication Settings', there is a field for 'Authentication application publisher information' with a dropdown menu showing 'intra-mart(default)'. At the bottom right is a 'Next' button.

項目	必須/任意	説明
多要素認証適用ポリシー	必須	多要素認証機能の運用に関するポリシーを以下から選択できます。 適用しない 多要素による認証を行いません。 い ユーザが ユーザが個人設定の多要素認証設定を行うことにより、ログイン時にユーザコード・パスワードと多要素による認証が行われます。 強制的に 多要素による認証を行うことをユーザに強制します。多要素認証の設定が行われていないユーザに対して、ログイン時に設定を要求します。
バックアップコードの生成数	必須	バックアップコードを生成する数を設定できます。

項目	必須/任意	説明
ブラウザ情報管理機能	必須	ブラウザ情報管理を有効にすることで、ユーザが多要素による認証時に認証を行うブラウザ情報を信頼済みのブラウザとして記憶できます。 信頼済みのブラウザからログインを行う場合、次回のログインから多要素による認証を省略できます。
ブラウザ情報の信頼期間(日)	必須	ブラウザ情報管理機能を有効にした場合にブラウザ情報を信頼する期間を日数で設定します。 設定されている日数を過ぎたブラウザでは、再び多要素による認証を要求します。
認証アプリ発行者情報	必須	認証アプリにアカウントを登録する際に付与する発行者情報を設定します。

ベクトルデータベース接続情報



注意

- IM-Jugglingにおいて、IM-Copilot モジュールを選択した場合のみ、この画面が表示されます。
- intra-mart Accel Platformで標準で利用可能なベクトルデータベースはApache SolrまたはPostgreSQLです。
- Apache Solrをベクトルデータベースとして利用する場合はIM-ContentsSearchモジュールが必要です。
IM-ContentsSearch for Accel Platformを利用する場合は、Apache Solrのセットアップが必要です。
Apache Solrのセットアップに関しての詳細は「Solr管理者ガイド」の「Solrのベクトル検索機能の利用」を参照してください。
- PostgreSQLを利用する場合は、pgvectorのインストールと拡張機能の有効化が必要です。
インストール手順に関しての詳細は「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」の「pgvectorのインストール」を参照してください。



コラム

ローコードまたはプロコードでベクトルデータベースを利用する場合や以下のアシスタント機能を利用する場合は、ベクトルデータベース接続情報を設定してください。

- Wikiアシスタント
詳細は「IM-Knowledge管理者操作ガイド」の「Wikiアシスタント」を参照してください。
- SQLビルダアシスタント
詳細は「ViewCreator管理者操作ガイド」の「SQLビルダアシスタント」を参照してください。



コラム

ベクトルデータベース接続情報は2024 Autumn(Jasmine)から利用可能です。

1. ベクトルデータベース接続情報を入力します。

テナント設定

Step 8 - ベクトルデータベース接続情報

ベクトルデータベース接続情報を設定する

基本設定

ベクトルデータベース種別*

詳細設定

次へ

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

項目	必須/任意	説明
ベクトルデータベース接続情報	任意	テナント環境セットアップ時にベクトルデータベース接続情報を設定するかどうかをこのボタンで切り替えることができます。 ボタンを未選択状態にすることで、ベクトルデータベース接続情報を設定せずにテナント環境セットアップを実行することができます。
ベクトルデータベース種別	必須	ベクトルデータベースの種別を選択します。

Apache Solr をベクトルデータベースとして使用する場合の設定方法

Solrサーバ接続設定ファイル（solr-config.xml）や「Solr接続設定」画面で登録したSolr接続情報を接続先として選択できます。

solr-config.xmlに関する詳細は「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」の「[IM-ContentsSearch](#)」を参照してください。

「Solr接続設定」画面に関する詳細は「[システム管理者操作ガイド](#)」の「[Solr接続設定](#)」を参照してください。

テナント設定

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5	Step 6	Step 7	Step 8	
Step 9	Step 10							

Step 8 - ベクトルデータベース接続情報

ベクトルデータベース接続情報を設定する

基本設定

ベクトルデータベース種別 *

詳細設定

Solr 接続先 *

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by top ↑

項目	必須/任意	説明
Solr 接続先	必須	ベクトルデータベースとして使用するSolr接続情報を選択します。

PostgreSQL をベクトルデータベースとして使用する場合の設定方法

pgvector がインストールされた PostgreSQL を接続先に設定しているテナントデータベースまたはシェアードデータベースを接続先として選択できます。

コラム

PostgreSQL 以外をテナントデータベースに利用している場合も、シェアードデータベースとして PostgreSQL を用意することで使用できます。

シェアードデータベースはデータソースマッピング設定ファイル（data-source-mapping-config.xml）や「シェアードデータベース設定」画面で接続先を設定できます。

data-source-mapping-config.xmlに関する詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」の「[データソースマッピング設定](#)」を参照してください。

「シェアードデータベース設定」画面に関する詳細は「[システム管理者操作ガイド](#)」の「[シェアードデータベース設定](#)」を参照してください。

テナント設定

Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5	Step 6	Step 7	Step 8
Step 9	Step 10						

Step 8 - ベクトルデータベース接続情報

ベクトルデータベース接続情報を設定する

基本設定

ベクトルデータベース種別 * pgvector

詳細設定

接続先データベース * テナントデータベース

次へ

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

項目	必須/任意	説明
接続先データベース	必須	ベクトルデータベースとして使用するデータベースを選択します。



コラム

ベクトルデータベース種別の選択候補に pgvector が表示されない場合について

ベクトルデータベース種別の選択候補に pgvector が表示されない場合は、以下の点について確認してください。

- PostgreSQL に pgvector がインストールされていること。
- ベクトルデータベースとして使用するデータベースの拡張機能 vector が有効になっていること。

```
CREATE EXTENSION vector;
```

- テナントデータベースをベクトルデータベースとして使用する場合、テナント環境情報のリソース参照名に該当データベースへの接続情報が設定されているリソース参照名が指定されていること。
- シェアードデータベースをベクトルデータベースとして使用する場合、シェアードデータベースの接続設定に該当データベースへの接続情報が登録されていること。



コラム

PostgreSQL によるベクトルデータベース構築について

PostgreSQL をベクトルデータベースとして構築する場合、通信はベクトルデータの更新・検索時に限定されるため、常時高負荷な通信が発生するわけではありません。

ただし、データ量や更新・検索の頻度によっては、適切なハードウェアリソースの調整が必要になる場合があります。

実際の運用状況に合わせてスペックを検討してください。



注意

シェアードデータベースをベクトルデータベースとして使用する場合、他のテナントで使用しているシェアードデータベースを接続先データベースに設定しないように注意してください。
ベクトルデータの格納先が重複すると、テナント固有の情報を他のテナントから更新・参照される可能性があります。



注意

Web Application Server に Oracle WebLogic Server または WebSphere Application Server を使用している環境では、シェアードデータベースをベクトルデータベースとして使用することはできません。
詳細については以下の制限事項を参照してください。

- [Oracle WebLogic Server 12c R2\(12.2.1\)](#) では、ベクトルデータベースにシェアードデータベースを利用できません。
- [WebSphere Application Server 9.0.5](#) では、ベクトルデータベースにシェアードデータベースを利用できません。

登録

1. 各ステップの設定が完了したら、「登録」をクリックします。



注意

セットアップでエラーが発生した場合、「[セットアップで困ったら・・・](#)」を参照してください。

セットアップが完了すると、下記の画面が表示されます。

セットアップ結果				
処理結果	モジュールID	インポート種別	インポート対象名	エラーメッセージ
✓	im_javamail	EXTENSION	jp.co.intra_mart.system.mail.template.migration.MailTemplateMigrator	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_tenant_common/im_tenant_common-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_authz/im_authz-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_menu/im_menu-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_password_history/im_password_history-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_en.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_ja.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_zh_CN.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_en.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_ja.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_zh_CN.xml	-
...

4. テナント作成に成功すると、操作中のテナントが切り替わります。

セットアップ結果				
処理結果	モジュールID	インポート種別	エラーメッセージ	
✓	im_javamail	EXTENSION	jp.co.intra_mart.system.mail.template.migration.MailTemplateMigrator	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_tenant_common/im_tenant_common-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_authz/im_authz-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_menu/im_menu-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_password_history/im_password_history-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_en.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_ja.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_zh_CN.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_en.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_ja.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_zh_CN.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_authz/im_authz-role.xml	-
...

ライセンス設定

操作中のテナントに対してライセンスの管理を行うことができます。

利用中のライセンス数の確認とテナントに付与するライセンス数を設定することができます。

パーティカルテナントによる複数テナントが存在する場合には、システム管理者がそれぞれのテナントに対して、ライセンス数を割り当てる必要があります。

アカウントライセンスを除いた各アプリケーションのテナントに付与されるライセンスの初期値は0です。

そのためライセンスの付与数を設定しない場合はアプリケーションを利用できません。

テナントのライセンス数を設定する

1. 「システム環境構築」→「テナント管理」をクリックします。

2. 「ライセンス設定」をクリックします。

テナント管理

新規作成 ライセンス設定

操作 C

テナント情報	テナント環境情報	LDAP連携・設定	Cassandra接続情報	Solr接続情報
--------	----------	-----------	---------------	----------

テナント情報

テナントID * default
デフォルトロケール * 日本語
タイムゾーン * (GMT+09:00) 日本 / 東京
デフォルトテナント デフォルトテナントに設定する
アカウントライセンス数 無制限

3. テナントのライセンス数を入力し、「設定」クリックします。

テナント管理 - ライセンス設定

◀ C

ライセンス情報			
アプリケーション名	利用中のライセンス数	テナントのライセンス数	設定済み / 最大ライセンス数
アカウントライセンス	1	<input type="text" value="100"/> <input type="checkbox"/> 無制限	Infinity / Infinity
intra-mart Accel Collaboration	0	<input type="text" value="0"/> <input type="checkbox"/> 無制限	0 / Infinity

設定

4. 「決定」をクリックします。



5. テナントのライセンス数を設定することができました。



注意

最大ライセンス数は、バーチャルテナントによる複数テナントが存在する場合に、全てのテナントに割り当てることができる合計のライセンス数です。

存在するテナントのライセンス数の合計値が最大ライセンス数を超えることはできません。

すでにアカウントにライセンスが割り当てられている場合は、その割り当てられている数より小さい値に変更することはできません。

i コラム

テナントに付与したライセンスはテナントの管理画面でユーザに付与することができます。

詳細は以下のドキュメントを参照してください。

- 「テナント管理者操作ガイド」
 - 「アカウントライセンス一覧を使用する」
 - 「アプリケーションライセンス一覧を使用する」

または、IM-共通マスターのユーザ管理画面で設定することもできます。

詳細は「[IM-共通マスター 管理者操作ガイド](#)」 - 「[ユーザ](#)」の「アカウント」タブ、「ロール」タブについてを参照してください。

テナントの操作を行う

テナントに対して行うことができる操作は、以下の通りです。

▪ [テナント管理者を新規に作成する](#)

テナントに対して新しいテナント管理者権限を持つユーザを登録します。

システム管理者がテナントのユーザとして一時的にログインする場合や、テナント環境セットアップでテナント管理者が作成されなかった場合に実行します。

▪ [管理者用認可リソースを復旧する](#)

認可設定を行うための最低限の認可リソースを復旧します。

認可設定に関する認可リソースが誤って削除されてしまい、認可設定が画面上から行えなくなってしまった場合に実行します。

▪ [特定のユーザに認可設定権限を付与する](#)

テナントに登録されているユーザに対して認可設定権限を与えます。

また、ユーザの有効期限設定、ロック状態を初期化し、アカウントライセンスが付与されていない場合は付与してログイン可能な状態にします。

既存のテナント管理者が何らかの理由でログインできなくなった場合や、認可設定が可能なユーザが不在となった場合に実行します。

テナント管理者を新規に作成する

1. 「システム環境構築」 → 「テナント管理」をクリックします。

2. 「操作」 → 「テナント管理者の作成」をクリックします。

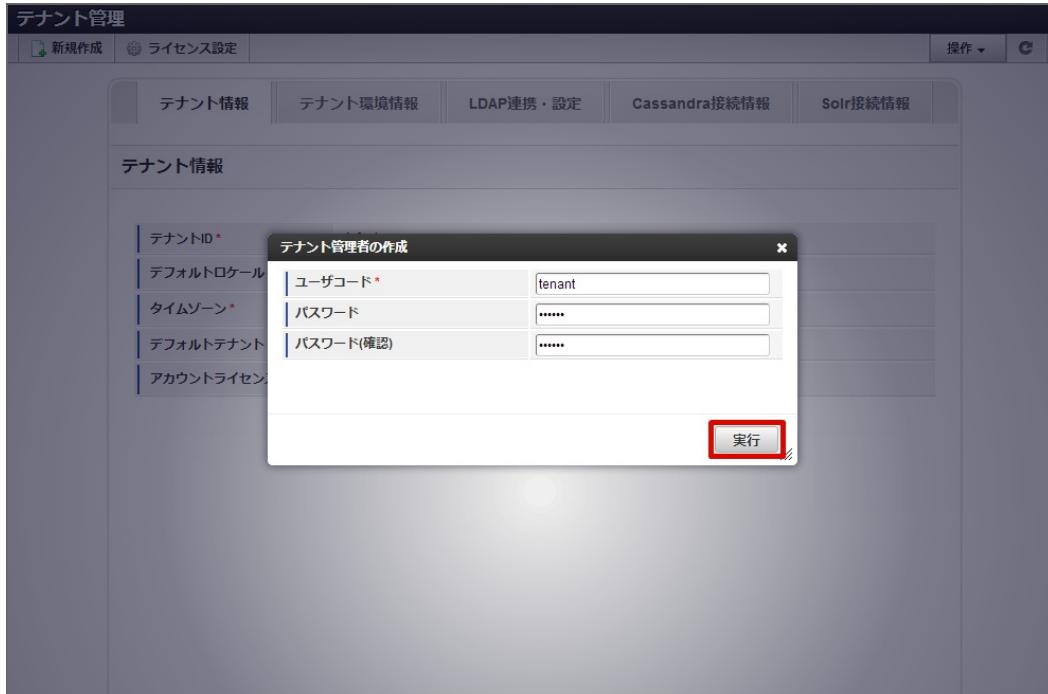
The screenshot shows the 'Tenant Management' screen. At the top, there is a navigation bar with tabs: 'New Creation' (新規作成), 'License Settings' (ライセンス設定), and 'Operation' (操作). The 'Operation' tab has a dropdown menu with the option 'Create Tenant Manager' (テナント管理者の作成) highlighted with a red box. Below the navigation bar, there are several tabs: 'Tenant Information' (テナント情報), 'Tenant Environment Information' (テナント環境情報), 'LDAP Integration Settings' (LDAP連携・設定), 'Cassandra Connection Information' (Cassandra接続情報), 'Reset Management Authorization Resources' (管理用認可リソースの復旧), and 'Grant Authorization Rights' (認可設定権限の付与). The 'Tenant Information' tab is currently selected. In the main area, there is a form with the following fields:

Tenant ID *	default
Default Locale *	日本語
Time Zone *	(GMT+09:00) 日本 / 東京
Default Tenant	<input checked="" type="checkbox"/> Set as default tenant
Account License Number	100 <input type="checkbox"/> Unrestricted

3. 「ユーザコード」にテナント管理権限を与えるユーザコードを入力します。

パスワードを設定する場合は、「パスワード」「パスワード（確認用）」を入力します。

4. 「実行」をクリックします。



5. テナント管理者を作成することができました。



コラム

作成するユーザのロール

この操作で作成するユーザには自動的に「テナント管理者」ロールが付与されます。

「テナント管理者」ロールが存在しない場合、ロールは付与されませんがユーザは作成されます。

対象のユーザにアカウントライセンスを付与できない場合

この操作で作成するユーザには自動的にアカウントライセンスが付与されます。

アカウントライセンスの上限に達したなどの理由でアカウントライセンスを付与できない場合、アカウントライセンスは付与されませんがユーザは作成されます。

アカウントライセンスが必要な場合は、テナント管理画面でアカウントライセンス数を増やした後、「認可設定権限の付与」からアカウントライセンスを付与してください。

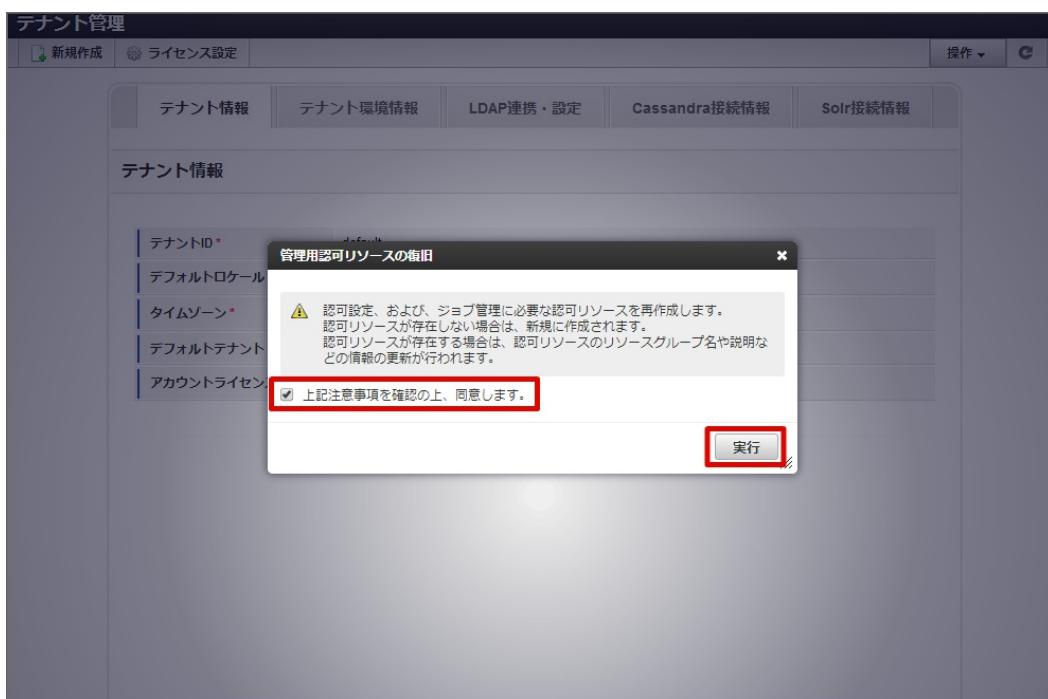
管理者用認可リソースを復旧する

1. 「システム環境構築」→「テナント管理」をクリックします。

2. 「操作」→「管理用認可リソースの復旧」をクリックします。



3. 表示されている注意事項を読み、「上記注意事項を確認の上、同意します。」のチェックボックスをオンにして、「実行」をクリックします。



4. 管理者用認可リソースを復旧することができました。



コラム

復旧する認可リソース

復旧する認可リソースは、以下の通りです。

- 「画面・処理」→「認可」→「認可設定（Ajax）」
- 「画面・処理」→「認可」→「認可設定（基本画面）」
- 「画面・処理」→「認可」→「認可設定（ポップアップ）」
- 「画面・処理」→「ジョブ管理」→「ジョブ管理」
- 「画面・処理」→「ジョブ管理」→「ジョブネットモニター一覧」



注意

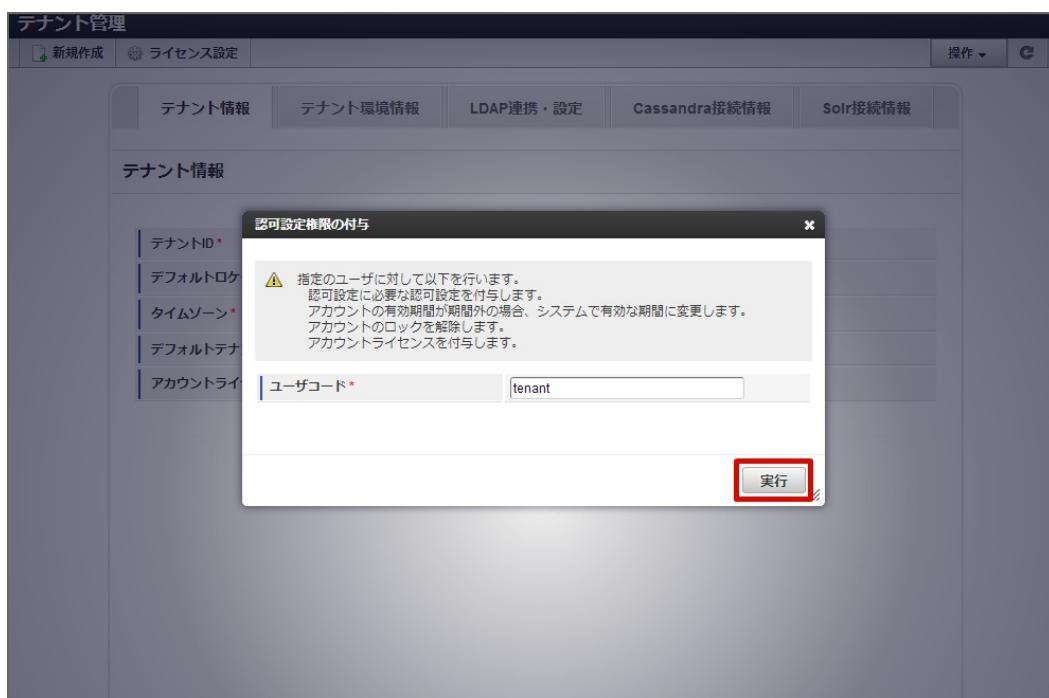
- 復旧する認可リソースの一部がすでに登録済みの場合、対象の認可リソースの名称は初期値に戻ります。
- 権限設定（認可ポリシー）は設定されませんので、リソースを復旧後に認可設定画面を開くことができるユーザーでログインし、認可設定画面から適宜権限を付与してください。

特定のユーザーに認可設定権限を付与する

1. 「システム環境構築」→「テナント管理」をクリックします。
2. 「操作」→「認可設定権限の付与」をクリックします。



3. 付与対象のユーザの「ユーザコード」を入力し、「実行」をクリックします。



4. 認可設定権限を付与することができました。



コラム

設定する認可の権限設定（認可ポリシー）

権限設定を行う対象の認可リソースは、以下の通りです。

- 「画面・処理」 → 「認可」 → 「認可設定（Ajax）」
- 「画面・処理」 → 「認可」 → 「認可設定（基本画面）」

対象のユーザにアカウントライセンスを付与できない場合

この操作で権限を付与するユーザには自動的にアカウントライセンスが付与されます。

アカウントライセンスの上限に達したなどの理由でアカウントライセンスを付与できない場合、アカウントライセンスは付与されません。

アカウントライセンスが必要な場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- テナント管理画面でアカウントライセンス数を増やした後、再実行してください。
- アカウントライセンスがすでに付与されているユーザに対して、再実行してください。



注意

- この操作では指定したユーザコードに対応する対象者条件（認可サブジェクトグループ）を作成します。テナントの状態を正常な状態に復旧した後は、認可設定画面から対象の対象者条件を削除してください。登録される対象者条件の名称は、以下の通りです。
 - 「テナント復旧用:<ユーザコード>」
- この操作では指定したユーザがログイン可能になるよう、有効期限、ロック状態、アカウントライセンスの付与状態を変更します。テナントの状態を正常な状態に復旧した後は、必要に応じてユーザの状態を再設定してください。

テナント環境セットアップ

モジュールやアプリケーションを新たに追加した場合、再度テナント環境セットアップをおこないます。

初期導入時のテナント環境セットアップ、サンプルデータセットアップは「セットアップガイド」を参照してください。



注意

バーチャルテナントによる複数テナントが存在する場合には、すべてのテナントに対してテナント環境セットアップを行ってください。

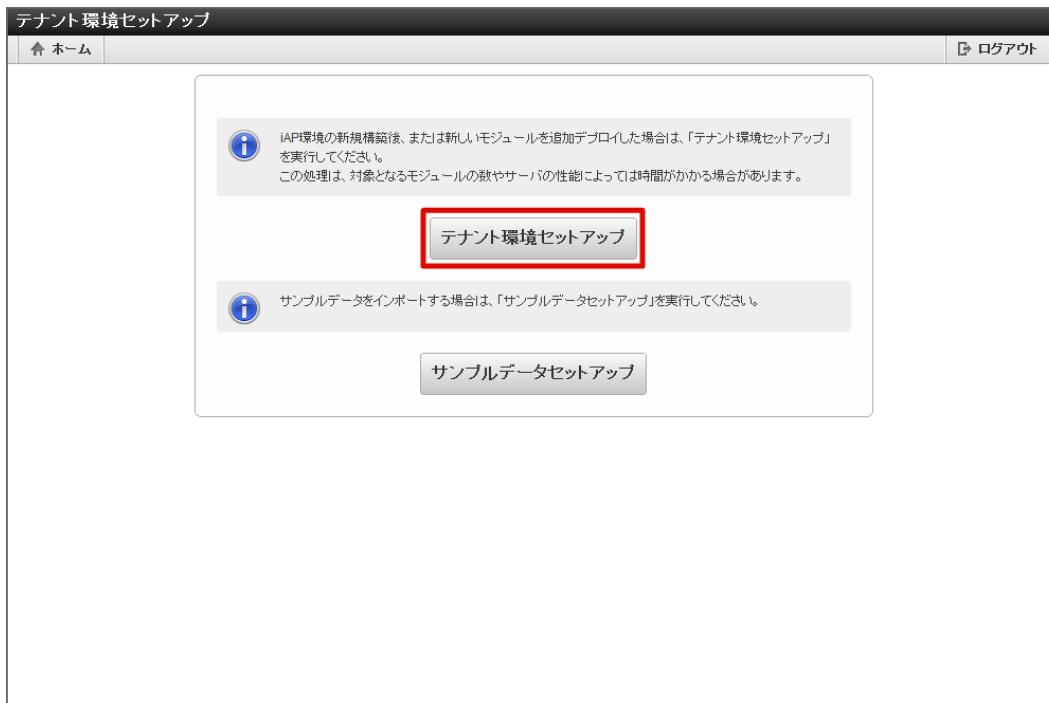


注意

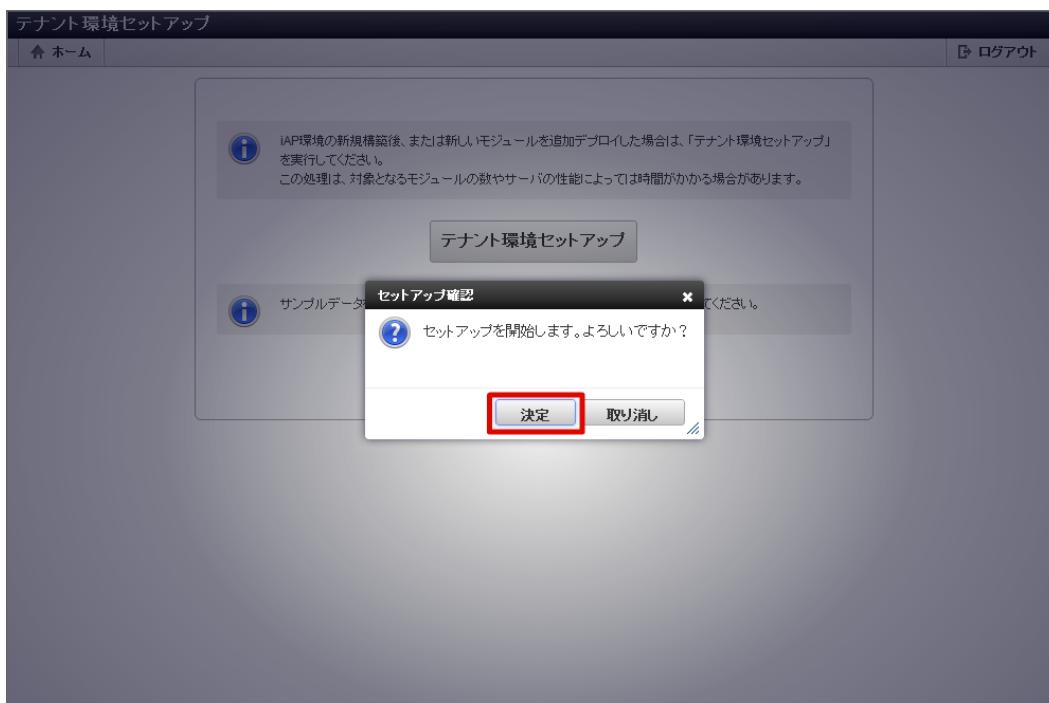
サンプルデータセットアップは更新情報を管理していません。
その為、複数回実行するとデータベースエラーが発生する可能性があります。

追加モジュールの環境セットアップをおこなう

1. 「システム環境構築」→「テナント環境セットアップ」をクリックします。
2. 「テナント環境セットアップ」をクリックします。



3. 「決定」をクリックします。



4. テナント環境セットアップが完了し、追加モジュールの環境セットアップができました。

セットアップ結果				
処理結果	モジュールID	インポート種別	インポート対象名	エラーメッセージ
✓	forma	DDL	products/import/basic/forma/forma-ddl_create.sql	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-role.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-role_en.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-role_ja.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-role_zh_CN.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-menu-group.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-menu-group_ja.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-menu-group_en.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-menu-group_zh_CN.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-authz-resource-group.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-authz-resource-group_ja.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-authz-resource-group.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-authz-resource.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-authz-resource_ja.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-authz-resource.xml	-
✓	forma	DML	products/import/basic/forma/forma-authz-resource.xml	-

注意

テナント環境セットアップボタンは更新するデータが存在しない（システムが最新の状態になっている）場合、表示されません。

Solr接続設定

intra-mart Accel Platform のSolr接続設定の表示、登録、更新を行います。

注意

Solr接続設定は、IM-ContentsSearch for Accel Platform利用時のみの設定です。

目次

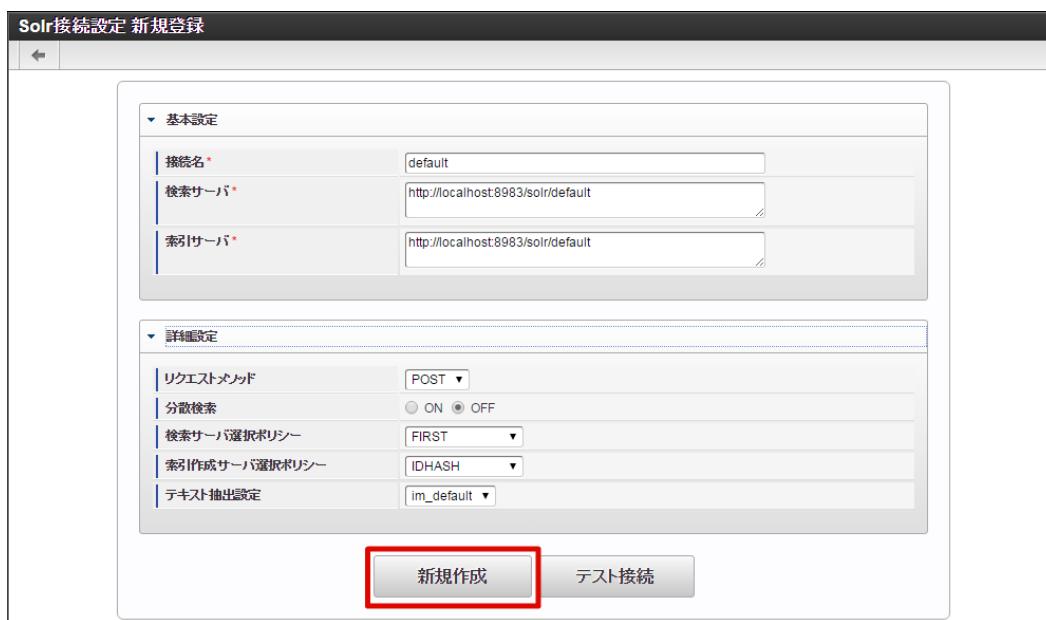
- [Solr接続設定を登録する](#)
- [Solr接続設定を参照する](#)
- [Solr接続設定を更新する](#)
- [Solr接続設定 入力項目](#)

Solr接続設定を登録する

1. 「システム環境構築」→「Solr接続設定」をクリックします。
2. 「新規作成」をクリックします。



3. 内容を入力し、「新規作成」をクリックします。



4. 「決定」をクリックします。



5. Solr接続設定を登録できました。

The screenshot shows the 'Solr接続設定一覧' (Solr Connection Settings List) page. At the top right, there is a green message box that says 'Solr接続設定を登録しました。' (Solr connection setting registered). The main table has one row with the following data:

接続名	利用中のテナント	検索サーバ	索引サーバ
default		http://localhost:8983/solr/default	http://localhost:8983/solr/default

At the bottom of the page, there is a navigation bar with buttons for back, forward, search, and page numbers, followed by the text '1件中 1-1を表示' (1 item displayed).



コラム

テスト接続する場合

「テスト接続」をクリックします。

Solr接続設定を参照する

1. 「システム環境構築」→「Solr接続設定」をクリックします。
2. 参照したいSolr接続設定の接続名をクリックします。

The screenshot shows the same 'Solr接続設定一覧' (Solr Connection Settings List) page. The 'default' row in the table is highlighted with a red box. The rest of the table data is identical to the previous screenshot.

3. Solr接続設定の詳細が表示されます。

Solr接続設定 編集

基本設定 接続名*: default 検索サーバ*: http://localhost:8983/solr/default 索引サーバ*: http://localhost:8983/solr/default	
詳細設定 リクエストメソッド: POST 分散検索: ON OFF 検索サーバ選択ポリシー: FIRST 索引作成サーバ選択ポリシー: IDHASH テキスト抽出設定: im_default	
<input type="button" value="更新"/> <input type="button" value="テスト接続"/>	

Solr接続設定を更新する

- 「システム環境構築」→「Solr接続設定」をクリックします。
- 更新したいSolr接続設定の接続名をクリックします。

Solr接続設定 一覧

Solr接続設定 一覧			
接続名	利用中のテナント	検索サーバ	索引サーバ
default	default	http://localhost:8983/solr/default	http://localhost:8983/solr/default

1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 10 | 1件中 1 - 1 表示

- 内容を入力し、「更新」をクリックします。

Solr接続設定 編集

▼ 基本設定

接続名*	default
検索サーバ*	http://localhost:8983/solr/default
索引サーバ*	http://localhost:8983/solr/default

▼ 詳細設定

リクエストメソッド	POST ▾
分散検索	<input type="radio"/> ON <input checked="" type="radio"/> OFF
検索サーバ選択ポリシー	FIRST ▾
索引作成サーバ選択ポリシー	IDHASH ▾
テキスト抽出設定	im_default ▾

更新 **テスト接続**

4. 「決定」をクリックします。

Solr接続設定 新規登録

▼ 基本設定

接続名*	default
検索サーバ*	http://localhost:8983/solr/default
索引サーバ*	http://localhost:8983/solr/default

▼ 詳細設定

リクエストメソッド	POST ▾
分散検索	<input type="radio"/> ON <input checked="" type="radio"/> OFF
検索サーバ選択ポリシー	FIRST ▾
索引作成サーバ選択ポリシー	IDHASH ▾
テキスト抽出設定	im_default ▾

新規作成 **テスト接続**

登録確認

Solr接続設定を登録します。よろしいですか？

決定 **取り消し**

5. Solr接続設定を更新できました。

Solr接続設定一覧

Solr接続設定を更新しました。

接続名	利用中のテナント	検索サーバ	索引サーバ
default		http://localhost:8983/solr/default	http://localhost:8983/solr/default

◀◀ | 1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 10 ▾ 1件中 1-1枚表示

- 基本設定

項目	必須/任意	説明
接続名	必須	Solr接続設定の名称を入力します。
検索サーバ	必須	検索時に接続するSolrサーバのURLを設定します。 Solrサーバを構築しているホストのアドレス、および、ポート番号を指定してください。 例 : <i>http://localhost:8983/solr/default</i>
索引サーバ	必須	索引作成時に接続するSolrサーバのURLを設定します。 Solrサーバを構築しているホストのアドレス、および、ポート番号を指定してください。 例 : <i>http://localhost:8983/solr/default</i>



コラム

参考：各Web Application Serverのデフォルトのポート番号

Resin 8080

Tomcat 8080

Jetty 8983

- 詳細設定

項目	説明
リクエストメソッド	検索時にSolrサーバへ送るリクエストのメソッド（POST または GET）を設定します。
分散検索	複数のSolrサーバに分散配置されたインデックスを横断的に検索する機能の利用有無を設定します。 分散配置していない（冗長化などで、各Solrサーバが同一のインデックスを保持している）場合は、OFFに設定してください。
検索サーバ選択ポリシー	検索リクエストを送るSolrサーバを選択するポリシーを設定します。

FIRST

最初に設定されたURLのサーバを常に利用します。

ROUNDRBIN

設定されたサーバを順番に利用します。

RANDOM

設定されたサーバをランダムで利用します。

索引作成サーバ選択ポリシー	索引を作成するSolrサーバを選択するポリシーを設定します。 同一IDの索引は同じSolrサーバに登録することが推奨されるため、通常はIDHASHから変更する必要はありません。
---------------	---

IDHASH

索引のIDのハッシュ値を用いて、設定されたURLのサーバから利用するサーバを決定します。

ROUNDRBIN

設定されたサーバを順番に利用します。

RANDOM

設定されたサーバをランダムで利用します。

項目	説明
テキスト抽出設定	索引作成時にテキスト抽出するファイルの設定グループを指定します。 テキスト抽出設定 (solr-extractor-config.xml) に設定されたテキスト抽出設定グループの名称が選択項目に表示されます。

コラム

2024 Autumn(Jasmine) からテキスト抽出設定に空欄を指定できます。

テキスト抽出設定に空欄を指定した場合は、デフォルトのテキスト抽出設定 (im-nd-extractor-config.xml) が利用されます。

デフォルトのテキスト抽出設定 (im-nd-extractor-config.xml) については、「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「テキスト抽出設定」 を参照してください。

注意

リクエストメソッドは通常はPOSTから変更する必要はありません。

ここではシステム管理の操作を説明します。

モジュール参照

起動中の テナント環境 を構成しているモジュール情報を参照することができます。

モジュール情報を確認する

1. 「システム管理」→「モジュール参照」をクリックします。
2. 「モジュール参照」画面が表示されます。

モジュール一覧

テナント環境 を構成しているモジュールの一覧を表示します。

The screenshot shows the 'Module Reference' interface. On the left, there's a tree view titled 'Module List' showing a single node: 'intra-mart Accel Platform Advanced Edition - 8.0.3' which has several children nodes. On the right, there are two panels: 'Module Details' (Module 詳細) and 'Module Dependency Relations' (Module 依存関係). The 'Module Details' panel contains fields for ID, Name, Version, Description, and Vendor, all of which are currently empty. The 'Module Dependency Relations' panel is also empty.

モジュール詳細

モジュール一覧よりモジュールを選択すると、選択されたモジュールの詳細情報が表示されます。

モジュール詳細

ID	jp.co.intra_mart.im_workflow
名称	IM-Workflow
バージョン	8.0.3
説明	IM-Workflowの機能を提供します。
ベンダー	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマート

モジュール依存関係

- IM-共通マスター - 8.0.3
- サービス構築モジュール - 8.0.3
- メールモジュール - 8.0.2
- JDOM - 1.1.0
- NetBeans Utilities - 7.10.1
- im-JavaEE Framework - 8.0.2

依存関係

モジュール一覧よりモジュールを選択すると、選択されたモジュールが依存しているモジュールが表示されます。

モジュール詳細

ID	jp.co.intra_mart.im_workflow
名称	IM-Workflow
バージョン	8.0.3
説明	IM-Workflowの機能を提供します。
ベンダー	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマート

モジュール依存関係

- IM-共通マスター - 8.0.3
- サービス構築モジュール - 8.0.3
- メールモジュール - 8.0.2
- JDOM - 1.1.0
- NetBeans Utilities - 7.10.1
- im-JavaEE Framework - 8.0.2



注意

モジュール情報は国際化されていません。

モジュール情報のロケールはWARファイルの作成を行った際の IM-Juggling のロケールに基づいています。

サービス設定

サービスの起動状況や、アプリケーションサーバの稼働状況などシステムに関する情報を参照できます。

目次

- サービス状況を確認する
- サービスを停止する
- サービスを再開する



注意

「サービスを停止する」、「サービスを再開する」は、intra-mart Accel Platform 2020 Spring(Yorkshire) 以降で利用できます。

サービス状況を確認する

1. 「システム管理」→「サービス設定」をクリックします。
2. 「サービス設定」画面が表示されます。

起動情報

アプリケーションサーバ毎にサービスの起動情報を表示します。

	Server Manager	Task Service	Job Scheduler Service	Salesforce Streaming Client Service
APP:172.16.0.2:5200	稼働中	稼働中	稼働中	
APP:172.16.0.3:5200		稼働中	稼働中	稼働中

サービスの状態

画像	状態	説明
	稼働中	サービスが開始している状態を表します。 各サービスの機能が提供されています。
	スタンバイ	サービスが開始可能な状態を表します。 サービスが開始しているサーバが停止した場合等、代わりにサービスを開始します。
	停止中	サービスが停止している状態を表します。 停止中のサービスはサービスの再開が行われるまで開始されません。

ノード情報

アプリケーションサーバの情報が表示されます。

The screenshot shows the 'Service Settings' interface. At the top, there are two buttons: 'サービス停止' (Service Stop) and 'サービス再開' (Service Restart). Below these buttons is a navigation bar with three tabs: '起動状況' (Status), 'ノード情報' (Node Information), and 'サービス情報' (Service Information). The 'ノード情報' tab is selected. A table displays node details:

ノードID	ノード種別	ホスト名	アドレス	ポート番号
APP:172.16.0.2:5200	APP	server1	172.16.0.2	5200
APP:172.16.0.3:5200	APP	server2	172.16.0.3	5200

サービス情報

サービス情報が表示されます。

The screenshot shows the 'Service Settings' interface. At the top, there are two buttons: 'サービス停止' (Service Stop) and 'サービス再開' (Service Restart). Below these buttons is a navigation bar with three tabs: '起動状況' (Status), 'ノード情報' (Node Information), and 'サービス情報' (Service Information). The 'サービス情報' tab is selected. A table displays service details:

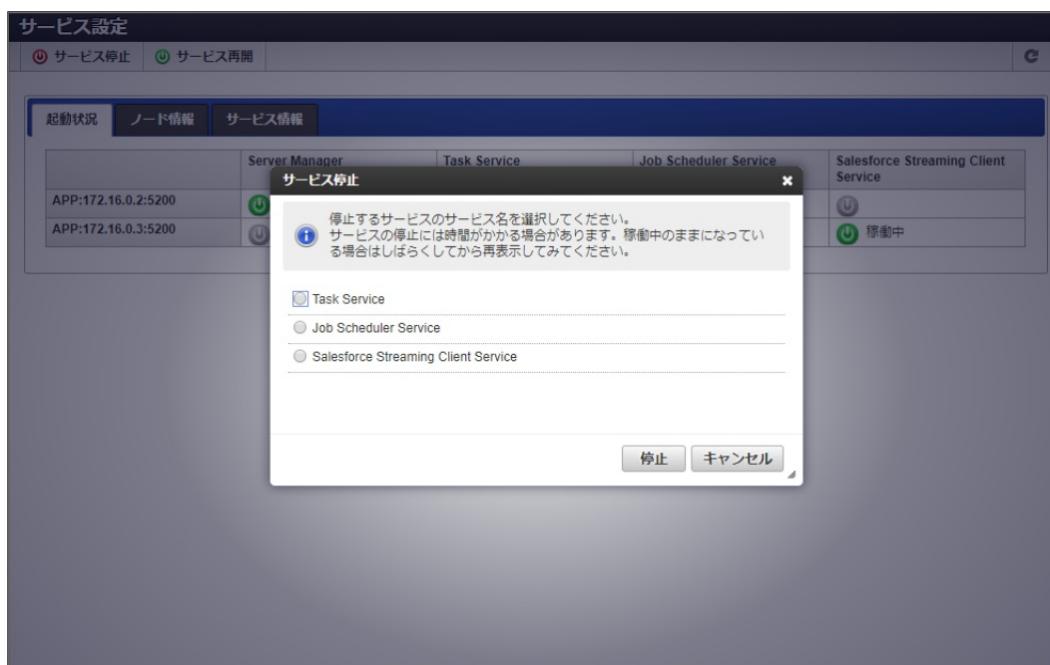
サービス名	サービスID	重み付け	複数起動
Server Manager	server.service.controller	1	false
Task Service	server.service.task.management	1	true
Job Scheduler Service	server.service.job_scheduler	5	true
Salesforce Streaming Client Service	server.service.salesforce.streaming.client	1	false

サービスを停止する

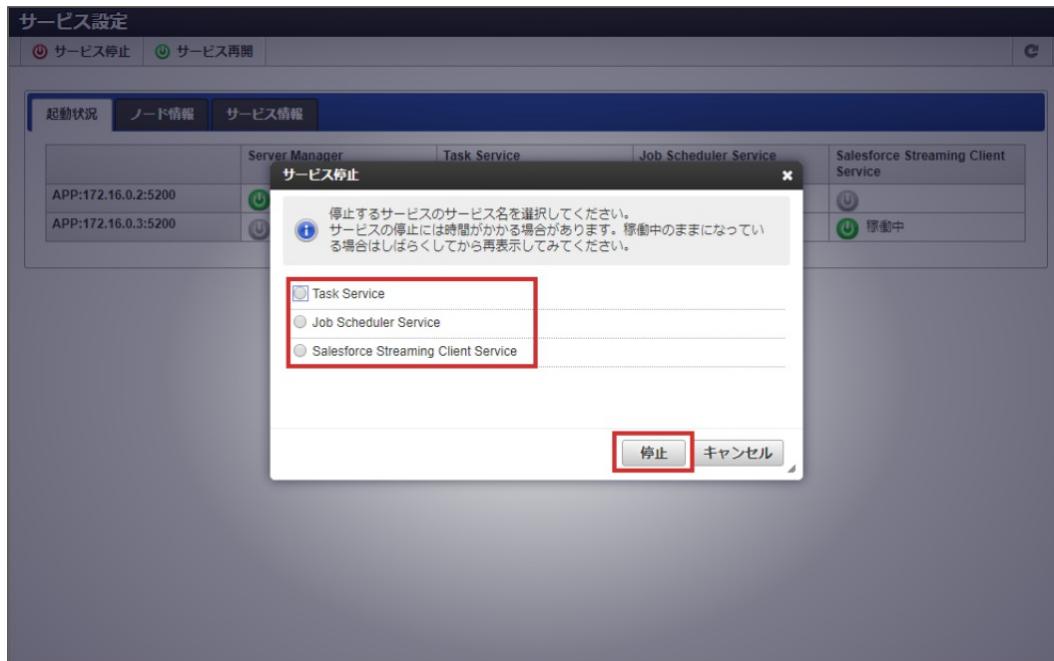
1. 「システム管理」→「サービス設定」をクリックします。
2. ツールバーより「サービス停止」をクリックします。



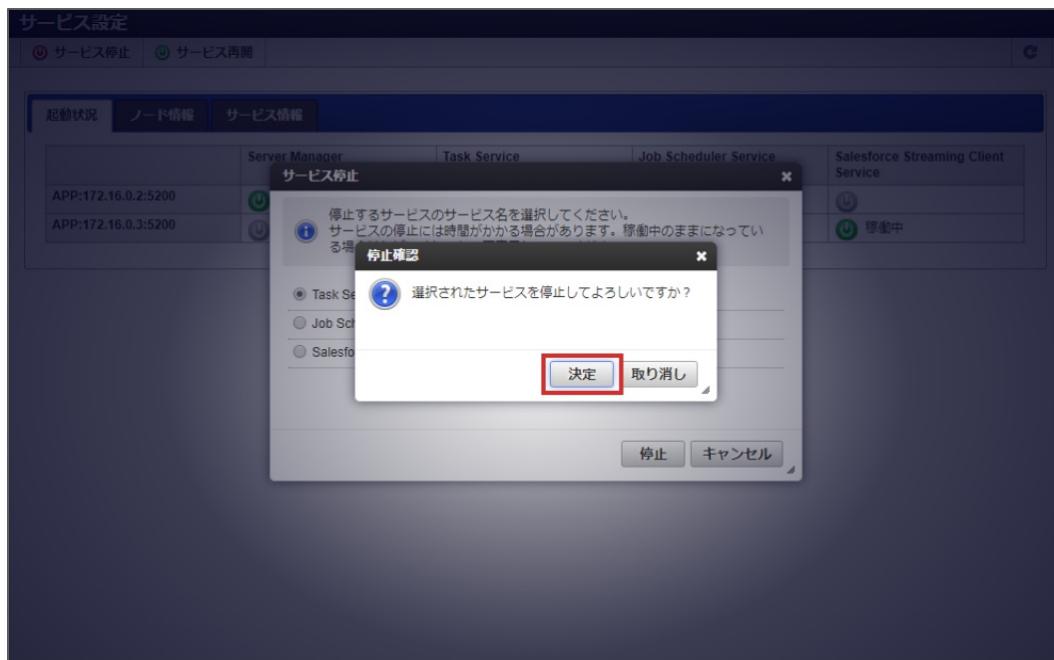
3. サービス停止ダイアログが表示されます。



4. 停止するサービスを選択して「停止」をクリックします。



5. 停止確認ダイアログの「決定」をクリックします。



6. 選択したサービスが停止しました。

サービス設定

サービスを停止しました。

	Server Manager	Task Service	Job Scheduler Service	Salesforce Streaming Client Service
APP:172.16.0.2:5200	○ 究極中	○ 停止中	○ 究極中	○
APP:172.16.0.3:5200	○	○ 停止中	○ 究極中	○ 究極中



コラム

停止したサービスは、サーバを再起動しても開始されません。
サービスを再開したい場合は、「[サービスを再開する](#)」を行う必要があります。



注意

タスクサービス、ジョブスケジューラサービスでタスクやジョブが実行されている場合、サービスを停止しても実行中のタスクやジョブは停止されません。

サービス停止後、実行中のタスクやジョブが存在するかはそれぞれ以下の画面から確認してください。

- * タスク : 「[非同期-タスクキュー一覧](#)」
- * ジョブ : 「[テナント管理者操作ガイド](#)」 - 「[ジョブネットモニター一覧](#)」

サービスを再開する

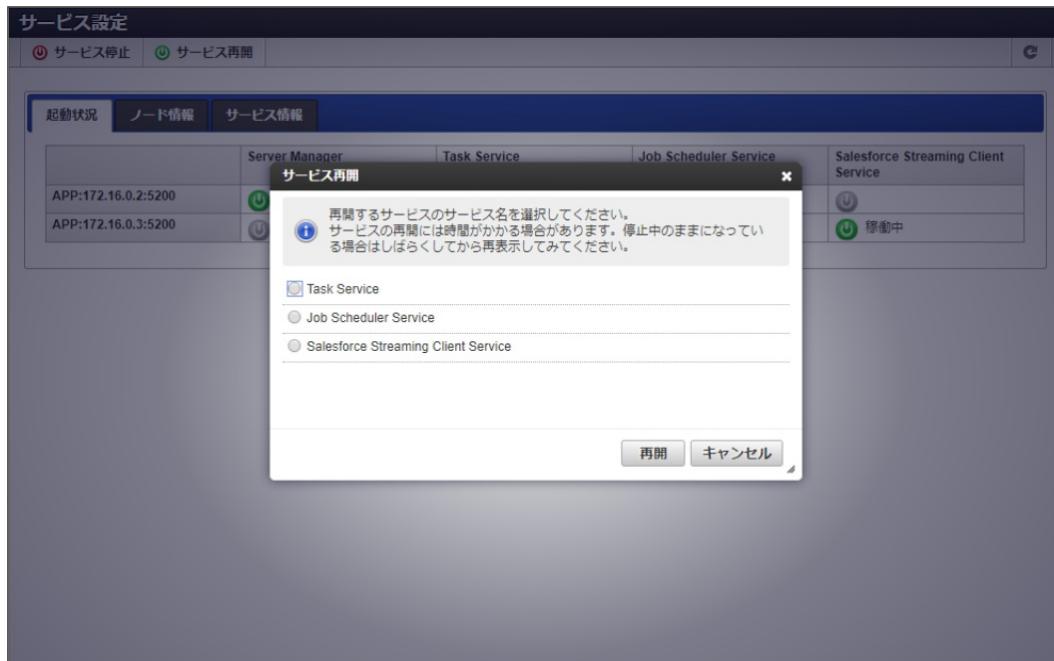
1. 「システム管理」→「サービス設定」をクリックします。
2. ツールバーより「サービス再開」をクリックします。

サービス設定

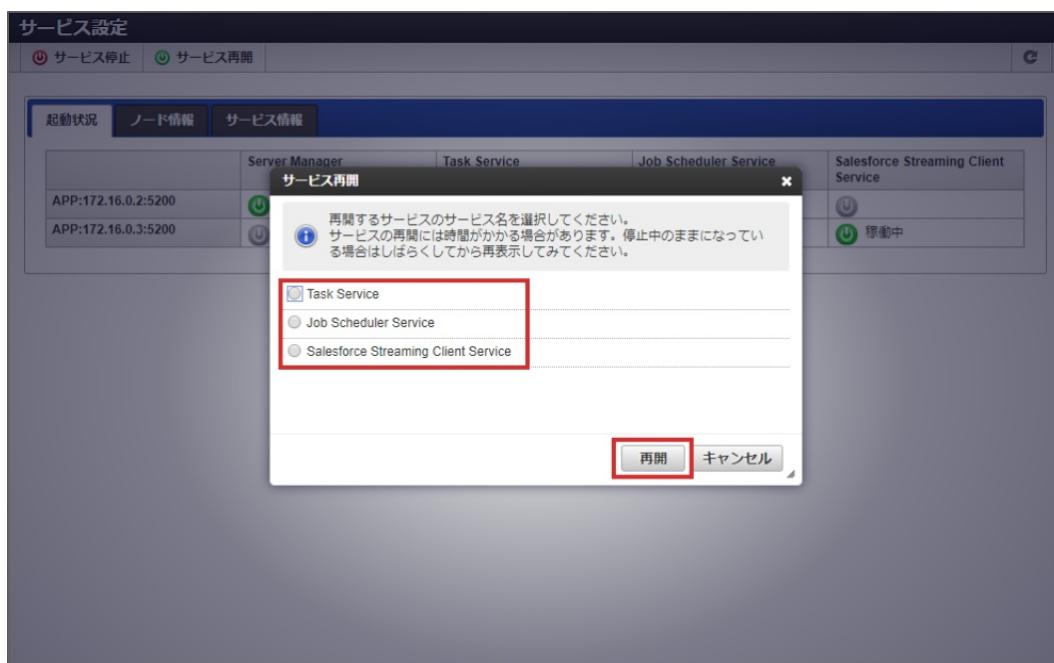
サービスを再開しました。

	Server Manager	Task Service	Job Scheduler Service	Salesforce Streaming Client Service
APP:172.16.0.2:5200	○ 究極中	○ 停止中	○ 究極中	○
APP:172.16.0.3:5200	○	○ 停止中	○ 究極中	○ 究極中

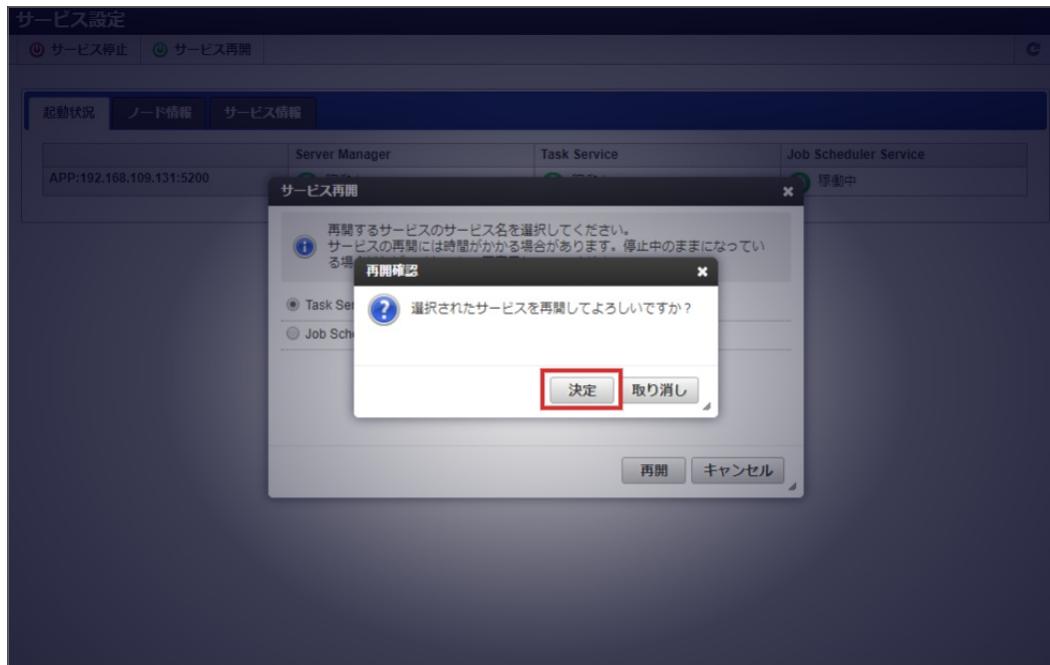
3. サービス再開ダイアログが表示されます。



4. 再開するサービスを選択して「再開」をクリックします。



5. 再開確認ダイアログの「決定」をクリックします。



6. 選択したサービスが再開しました。



アプリケーションロック一覧

アプリケーションロックされた情報を一覧表示し、必要であればロックの解除を行います。

目次

- アプリケーションロックを確認する
- アプリケーションロックを解除する

アプリケーションロックを確認する

1. 「システム管理」→「アプリケーションロック一覧」をクリックします。
2. 「アプリケーションロック一覧」画面が表示されます。

アプリケーションロック一覧

ロックID	ロック獲得時刻	ノードID	スレッドID
lock_1	Sep 26, 2012 7:50:26 PM	APP:127.0.0.1:5200	281
lock_2	Sep 26, 2012 7:50:34 PM	APP:127.0.0.1:5200	281
lock_3	Sep 26, 2012 7:50:37 PM	APP:127.0.0.1:5200	281

1 ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 10 ページ表示 3 件中 1 - 3 を表示

アプリケーションロックを解除する

- 「システム管理」→「アプリケーションロック一覧」をクリックします。
- 「アプリケーションロック一覧」画面が表示されます。

アプリケーションロック一覧

ロックID	ロック獲得時刻	ノードID	スレッドID
lock_1	Sep 26, 2012 7:50:26 PM	APP:127.0.0.1:5200	281
lock_2	Sep 26, 2012 7:50:34 PM	APP:127.0.0.1:5200	281
lock_3	Sep 26, 2012 7:50:37 PM	APP:127.0.0.1:5200	281

1 ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 10 ページ表示 3 件中 1 - 3 を表示

- 解除したいアプリケーションロックをチェックをいれます。

アプリケーションロック一覧

ロックID	ロック獲得時刻	ノードID	スレッドID
lock_1	Sep 26, 2012 7:50:26 PM	APP:127.0.0.1:5200	281
lock_2	Sep 26, 2012 7:50:34 PM	APP:127.0.0.1:5200	281
lock_3	Sep 26, 2012 7:50:37 PM	APP:127.0.0.1:5200	281

1 ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 10 ページ目 3 件中 1 - 3 を表示

4. 「チェックしたロックを解除」をクリックします。

アプリケーションロック一覧

ロックID	ロック獲得時刻	ノードID	スレッドID
lock_1	Sep 26, 2012 7:50:26 PM	APP:127.0.0.1:5200	281
lock_2	Sep 26, 2012 7:50:34 PM	APP:127.0.0.1:5200	281
lock_3	Sep 26, 2012 7:50:37 PM	APP:127.0.0.1:5200	281

1 ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 10 ページ目 3 件中 1 - 3 を表示

5. 「決定」をクリックします。

The screenshot shows the 'Application Lock List' page. At the top, there are navigation links: ホーム (Home), チェックしたロックを解除 (Check unlock), and ログアウト (Logout). A table lists three locks: lock_1, lock_2, and lock_3. Below the table, a confirmation dialog box titled 'ロック解除確認' (Unlock Confirmation) asks '選択されたロックを解除してよろしいですか?' (Is it okay to unlock the selected lock?). The '決定' (Confirm) button is highlighted with a red box. At the bottom of the page, there are pagination controls: ページ中 1 / 10 ページ目 (Page 1 of 10) and 表示件数 (Number of items displayed).

6. アプリケーションロックを解除することができました。

The screenshot shows the 'Application Lock List' page after the unlock operation. The table now only contains two locks: lock_2 and lock_3. The bottom pagination controls show ページ中 1 / 2 ページ目 (Page 1 of 2) and 表示件数 (Number of items displayed).

注意

ロックを開始した処理が終わらないうちにロックを解除してしまうと、処理の実行中に予期しない動作が行われる可能性があります。その為、ロックを解除する場合は、十分に注意してください。

ファイル操作

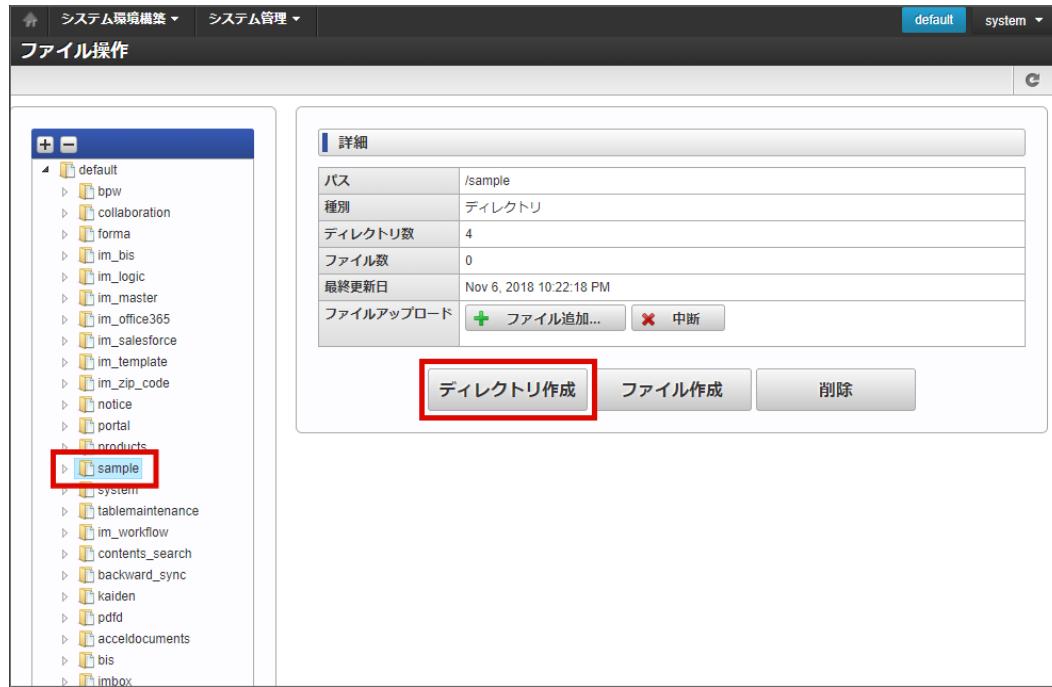
Storage領域に対してディレクトリやファイルの新規作成、ファイルの削除やアップロードなどが行えます。
アップロードされたファイルはStorage領域に保存されます。

目次

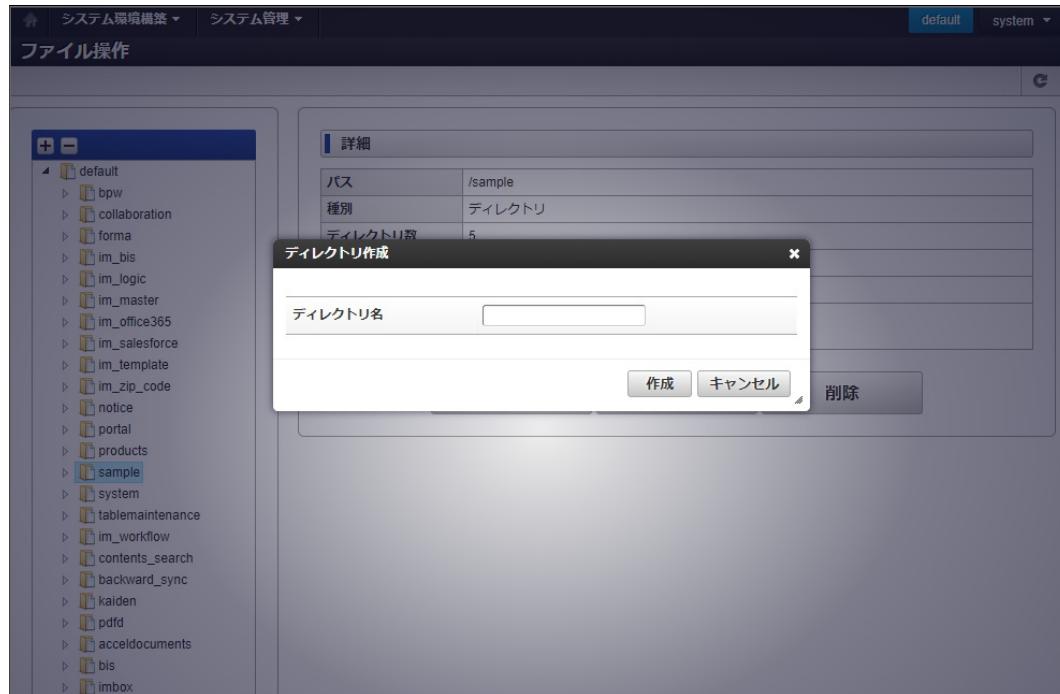
- ディレクトリを作成する
- ファイルを作成する
- ファイルをアップロードする
- ファイルをダウンロードする

ディレクトリを作成する

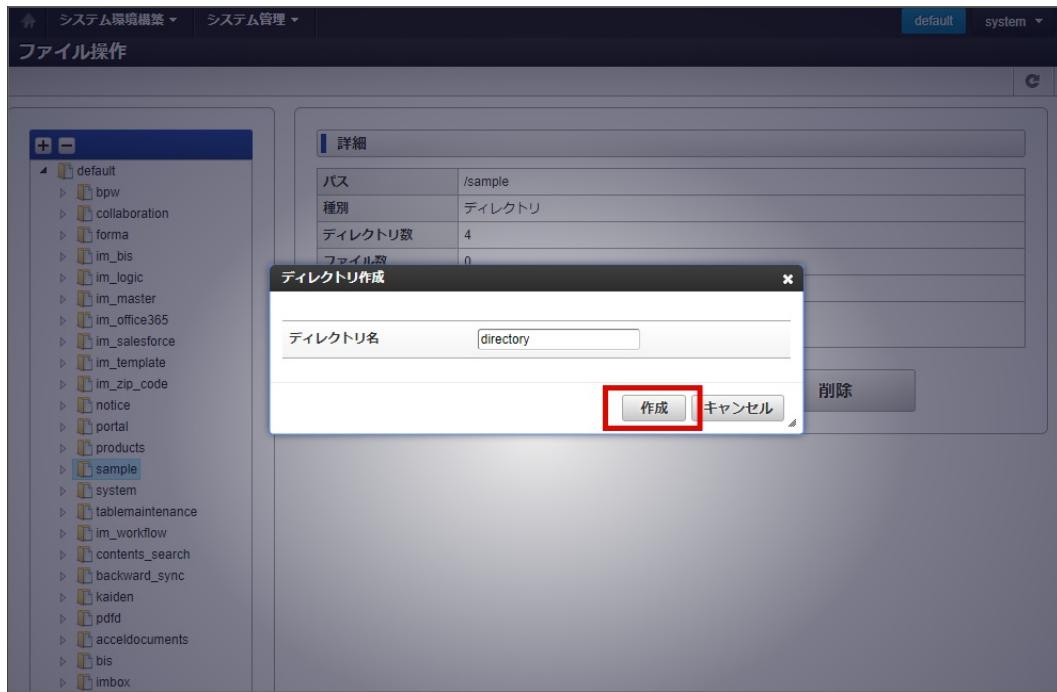
1. 「システム管理」→「ファイル操作」をクリックします。
2. 左側のツリーからディレクトリを作成したい位置をクリックします。
指定したディレクトリ直下に、ディレクトリを作成します。
3. 「ディレクトリ作成」をクリックします。



4. 「ディレクトリ作成」画面が表示されます。



5. 「作成」をクリックします。

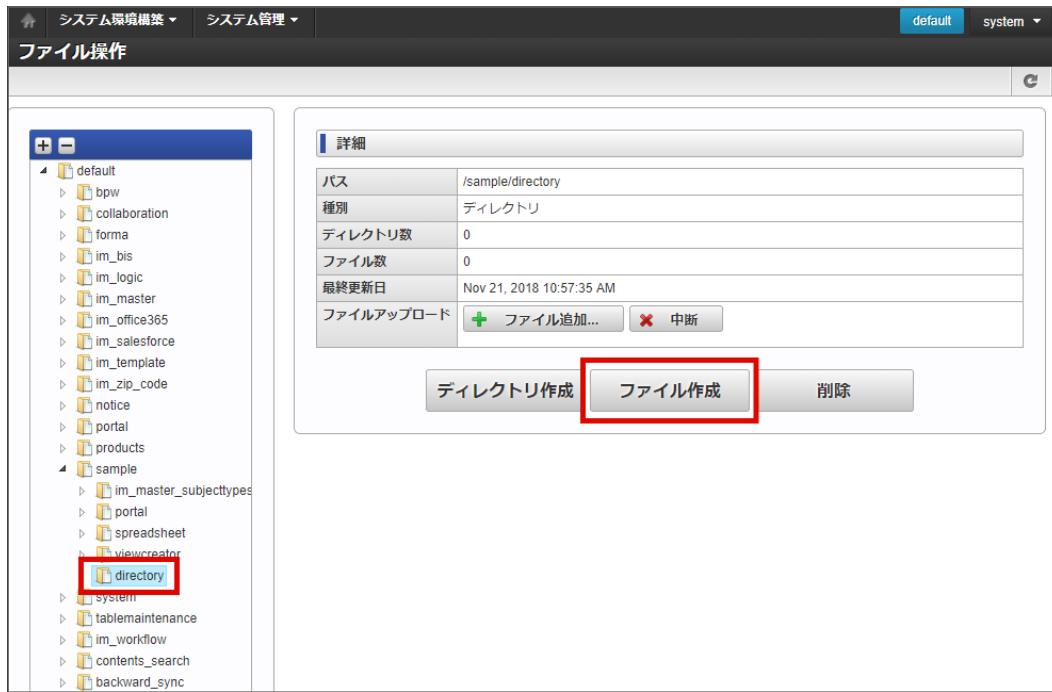


6. ディレクトリを作成できました。

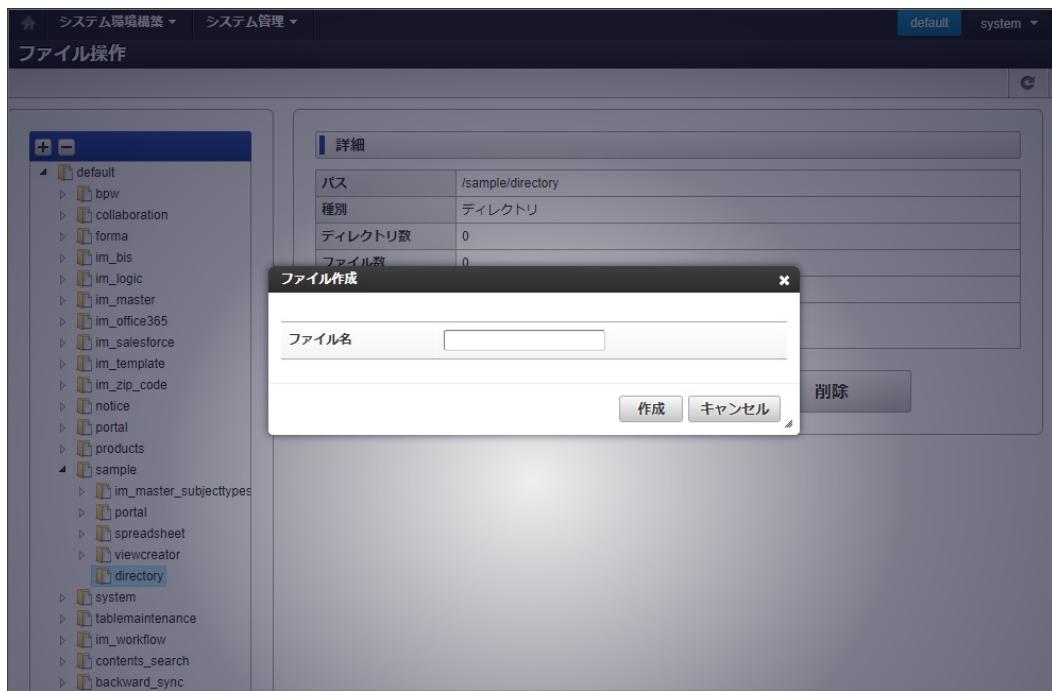


ファイルを作成する

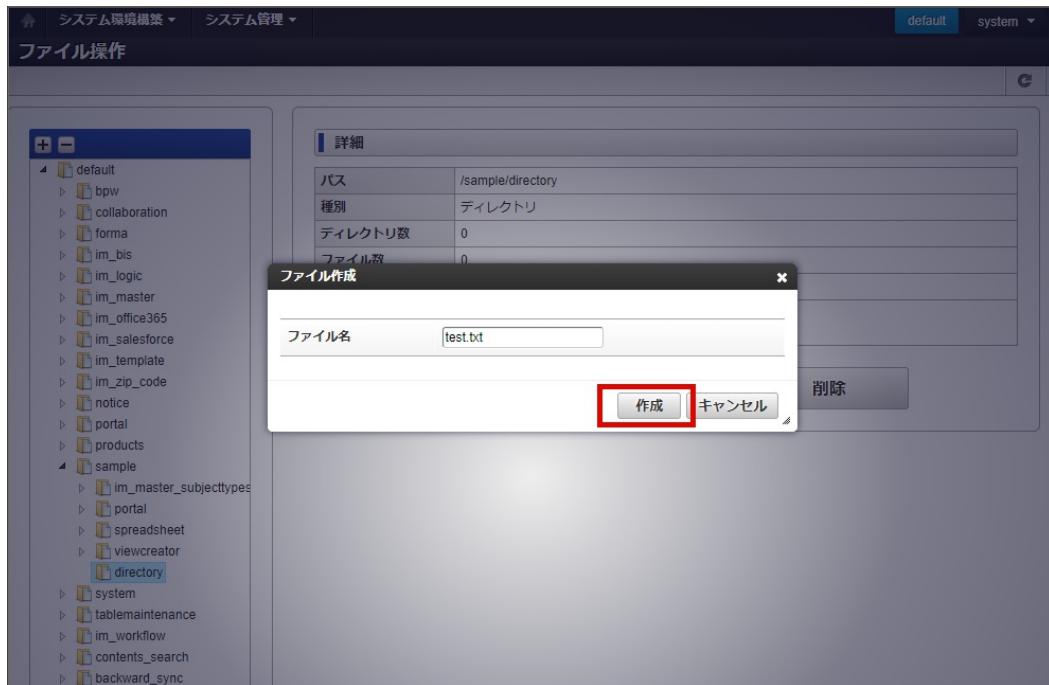
1. 「システム管理」→「ファイル操作」をクリックします。
2. 左側のツリーからディレクトリを作成したい位置をクリックします。
指定したディレクトリ直下に、ディレクトリを作成します。
3. 「ファイル作成」をクリックします。



4. 「ファイル作成」画面が表示されます。



5. 「作成」をクリックします。



6. ファイルを作成できました。

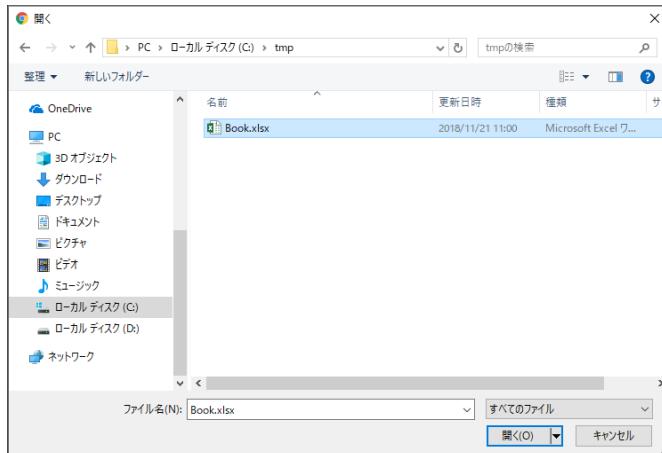


ファイルをアップロードする

1. 「システム管理」→「ファイル操作」をクリックします。
2. 左側のツリーからファイルをアップロードしたいディレクトリをクリックします。
指定したディレクトリ直下に、ファイルをアップロードします。
3. 「ファイル追加」をクリックします。

The screenshot shows the 'File Operation' interface. On the left is a tree view of a directory structure under '/sample/directory'. A red box highlights the 'directory' folder. On the right is a 'Details' panel with fields: パス (/sample/directory), 種別 (ディレクトリ), ディレクトリ数 (0), ファイル数 (1), 最終更新日 (Nov 21, 2018 10:59:03 AM). Below these is a 'File Upload' section with a red box around the '+ ファイル追加...' button.

4. ファイルを選択します。



5. ファイルをアップロードできました。

The screenshot shows the 'File Operation' interface again. The 'Details' panel now lists 'Book.xlsx' with a size of '(6.53 KB)'. The left tree view shows the 'directory' folder containing 'test.txt' and 'Book.xlsx', with a red box highlighting it.

[ファイルをダウンロードする](#)

1. 「システム管理」→「ファイル操作」をクリックします。
2. 左側のツリーからダウンロードしたいファイルをクリックします。
3. 「ダウンロード」をクリックします。

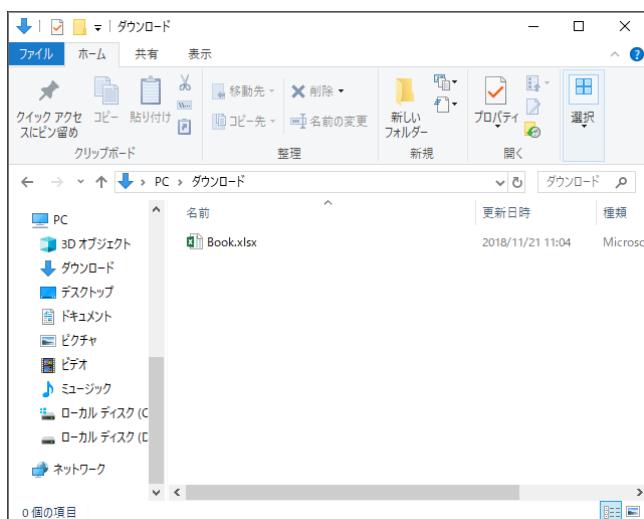
ファイル操作

詳細

パス	/sample/directory/Book.xlsx
種別	ファイル
容量	6532
最終更新日	Nov 21, 2018 11:03:03 AM

ダウンロード 削除

4. ファイルをダウンロードできました。



i コラム

ディレクトリ・ファイルの移動

ツリーのノードをドラッグ&ドロップするとディレクトリおよびファイルの移動ができます。

データベース操作

データベースに対してSQL文を直接実行するための簡易ツールです。

実行方法には、テキストエリアにSQL文を記入して実行する「SQL実行」と、ファイルに定義したSQL文を実行する「SQLファイルインポート」の方法があります。

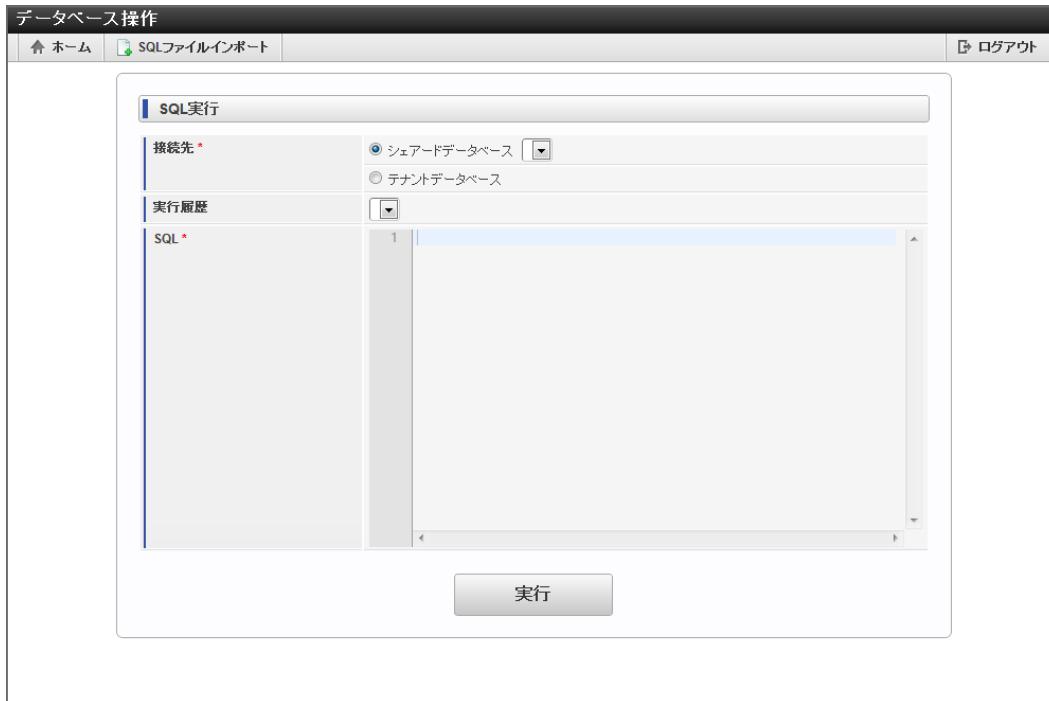
目次

- [SQLを実行する](#)
- [SQLファイルをインポートし実行する](#)

SQLを実行する

1. 「システム管理」→「データベース操作」をクリックします。

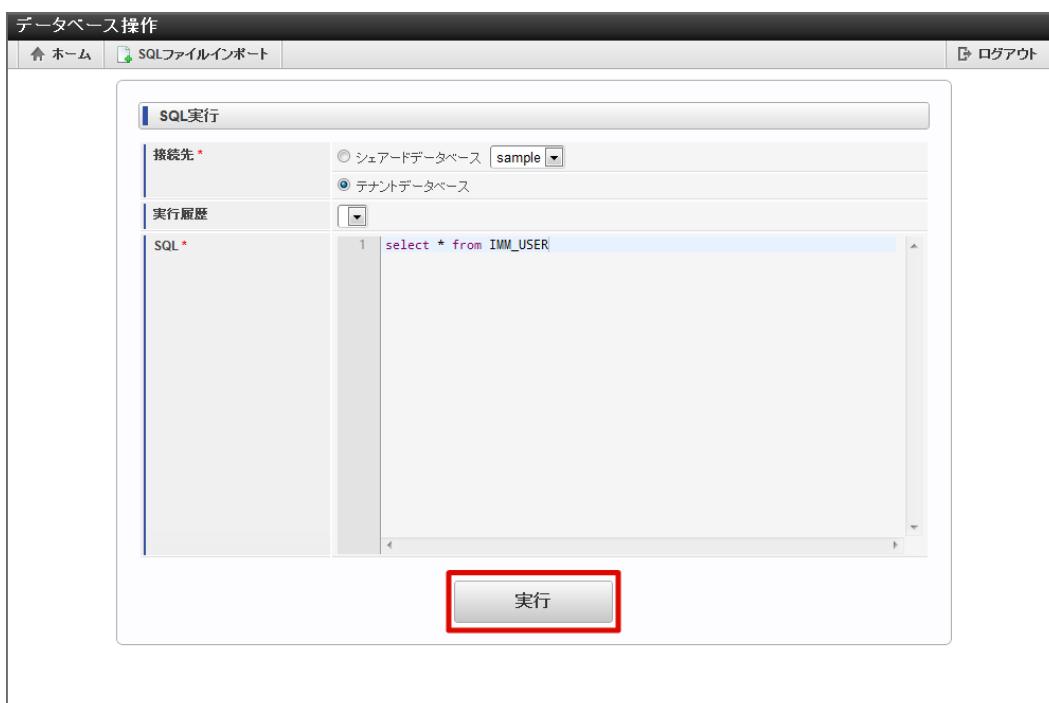
2. 「データベース操作」画面が表示されます。



■ 接続先

登録した「シェアードデータベース」または、「テナントデータベース」から選択します。

3. 「実行」をクリックします。



4. SQLを実行できました。

実行結果

SQL: Select * from IMPL_USER

接続先	テナントデータベース
検索件数	75
user_id	ja
locale_id	term_00
start_date	1900-01-01T00:00:00+0900
end_date	2000-01-01T00:00:00+0900
user_name	青柳辰巳
user_search_name	アオヤギ タツミ
sex	0
country	
zip_code	
address1	
address2	
telephone	
extension	
fax_num	
extensi0n	
module_r_email	
module_r_email_ad	
module_r_email_srl	
ayogi	ja
term_01	2000-01-01T00:00:00+0900
3000-01-01T00:00:00+0900	青柳辰巳
アオヤギ タツミ	0
ayogi	ja
term_00	1900-01-01T00:00:00+0900
2000-01-01T00:00:00+0900	ayogi_tatsuji
ayogi_tatsuji	ayogi_tatsuji
ayogi	en
term_01	2000-01-01T00:00:00+0900
3000-01-01T00:00:00+0900	ayogi_tatsuji
ayogi_tatsuji	ayogi_tatsuji
ayogi	zh_CN
term_00	1900-01-01T00:00:00+0900
2000-01-01T00:00:00+0900	青柳辰巳
ayogi_tatsuji	ayogi_tatsuji
ayogi	zh_CN
term_01	2000-01-01T00:00:00+0900
3000-01-01T00:00:00+0900	青柳辰巳
ayogi_tatsuji	ayogi_tatsuji
hagimoto	ja
term_00	1900-01-01T00:00:00+0900
2000-01-01T00:00:00+0900	萩本淳子
hagimoto	ja
term_01	2000-01-01T00:00:00+0900
3000-01-01T00:00:00+0900	萩本淳子
萩本淳子	ハギモト シュンコ
hagimoto	en
term_00	1900-01-01T00:00:00+0900
2000-01-01T00:00:00+0900	hagimoto_junko
hagimoto_junko	hagimoto_junko
hagimoto	en
term_01	2000-01-01T00:00:00+0900
3000-01-01T00:00:00+0900	hagimoto_junko
hagimoto_junko	ハギモト シュンコ



コラム

シェアードデータベースの設定は「システム管理」 - 「シェアードデータベース設定」を参照してください。



コラム

実行履歴を参照する

実行したSQLは最新10件まで実行履歴として残され、コンボボックスから日付を選択するとそのSQLが表示されます。

SQLファイルをインポートし実行する

- 「システム管理」→「データベース操作」をクリックします。
- 「SQLファイルインポート」をクリックします。

データベース操作

ホーム SQLファイルインポート ログアウト

SQL実行

接続先 * シェアードデータベース sample

実行履歴

SQL *

実行

- 「データベース操作」画面が表示されます。



- **接続先**

登録した「シェアードデータベース」または、「テナントデータベース」から選択します。

- **SQLファイル**

「ファイル選択」をクリックし、「ファイル選択ダイアログ」画面よりファイルを選択します。

- **トランザクションの単位**

- **SQL文**

トランザクションをSQL文単位に設定します。

SQL文を発行する度にコミットまたはロールバック処理が行われます。

途中でエラーが発生した場合も、全てのSQL文が実行されます。

- **一括**

トランザクションを一括に設定します。

ファイルに定義された全てのSQL文を実行後、コミット処理を行います。

途中でエラーが発生した場合は、ロールバック処理を行って処理を終了します。

※但しDDL文を発行した際のトランザクションの挙動は、データベースに依存します。

- **なし**

トランザクションを設定しません。

ファイルに定義されたSQL文を1行実行毎にコミット処理を暗黙で行います。

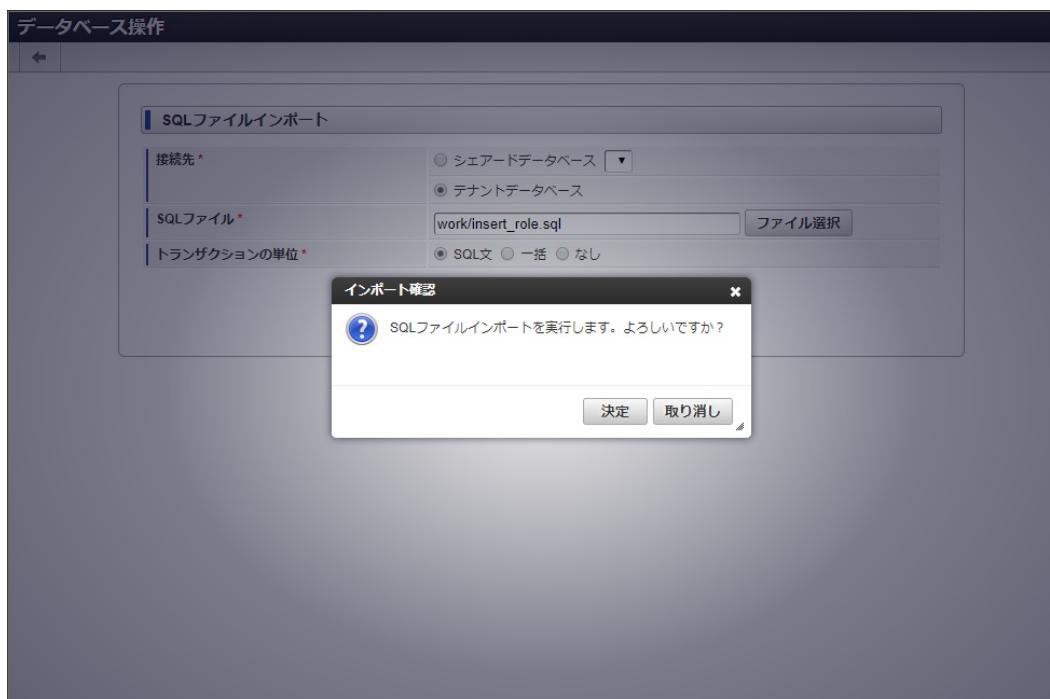
途中でエラーが発生した場合は、処理を終了します。

※PayaraのOracle XADataSourceを使用する環境で、DDL文を含むファイルのインポートを行う場合に選択します。

4. 「インポート」をクリックします。



5. 「決定」をクリックします。



6. SQLファイルのインポートが実行できました。

**注意**

- SQLファイル内は、SQL文ごとに「セミコロン（;）+ 改行」で区切って記述してください。
- インポートするファイルの文字コードはStorage領域の文字コードと同じ文字コードで保存してください。
文字コードが異なると、文字化けが発生する可能性があります。

非同期-タスクキュー一覧

非同期処理を利用してビジネスロジックを実行するために必要な情報（タスクメッセージ）はタスクキューに登録されます。

- 並列タスクキュー
同時に処理を行うことが可能なタスクメッセージのみで構成されるタスクキューです。
- 直列タスクキュー
逐次的に処理を行うことが必要なタスクメッセージのみで構成されるタスクキューです。

詳細は「[非同期仕様書](#)」を参照してください。

この画面ではタスクキューの参照、タスクメッセージの操作を行うことができます。

目次

- [直列タスクキューを登録する](#)
- [直列タスクキューを参照する](#)
- [並列タスクキューを参照する](#)
- [タスクの実行詳細を確認する](#)
- [処理中タスクを終了する](#)
- [エラー終了タスクを再登録する](#)

直列タスクキューを登録する

1. 「システム管理」→「非同期-タスクキュー一覧」をクリックします。
2. 「直列タスクキュー追加」をクリックします。



3. 「直列タスクキュー追加」画面が表示されます。



- 初期状態

「Active」の場合

直列タスクキューの先頭からタスクメッセージを取得しビジネスロジックを実行できる状態です。

「Inactive」の場合

直列タスクキューの先頭からタスクメッセージを取得できない状態です。

4. 「追加」をクリックします。



5. 直列タスクキューを追加できました。



コラム

削除したい場合

対象の直列タスクキューの「x」をクリックします。

直列タスクキューを参照する

1. 「システム管理」→「非同期-タスクキュー一覧」をクリックします。
2. 「非同期-タスクキュー一覧」画面が表示されます。

並列タスクキュー

待機中タスク数	処理中タスク数	エラー終了タスク数	状態	詳細

直列タスクキュー

キューID	待機中タスク	処理中タスク	エラー終了タ	状態	詳細	削除
sample1	3	有	0	Active	詳細	X
sample2	0	無	0	Active	詳細	X
sample3	0	無	0	Inactive	詳細	X

C ◀◀◀ | 1ページ中 1 ページ目 | ▶▶▶ 10 3件中 1 - 3 を表示

3. 「直列タスクキュー」に登録されているタスクメッセージの「詳細」をクリックします。

並列タスクキュー

待機中タスク数	処理中タスク数	エラー終了タスク数	状態	詳細

直列タスクキュー

キューID	待機中タスク	処理中タスク	エラー終了タ	状態	詳細	削除
sample1	3	有	0	Active	詳細	X
sample2	0	無	0	Active	詳細	X
sample3	0	無	0	Inactive	詳細	X

C ◀◀◀ | 1ページ中 1 ページ目 | ▶▶▶ 10 3件中 1 - 3 を表示

4. 「非同期-直列タスク詳細」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Non-periodic-Task Queue Details' screen. At the top, there are navigation links for 'System Environment Configuration' and 'System Management'. On the right, there are session information and a language selection dropdown. The main content area is divided into three sections:

- Processing Task Queue:** Shows one task in progress. The task details are:

タスクメッセージID	sample1
状態	Active
- Waiting Task Queue:** Shows three tasks waiting to be processed. Each task has a delete 'X' button next to its ID:

タスクメッセージID	実行詳細	送信日時	受信日時	削除
8g29nz1psc55	表示	2021-07-12 15:10:32	2021-07-12 15:10:32	X
8g29nz2pmc55b80	表示	2021-07-12 15:10:32	2021-07-12 15:10:32	X
8g29nz6fdc55f80	表示	2021-07-12 15:10:37	2021-07-12 15:10:37	X
- Error Completed Task:** No tasks are listed.

- 状態

「Active」の場合

直列タスクキューの先頭からタスクメッセージを取得しビジネスロジックを実行できる状態です。

「Inactive」の場合

直列タスクキューの先頭からタスクメッセージを取得できない状態です。

- 处理中タスク

処理中のタスクを表示します。処理中のタスクを「終了」、「中断」可能です。

詳細は「[処理中タスクを終了する](#)」を参照してください。

- 待機中タスク

待機中のタスクを表示します。各タスクの「×」をクリックすると削除できます。

- エラー終了タスク

エラー終了したタスクを表示します。各タスクの「×」をクリックすると削除できます。

前回実行時のパラメータやアクセスコンテキスト情報を使用したタスクの「再登録」も可能です。

詳細は「[エラー終了タスクを再登録する](#)」を参照してください。

並列タスクキューを参照する

1. 「システム管理」→「非同期-タスクキュー一覧」をクリックします。
2. 「非同期-タスクキュー一覧」画面が表示されます。

並列タスクキュー				
待機中タスク数	処理中タスク数	エラー終了タスク数	状態	詳細
0	3	0	Active	詳細

キューID	待機中タスク	処理中タスク	エラー終了タスク	状態	詳細	削除
sample1	0	無	0	Active	詳細	×
sample2	0	無	0	Active	詳細	×
sample3	0	無	0	Inactive	詳細	×

C ◀◀◀ | 1ページ中 1 ページ目 | ▶▶▶ 10 ページ | 3件中 1 - 3 を表示

3. 「並列タスクキュー」に登録されているタスクメッセージの「詳細」をクリックします。

並列タスクキュー				
待機中タスク数	処理中タスク数	エラー終了タスク数	状態	詳細
0	3	0	Active	詳細

キューID	待機中タスク	処理中タスク	エラー終了タスク	状態	詳細	削除
sample1	0	無	0	Active	詳細	×
sample2	0	無	0	Active	詳細	×
sample3	0	無	0	Inactive	詳細	×

C ◀◀◀ | 1ページ中 1 ページ目 | ▶▶▶ 10 ページ | 3件中 1 - 3 を表示

4. 「非同期-並列タスク詳細」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Non-Synchronous Parallel Task Queue' page with three main sections:

- 処理中タスク (Processing Task):** Displays tasks currently being processed. The table has columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Sent Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 終了 (Completed), and 中断 (Interrupted). Three tasks are listed, all completed.
- 待機中タスク (Pending Task):** Displays tasks waiting in the queue. The table has columns: タスクメッセージID (Task Message ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Sent Date/Time), and 削除 (Delete). No tasks are listed.
- エラー終了タスク (Error Task):** Displays tasks that have failed. The table has columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Sent Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 再登録 (Resubmit), and 削除 (Delete). No tasks are listed.

■ 状態

「Active」の場合

並列タスクキューの先頭からタスクメッセージを取得しビジネスロジックを実行できる状態です。

「Inactive」の場合

並列タスクキューの先頭からタスクメッセージを取得できない状態です。

■ 処理中タスク

処理中のタスクを表示します。処理中のタスクを「終了」「中断」可能です。

詳細は「[処理中タスクを終了する](#)」を参照してください。

■ 待機中タスク

待機中のタスクを表示します。各タスクの「×」をクリックすると削除できます。

■ エラー終了タスク

エラー終了したタスクを表示します。各タスクの「×」をクリックすると削除できます。

前回実行時のパラメータやアクセスコンテキスト情報を使用したタスクの「再登録」も可能です。

詳細は「[エラー終了タスクを再登録する](#)」を参照してください。

タスクの実行詳細を確認する

1. 「システム管理」→「非同期-タスクキュー一覧」をクリックします。
2. 「非同期-タスクキュー一覧」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Queues' page with the URL [http://localhost:8080/intra-mart/accel/platform/system/default/queue/list](#). The main content area displays two tables: '並列タスクキュー' (Parallel Task Queue) and '直列タスクキュー' (Serial Task Queue). The '直列タスクキュー' table has one row for 'sample1'. The '状態' (Status) column for this row shows 'Inactive' with a red 'X' icon. The '詳細' (Details) button is also visible.

3. 「直列タスクキュー」に登録されているタスクメッセージの「詳細」をクリックします。

This screenshot is identical to the previous one, but the '詳細' (Details) button in the 'Serial Task Queue' table for 'sample1' is highlighted with a red rectangle.

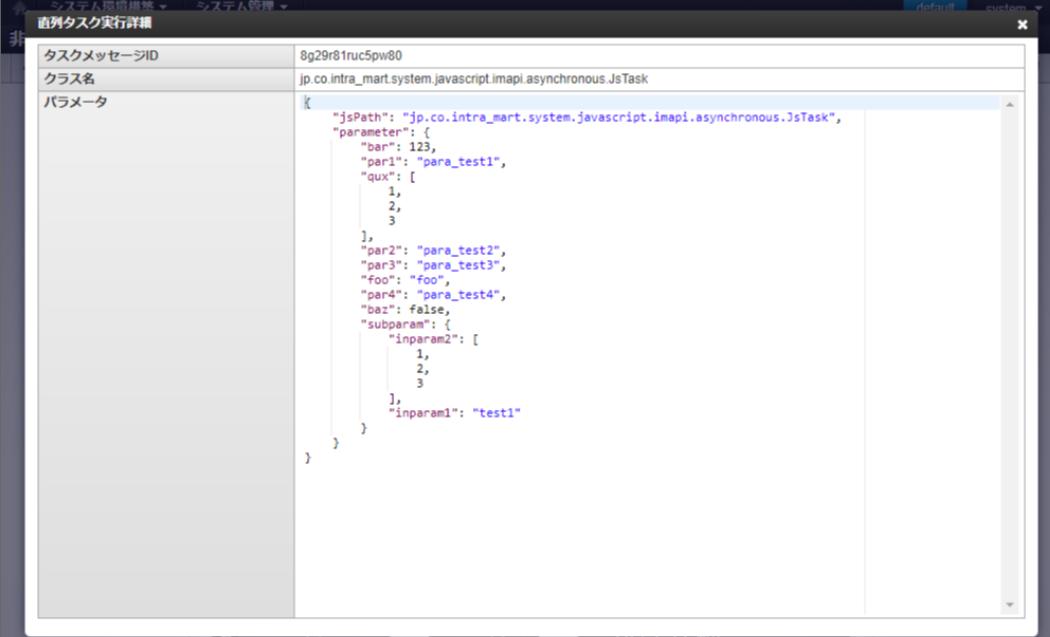
4. 「非同期-直列タスク詳細」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Non-blocking Queue Task Details' screen. At the top, there are tabs for 'System Environment Configuration' and 'System Management'. On the right, there are buttons for 'default' and 'system'. The main area displays a table with two rows: 'キューID' (Queue ID) containing 'sample1' and '状態' (Status) containing 'Inactive'. Below this is a section titled '処理中タスク' (Processing Task) with a table header: 'タスクメッセージ' (Task Message), '実行ノードID' (Execution Node ID), '実行詳細' (Execution Details), '送信日時' (Send Date/Time), '開始日時' (Start Date/Time), '終了' (End), and '中断' (Interrupt). A single row is listed with 'タスクメッセージID' (Task Message ID) '8g29r41bhc5o480', '実行ノードID' (Execution Node ID) '表示' (Show), '送信日時' (Send Date/Time) '2021-07-12 16:38:23', '開始日時' (Start Date/Time) '2021-07-12 16:38:23', and '終了' (End) and '中断' (Interrupt) both set to '×'. Below this is another section titled '待機中タスク' (Waiting Task) with a similar table structure. The bottom of the screen includes navigation buttons for pages and a message indicating '1件中 1 - 1 を表示' (1 item displayed).

5. 待機中タスクの「実行詳細」の「表示」をクリックします。

This screenshot is identical to the one above, but the '表示' (Show) button in the '実行詳細' (Execution Details) column of the '待機中タスク' (Waiting Task) table is highlighted with a red box.

6. 待機中タスクの「実行詳細」画面が表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled '並列タスク実行詳細' (Parallel Task Execution Details). It displays the following information:

タスクメッセージID	8g29r81ruc5pw80
クラス名	jp.co.intra_mart.system.javascript.imapi.asynchronous.JsTask
パラメータ	<pre> "jsPath": "jp.co.intra_mart.system.javascript.imapi.asynchronous.JsTask", "parameter": { "bar": 123, "par1": "para_test1", "qux": [1, 2, 3], "par2": "para_test1", "par3": "para_test3", "foo": "foo", "par4": "para_test4", "baz": false, "subparam": { "inparam2": [1, 2, 3], "inparam1": "test1" } } </pre>

処理中タスクを終了する

- 「システム管理」→「非同期-タスクキュー一覧」をクリックします。
- 「非同期-タスクキュー一覧」画面が表示されます。



The screenshot shows the '並列タスクキュー' (Parallel Task Queue) section of the 'Non-parallel Task Queue List' page. It displays the following information:

並列タスクキュー					詳細
待機中タスク数	処理中タスク数	エラー終了タスク数	状態		詳細
0	1	0	Active		詳細

直列タスクキュー						
キューID	待機中タスク	処理中タスク	エラー終了タスク	状態	詳細	削除
sample1	0	無	0	Active	詳細	×
sample2	0	無	0	Active	詳細	×
sample3	0	無	0	Inactive	詳細	×

At the bottom, there is a pagination control: 「C」 << < | 1ページ中 1 ページ目 | > >> 10 3 件中 1 - 3 を表示

- 「並列タスクキュー」に登録されているタスクメッセージの「詳細」をクリックします。

The screenshot shows the 'Asynchronous Task Queue' interface. At the top, there is a summary table for '並列タスクキュー' (Parallel Task Queue) with columns: 待機中タスク数 (Waiting Tasks), 処理中タスク数 (Processing Tasks), エラー終了タスク数 (Error Tasks), 状態 (Status), and 詳細 (Details). A red box highlights the '詳細' button in the status column. Below this is a larger table for '直列タスクキュー' (Serial Task Queue) with columns: キューID (Queue ID), 待機中タスク (Waiting Tasks), 処理中タスク (Processing Tasks), エラー終了タスク (Error Tasks), 状態 (Status), 詳細 (Details), and 削除 (Delete). Three entries are listed: sample1, sample2, and sample3. Each entry has a 'Delete' button with a red 'X' icon next to it. At the bottom of the screen, there is a navigation bar with icons for back, forward, search, and other functions.

4. 「非同期-並列タスク詳細」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Non-parallel Parallel Task Details' page. At the top, there is a summary table for '並列タスク' (Parallel Task) with columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Send Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 終了 (End), and 中断 (Interrupt). A single row is shown with a 'End' button highlighted. Below this is a table for '処理中タスク' (Processing Task) with columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Send Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 終了 (End), and 中断 (Interrupt). A single row is shown with a 'End' button highlighted. At the bottom of the screen, there is a navigation bar with icons for back, forward, search, and other functions.

5. 処理中タスクの「終了」をクリックします。

The screenshot shows the 'Parallel Task Details' screen. At the top, there's a status bar with 'default' and 'system'. Below it is a header '同期-並列タスク詳細'. The main area contains two tables: '処理中タスク' (Processing Task) and '待機中タスク' (Waiting Task). The '処理中タスク' table has a single row with columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Send Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 終了 (Completed), and 中断 (Interrupt). The 'Completed' button is highlighted with a red box. Below the tables is a pagination bar: 「C」, «, » | 1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 10 | 1件中 1-1 を表示.

6. 「並列タスク終了」画面が表示されます。

The screenshot shows a confirmation dialog box titled '並列タスク終了' (Parallel Task Completed). It contains three input fields: 'タスクメッセージID' (Task Message ID) with value '8g29obfb2c5bw80', 'キューの先頭に再登録' (Re-register at the head of the queue) with radio buttons 'する' (Register) and 'しない' (Not register), and 'キューの状態' (Queue Status) with radio buttons '停止する' (Stop) and '現状のまま' (As is). Below the dialog is a message: 'このタスクを中止します。よろしいですか?' (Do you want to cancel this task?). At the bottom are '決定' (Confirm) and '取り消し' (Cancel) buttons. Below the dialog is a smaller '待機中タスク' (Waiting Task) table.

- キューの先頭に再登録
 - 「する」を選択した場合、キューの先頭に登録されます。
 - 「しない」を選択した場合、キューには登録されず破棄されます。
- キューの状態
 - 「現状のまま」を選択した場合、「Active」の状態でキューに登録されます。
 - 「停止する」を選択した場合、「Inactive」の状態でキューに登録されます。

7. 「決定」をクリックします。



8. タスクを終了できました。

コラム

タスクを「中断」したい場合

対象のタスクメッセージの「中断」をクリックします。

注意

処理中タスクを終了・中断できるかどうかは実行中の非同期タスクの実装に依存します。

終了・中断の処理を実装していないタスクに対して、終了・中断を行ってもそのまま処理は実行されます。

エラー終了タスクを再登録する

- 「システム管理」→「非同期-タスクキュー一覧」をクリックします。
- 「非同期-タスクキュー一覧」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Concurrent Task Queue' page. At the top, there are two tables: '並列タスクキュー' (Concurrent Task Queue) and '直列タスクキュー' (Serial Task Queue). The '並列タスクキュー' table has columns: 待機中タスク数 (Waiting Task Count), 処理中タスク数 (Processing Task Count), エラー終了タスク数 (Error Task Count), 状態 (Status), and 詳細 (Details). The '直列タスクキュー' table has columns: キューID (Queue ID), 待機中タスク (Waiting Task), 処理中タスク (Processing Task), エラー終了タスク (Error Task), 状態 (Status), 詳細 (Details), and 削除 (Delete). A red box highlights the '詳細' button in the '並列タスクキュー' table.

3. 「並列タスクキュー」に登録されているタスクメッセージの「詳細」をクリックします。

This screenshot is identical to the previous one, but the '詳細' button in the '並列タスクキュー' table is now highlighted with a red box, indicating it has been clicked.

4. 「非同期-並列タスク詳細」画面が表示されます。

The screenshot shows a web-based application interface for system management. At the top, there is a navigation bar with links for 'システム環境構築' (System Environment Configuration) and 'システム管理' (System Management). On the right side of the header, there are buttons for 'default' and 'system'. Below the header, the main content area has a title '非同期-並列タスク詳細' (Non-Synchronous Parallel Task Details). The interface is divided into three vertically stacked sections:

- 処理中タスク (Processing Task):** This section contains a table with columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Send Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 終了 (End), and 中断 (Interrupt). A message at the bottom states '表示するレコードがありません' (No records to display).
- 待機中タスク (Waiting Task):** This section contains a table with columns: タスクメッセージID (Task Message ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Send Date/Time), and 削除 (Delete). A message at the bottom states '表示するレコードがありません' (No records to display).
- エラー終了タスク (Error Completed Task):** This section contains a table with columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Send Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 再登録 (Resubmit), and 削除 (Delete). It shows one record with the task message '8g29tl9j1c68i8', execution node 'APP-172.17.0', send date/time '2021-07-12 17', start date/time '2021-07-12 17', resubmit button, and delete button with a red 'X'. A message at the bottom states '1件中 1-1 を表示' (Displaying 1 of 1).

5. エラー終了タスクの「再登録」をクリックします。

The screenshot shows the 'Parallel Task List' screen with three main sections:

- 処理中タスク (Processing Task):** Displays a table with columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Sent Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 終了 (End), 中断 (Interrupt). No records are displayed.
- 待機中タスク (Pending Task):** Displays a table with columns: タスクメッセージID (Task Message ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Sent Date/Time), 制除 (Delete). No records are displayed.
- エラー終了タスク (Completed Task):** Displays a table with columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Sent Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 再登録 (Re-enrollment), 制除 (Delete). One record is listed:

8g29tl9j1c68l80	APP-172.17.0	表示	2021-07-12 17	2021-07-12 17	再登録	×
-----------------	--------------	--------------------	---------------	---------------	---------------------	-------------------

 The '再登録' (Re-enrollment) button is highlighted with a red box.

6. 「並列タスク再登録」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Parallel Task Re-enrollment' dialog box with the following fields:

- タスクメッセージID (Task Message ID):** 8g29tl9j1c68l80
- クラス名 (Class Name):** jp.co.intra_mart.system.javascript.imapi.asynchronous.JsTask
- アクセスコンテキスト情報 (Access Context Information):**
 - 前回実行時のアクセスコンテキスト情報を使用する
 - 現在のアクセスコンテキスト情報を使用する
- パラメータ (Parameters):** A large code editor area displaying the following JSON-like configuration:


```

1 [
2   "jsPath": "jp.co.intra_mart.system.javascript.imapi.asynchronous.JsTask",
3   "parameter": {
4     "bar": 123,
5     "par1": "para_test1",
6     "qux": [
7       1,
8       2,
9       3
10    ],
11    "par2": "para_test2",
12    "par3": "para_test3",
13    "foo": "foo",
14    "par4": "para_test4",
15    "baz": false,
16    "subparam": {
17      "inparam2": [
18        1,
19        2,
20        3
21      ],
22      "inparam1": "test1"
23    }
24  }
      
```
- 操作 (Buttons):** 決定 (Decision) and 取消 (Cancel)

■ アクセスコンテキスト情報

「前回実行時のアクセスコンテキスト情報を使用する」を選択した場合、実行時に前回実行時のアクセスコンテキスト情報を使用します。

「現在のアクセスコンテキスト情報を使用する」を選択した場合、実行時に現在のアクセスコンテキスト情報（システム管理者のアクセスコンテキスト情報）を使用します。

- パラメータ

再登録時のパラメータを入力します。

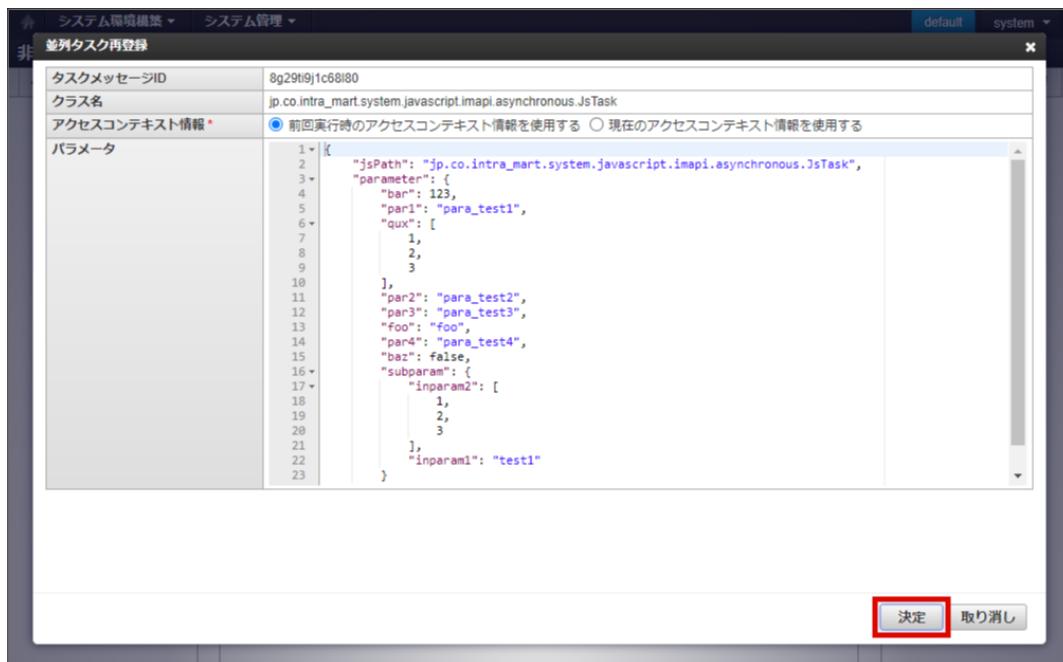
前回実行時のパラメータが初期表示されます。



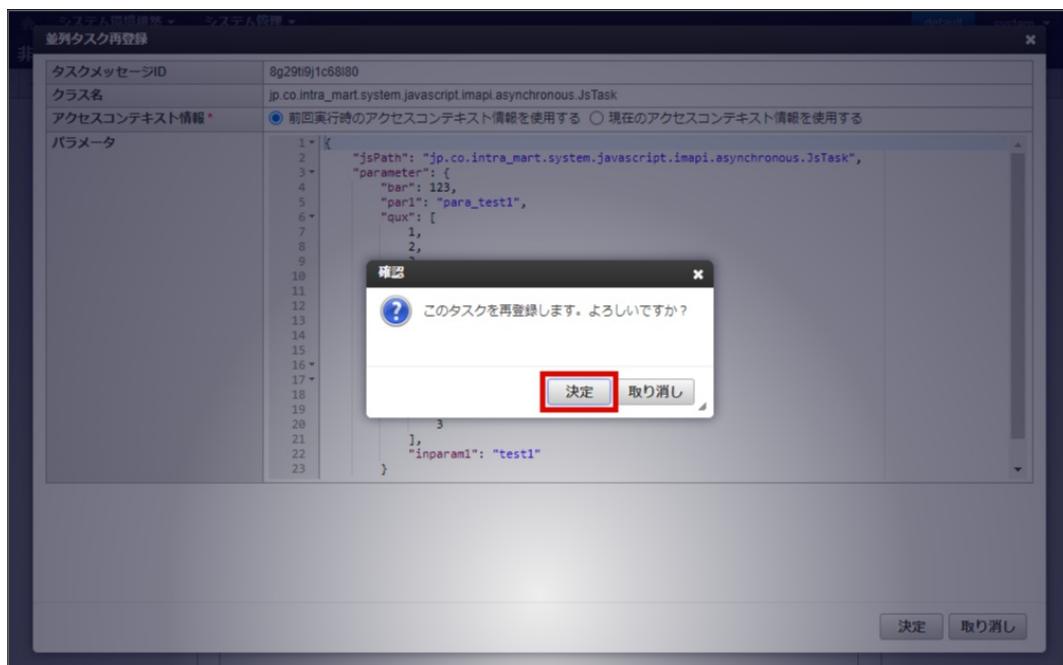
注意

タスクの実装によっては、アクセスコンテキスト情報が変わることで意図しない処理結果になる可能性があります。

7. 「決定」をクリックします。



8. 確認ダイアログの「決定」をクリックします。



9. タスクを再登録できました。

The screenshot shows a system management interface. At the top, there are navigation tabs for 'システム環境構築' (System Environment Configuration) and 'システム管理' (System Management). A green notification bar at the top right says 'タスクの再登録に成功しました。' (Task re-registration successful). Below this, there are two tables:

- 処理中タスク (Processing Task):** This table has columns: タスクメッセージ (Task Message), 実行ノードID (Execution Node ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Send Date/Time), 開始日時 (Start Date/Time), 終了 (End), and 中断 (Interrupt). It displays a message: '表示するレコードがありません' (No records to display).
- 待機中タスク (Waiting Task):** This table has columns: タスクメッセージID (Task Message ID), 実行詳細 (Execution Details), 送信日時 (Send Date/Time), and 削除 (Delete). It shows one record: 8g29t9j1c68l80, 表示 (Display), 2021-07-12 18:01:28, and a delete icon (red X).



コラム

削除したい場合

対象のタスクメッセージの「x」をクリックします。



コラム

ビジネスロジック実行中にサーバが停止した場合やビジネスロジック内部で例外が発生した場合等、何らかの理由によりビジネスロジックの実行に失敗したタスクは、エラー終了状態で残すことが可能です。

エラー終了状態のタスクは、ユーザの措置（再登録または削除）を待機している状態です（自動では削除されません）。

定期的にエラー終了状態のタスクが存在しないか確認し、適宜措置（再登録または削除）を実施してください。

エラー終了状態の詳細については「[非同期仕様書](#)」を参照してください。

タスクのエラー終了状態への遷移はintra-mart Accel Platform 2021 Summer(Cattleya)以降のバージョンで利用可能です。

シェアードデータベース設定

シェアードデータベースは1つのテナントで複数のデータベースを使用する場合、またはWARファイルによる複数テナントやバーチャルテナントによる複数テナントで1つのデータベースを使用する場合に利用できます。

シェアードデータベースを登録する

1. 「システム管理」→「シェアードデータベース設定」をクリックします。
2. 「新規登録」をクリックします。



3. 「シェアードデータベース登録」画面が表示されます。



- **接続ID**
接続IDを入力します。 (シェアードデータベースでユニークなID)
- **リソース参照名**
使用するデータソースのJNDI名を入力します。

4. 「登録」をクリックします。

シェアードデータベース登録

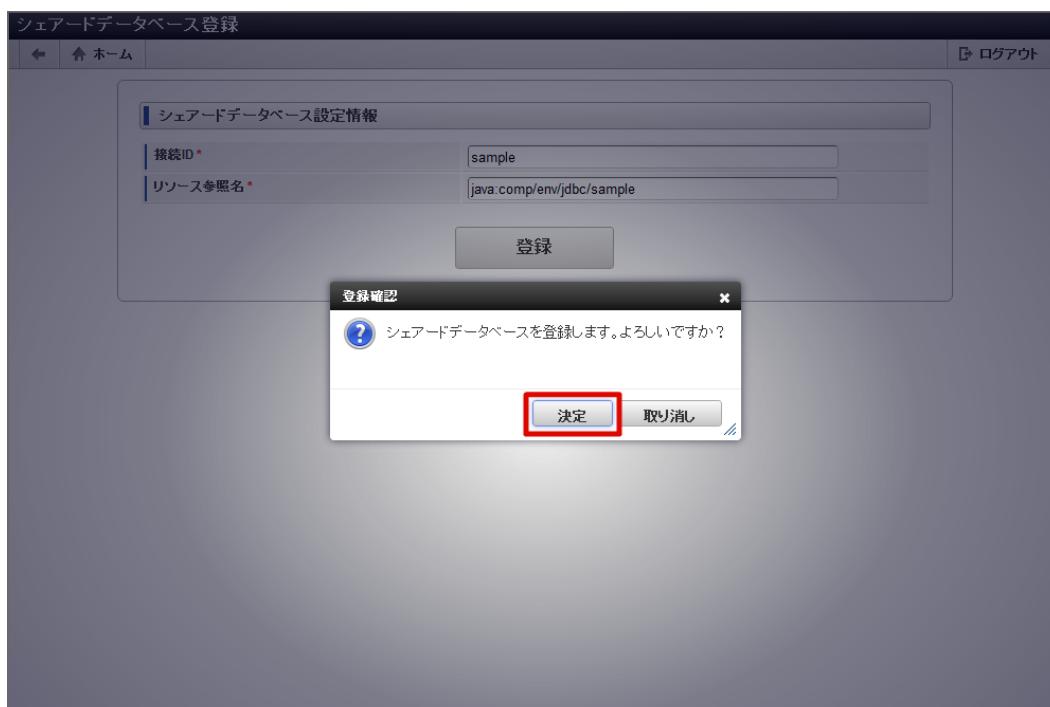
◆ ホーム ログアウト

シェアードデータベース設定情報

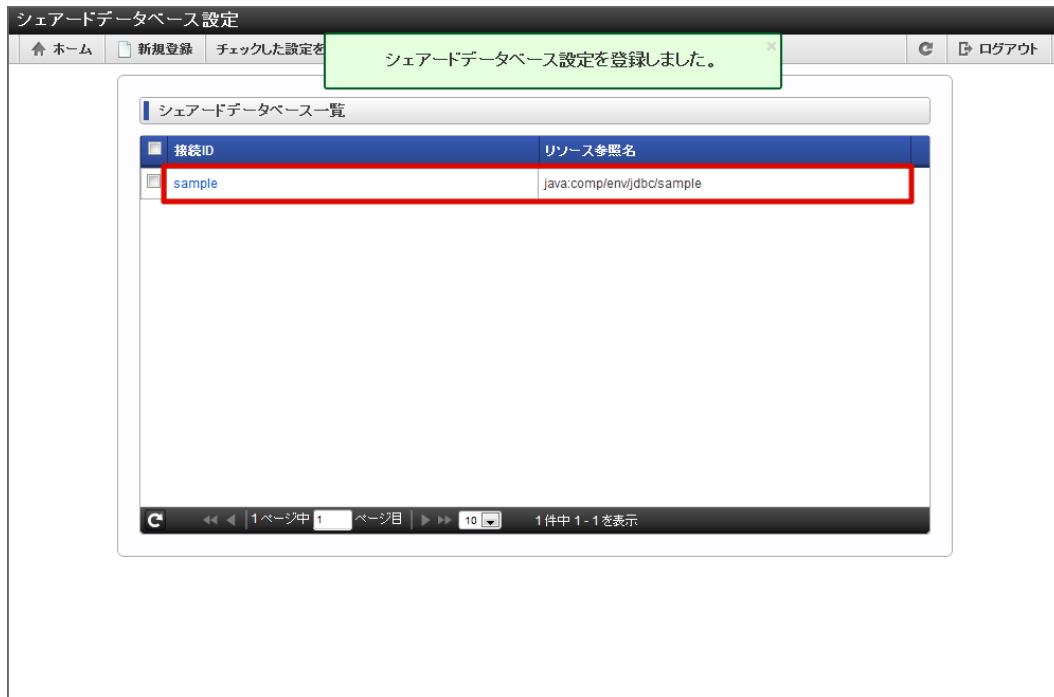
接続ID * sample
リソース参照名 * java:comp/env/jdbc/sample

登録

5. 「決定」をクリックします。



6. シェアードデータベースを登録することができました。



コラム

「編集」する場合

対象の「接続ID」をクリックします。



コラム

「削除」する場合

1. 「Shareードデータベース一覧」から削除したいShareードデータベースにチェックを入れます。
2. 「チェックした設定を削除」をクリックします。



注意

設定内容は、システムストレージに保存されます。

システムストレージにデータベース設定が存在する場合、その設定内容が反映されます。

その為、WARを再作成する際にデータベース設定を変更しても反映されない可能性があります。

ログインセッション一覧

操作中のテナントのログイン状況を参照・無効化することができます。

二重ログイン防止機能

二重ログイン防止機能とは、既にログイン中のユーザと同じユーザで別の環境（ブラウザ）からログインできないようにするための機能です。

一般ユーザのログイン時にログインセッション情報がデータベースに登録されます。ログイン中、その情報は保持されています。別の環境より同じユーザでログインしようとした際に、ログインセッション情報が存在する場合はログインできません。

二重ログインが検出されると認証失敗となり、以下のような認証エラー画面が表示されます。



セッションの無効化の操作

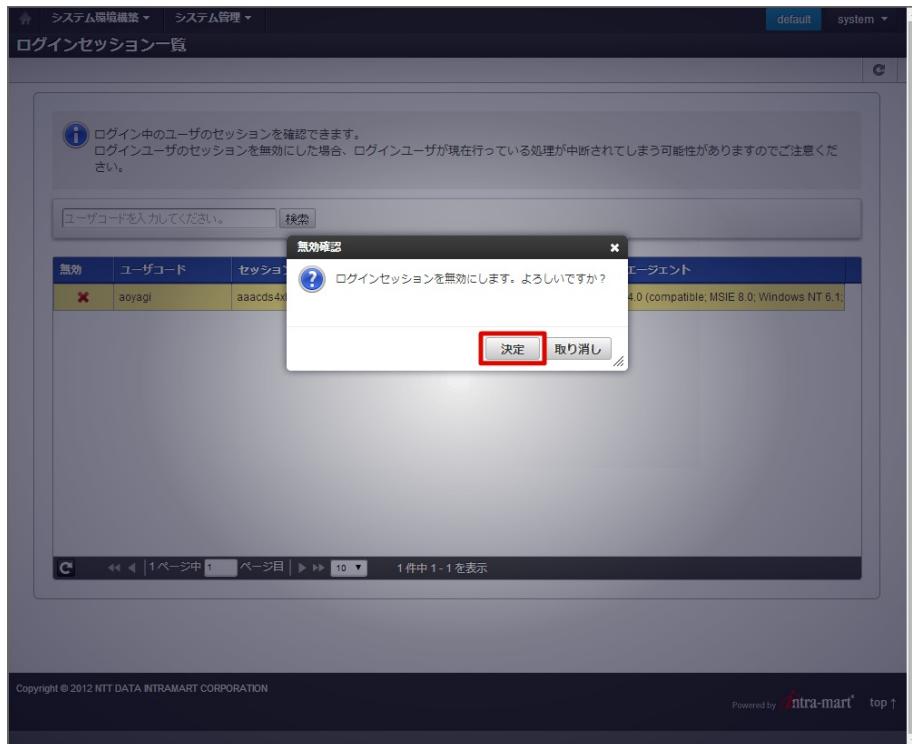
システム管理者は、操作中のテナントのテナント管理者および一般ユーザのログインセッションを無効化することができます。ログインセッションを無効化すると、ログイン中のユーザは強制的にログアウトされます。このため、行っていた処理も中断されてセッションタイムアウトの画面が表示されます。

1. 「システム管理」→「ログインセッション一覧」をクリックします。
2. 一覧よりログインセッションを無効化したいユーザの無効アイコン「×」をクリックします。

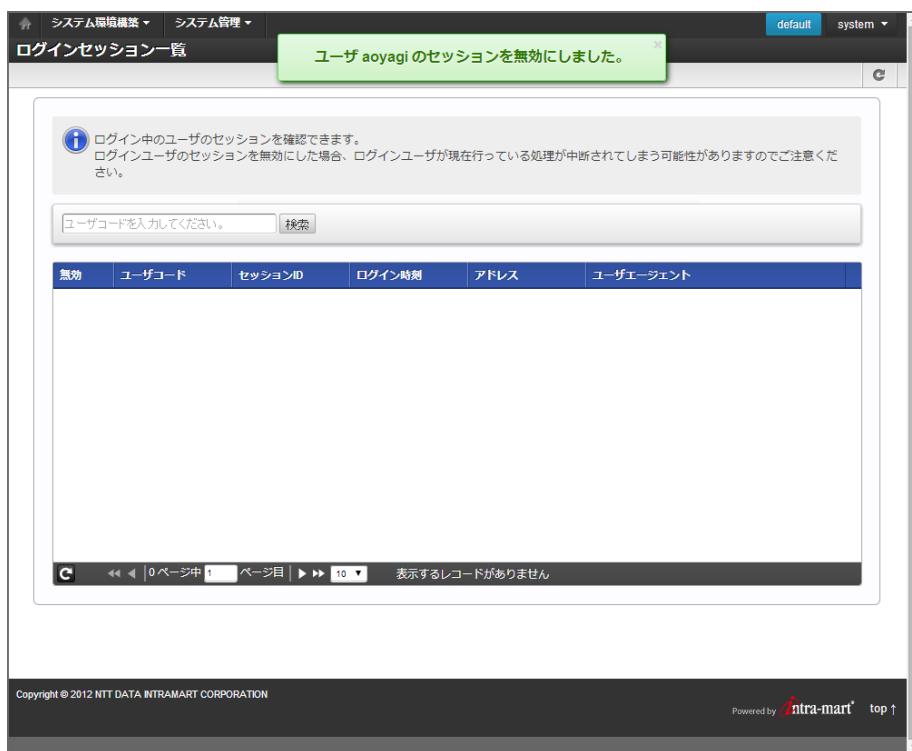
無効	ユーザコード	セッションID	ログイン時刻	アドレス	ユーザエージェント
	aoyagi	aaacds4xFI955U33yO	Jun 17, 2014 2:53:51 F [::1]		Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 8.0; Windows NT 6.1)

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION
Powered by top ↑

3. 確認ダイアログの「決定」をクリックします。



4. ログインセッションを無効化できました。



一般ユーザ管理

詳細は「IM-共通マスター 管理者操作ガイド」 - 「ユーザ」を参照してください。

ポートレット管理

詳細は「ポータル 管理者操作ガイド」 - 「標準ポートレットを初期化する」を参照してください。

ポータル設定

詳細は「ポータル 管理者操作ガイド」 - 「ポータル設定を変更する」を参照してください。

クロスオリジンリソース共有設定を一覧表示します。

クロスオリジンリソース共有設定の新規登録、編集、削除、インポート、エクスポートなどの操作が行えます。

i コラム

クロスオリジンリソース共有の詳細については、以下のドキュメントを参照ください。

- <https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTTP/CORS> (日本語)
- <https://developer.mozilla.org/en-US/docs/Web/HTTP/CORS> (English)
- https://developer.mozilla.org/zh-CN/docs/Web/HTTP/Access_control_CORS (中文)

!

注意

クロスオリジンリソース共有設定は、intra-mart Accel Platform 2019 Summer(Waltz) 以降で利用できます。

目次

- [クロスオリジンリソース共有設定の一覧を確認する](#)
- [クロスオリジンリソース共有設定を登録する](#)
- [クロスオリジンリソース共有設定をインポートする](#)
- [クロスオリジンリソース共有設定をエクスポートする](#)
- [クロスオリジンリソース共有設定のキャッシュ情報を削除する](#)

クロスオリジンリソース共有設定の一覧を確認する

1. 「システム管理」→「クロスオリジンリソース共有設定」をクリックします。

クロスオリジンリソース共有設定一覧画面

ツールバー項目の説明

項目	説明
新規登録	クリックすることで、クロスオリジンリソース共有設定の新規登録を行います。
インポート	クリックすることで、クロスオリジンリソース共有設定のインポートを行います。
エクスポート	クリックすることで、クロスオリジンリソース共有設定のエクスポートを行います。
キャッシュクリア	クリックすることで、クロスオリジンリソース共有設定のキャッシュをクリアします。
最新情報	クリックすることで、クロスオリジンリソース共有設定の最新情報を取得します。

検索エリアの説明

項目	説明
パス	「パス」での部分一致の絞り込み条件です。 入力しない場合は、すべてが検索対象です。
Access-Control-Allow-Origin	「Access-Control-Allow-Origin」での部分一致の絞り込み条件です。 入力しない場合は、すべてが検索対象です。
備考	「備考」での絞り込み条件です。 入力しない場合は、すべてが検索対象です。
検索ボタン	「パス」と「Access-Control-Allow-Origin」と「備考」の3項目によって絞り込み検索を行います。 3項目をAND条件で検索します。
クリアボタン	「パス」と「Access-Control-Allow-Origin」と「備考」の3項目に入力された値をクリアします。

リスト項目の説明

リスト項目	説明
編集	アイコンをクリックすることで、クロスオリジンリソース共有設定の編集を行います。
パス	パスを表示します。
Access-Control-Allow-Origin	Access-Control-Allow-Originを表示します。
削除	アイコンをクリックすることで、クロスオリジンリソース共有設定の削除を行います。

クロスオリジンリソース共有設定を登録する

- 「システム管理」→「クロスオリジンリソース共有設定」をクリックします。
- 「新規登録」をクリックします。



- 「クロスオリジンリソース共有設定 - 新規登録」画面が表示されます。

クロスオリジンリソース共有設定 - 新規登録画面

クロスオリジンリソース共有設定					
パス*	<input type="text"/>				
Access-Control-Allow-Origin *	<input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="削除"/> <table border="1"> <tr> <td>オリジン</td> <td><input type="button" value="削除"/></td> </tr> <tr> <td><input type="text"/></td> <td><input type="button" value="X"/></td> </tr> </table>	オリジン	<input type="button" value="削除"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="X"/>
オリジン	<input type="button" value="削除"/>				
<input type="text"/>	<input type="button" value="X"/>				
Access-Control-Allow-Methods *	<input type="checkbox"/> すべて選択 <input type="checkbox"/> すべて解除 <input type="checkbox"/> CONNECT <input type="checkbox"/> HEAD <input type="checkbox"/> PATCH <input type="checkbox"/> TRACE <input type="checkbox"/> DELETE <input type="checkbox"/> LINK <input type="checkbox"/> POST <input type="checkbox"/> UNLINK <input type="checkbox"/> GET <input type="checkbox"/> OPTIONS <input type="checkbox"/> PUT				
Access-Control-Allow-Headers	<input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="削除"/> <table border="1"> <tr> <td>ヘッダ</td> <td><input type="button" value="削除"/></td> </tr> <tr> <td><input type="text"/></td> <td><input type="button" value="X"/></td> </tr> </table>	ヘッダ	<input type="button" value="削除"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="X"/>
ヘッダ	<input type="button" value="削除"/>				
<input type="text"/>	<input type="button" value="X"/>				
Access-Control-Expose-Headers	<input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="削除"/> <table border="1"> <tr> <td>ヘッダ</td> <td><input type="button" value="削除"/></td> </tr> <tr> <td><input type="text"/></td> <td><input type="button" value="X"/></td> </tr> </table>	ヘッダ	<input type="button" value="削除"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="X"/>
ヘッダ	<input type="button" value="削除"/>				
<input type="text"/>	<input type="button" value="X"/>				
Access-Control-Allow-Credentials	<input checked="" type="checkbox"/>				
Access-Control-Max-Age	<input type="text" value="1"/>				
備考	<input type="text"/>				

- パス

設定を行うリソースのパスを入力します。



コラム

PathVariables を利用したリソースに対する設定を行いたい場合は、リソースのパス設定と同様に、{xxxx} 形式で指定してください。

例えば、設定を行うリソースのパスが「/app/bar/{id}」だった場合は、同様に「/app/bar/{id}」と指定することで設定を行うことができます。

PathVariables については、「[スクリプト開発モデル プログラミングガイド - PathVariables](#)」を参照してください。

- Access-Control-Allow-Origin

クロスドメインリソース共有を許可するアクセス元 Origin を入力します。



コラム

国際化ドメイン名を使用する場合は、Punycode 変換されたドメイン名を入力してください。

ただし、Internet Explorer をお使いの場合は国際化ドメイン名を使用することはできません。

- Access-Control-Allow-Methods

リソースへアクセスするときに使用できるメソッドを選択します。

- Access-Control-Allow-Headers

リソースへアクセスするときに使用できるリクエストヘッダを入力します



コラム

OAuth や Basic 認証を使用する場合は、Authorization ヘッダを設定してください。

- Access-Control-Expose-Headers

レスポンスヘッダのうち、クライアントがアクセスできるヘッダを入力します。

- Access-Control-Allow-Credentials

リソースへアクセスするときに資格情報を使用できるかどうかを選択します。

- Access-Control-Max-Age

プリフライトリクエストの結果をキャッシングしてよい期間を入力します。

- 備考

必要に応じて備考を入力します。



コラム

各項目の詳細については、以下のドキュメントを参照ください。

- Access-Control-Allow-Origin
<https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Origin> (日本語)
<https://developer.mozilla.org/en-US/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Origin> (English)
<https://developer.mozilla.org/zh-CN/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Origin> (中文)
- Access-Control-Allow-Methods
<https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Methods> (日本語)
<https://developer.mozilla.org/en-US/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Methods> (English)
<https://developer.mozilla.org/zh-CN/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Methods> (中文)
- Access-Control-Allow-Headers
<https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Headers> (日本語)
<https://developer.mozilla.org/en-US/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Headers> (English)
<https://developer.mozilla.org/zh-CN/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Headers> (中文)
- Access-Control-Expose-Headers
<https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Expose-Headers> (日本語)
<https://developer.mozilla.org/en-US/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Expose-Headers> (English)
<https://developer.mozilla.org/zh-CN/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Expose-Headers> (中文)
- Access-Control-Allow-Credentials
<https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Credentials> (日本語)
<https://developer.mozilla.org/en-US/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Credentials> (English)
<https://developer.mozilla.org/zh-CN/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Allow-Credentials> (中文)
- Access-Control-Max-Age
<https://developer.mozilla.org/ja/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Max-Age> (日本語)
<https://developer.mozilla.org/en-US/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Max-Age> (English)
<https://developer.mozilla.org/zh-CN/docs/Web/HTTP/Headers/Access-Control-Max-Age> (中文)



コラム

IM-LogicDesigner のロジックフロールーティング情報で、レスポンスヘッダに Access-Control-Allow-Origin が指定されている場合、IM-LogicDesigner の設定が優先されます。

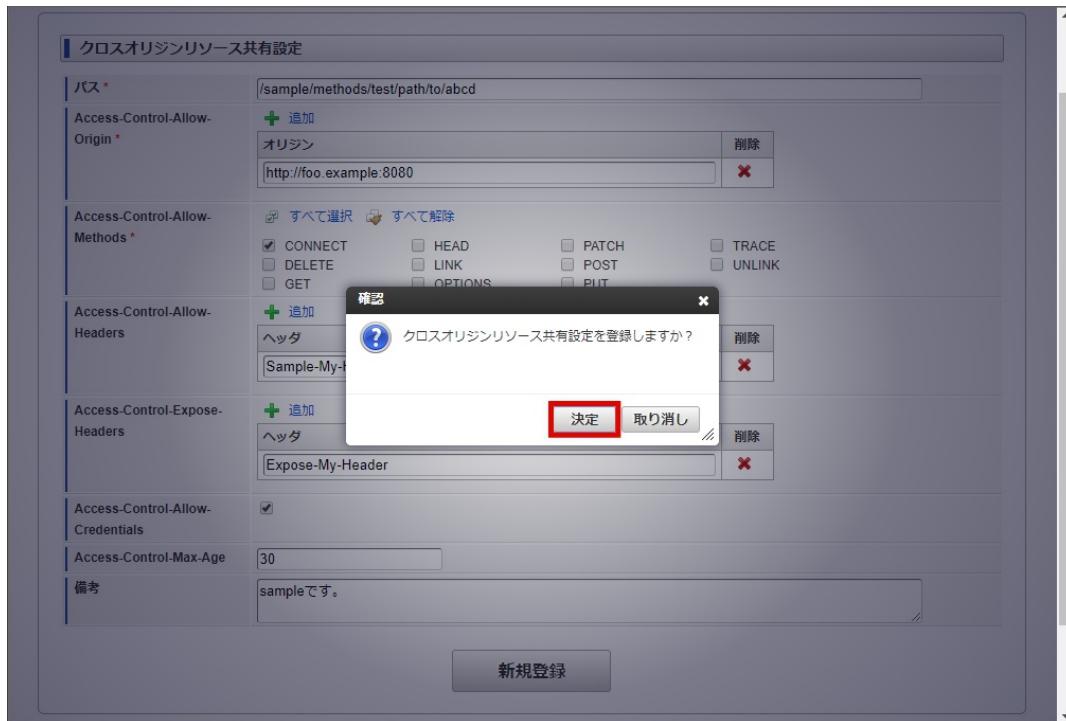
4. 「新規登録」をクリックします。

The screenshot shows the 'New Registration' dialog for configuring CORS settings. The dialog has the following fields:

- パス ***: /sample/methods/test/path/to/abcd
- Access-Control-Allow-Origin ***:
 - + 追加
 - オリジン: http://foo.example:8080
 - 削除
- Access-Control-Allow-Methods ***:
 - すべて選択
 - すべて解除
 - CONNECT
 - HEAD
 - PATCH
 - TRACE
 - DELETE
 - LINK
 - POST
 - UNLINK
 - GET
 - OPTIONS
 - PUT
- Access-Control-Allow-Headers**:
 - + 追加
 - ヘッダ: Sample-My-Header
 - 削除
- Access-Control-Expose-Headers**:
 - + 追加
 - ヘッダ: Expose-My-Header
 - 削除
- Access-Control-Allow-Credentials**:
- Access-Control-Max-Age**: 30
- 備考**: sampleです。

At the bottom right of the dialog is a red-bordered button labeled **新規登録**.

5. 「決定」をクリックします。

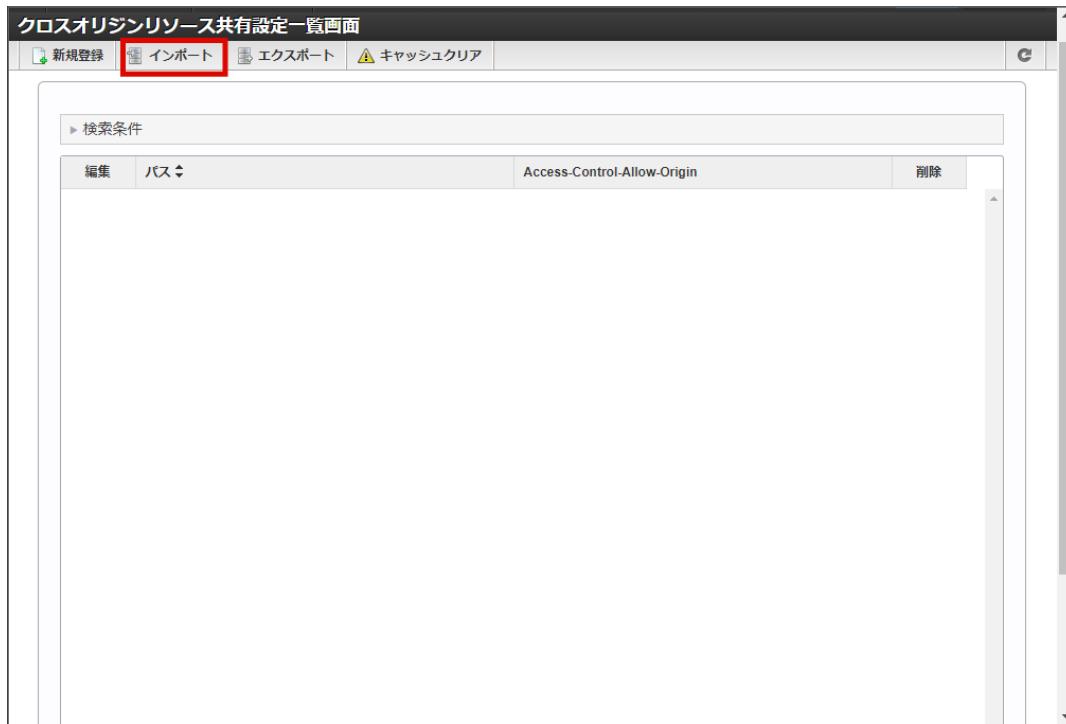


6. クロスオリジンリソース共有設定を登録できました。



クロスオリジンリソース共有設定をインポートする

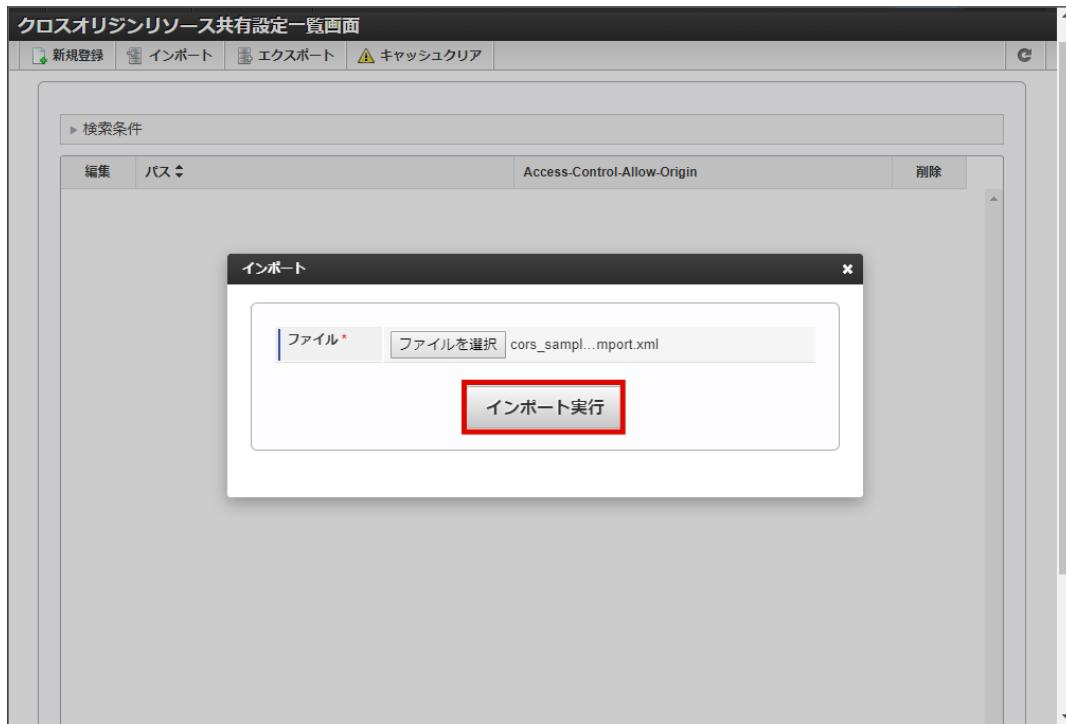
1. 「システム管理」→「クロスオリジンリソース共有設定」をクリックします。
2. 「インポート」をクリックします。



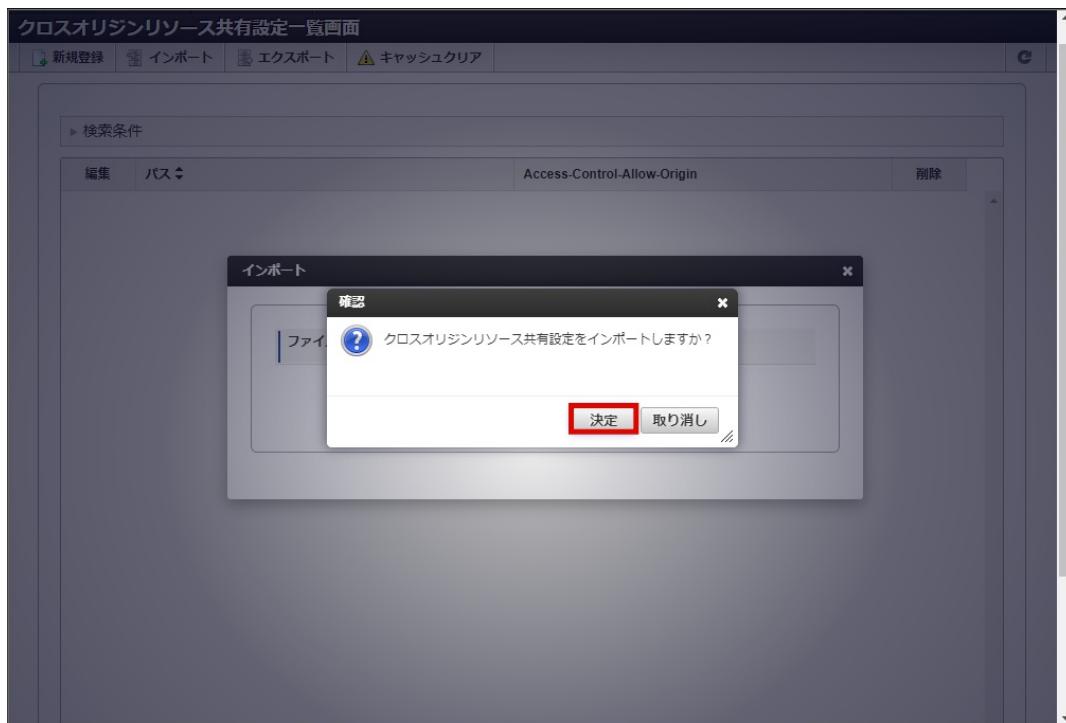
3. 「ファイルを選択」でインポートファイルを選択します。



4. 「インポート実行」をクリックします。



5. 「決定」をクリックします。



6. クロスオリジンリソース共有設定をインポートできました。

クロスオリジンリソース共有設定一覧画面

新規登録 インポート エクスポート

クロスオリジンリソース共有設定のインポートに成功しました。

編集	パス	Access-Control-Allow-Origin	削除
	/all/methods/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/asterisks/origin/false/credential/test/path/to/abcd	*	削除
	/asterisks/origin/true/credential/test/path/to/abcd	*	削除
	/connett/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/credential/false/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/credential/true/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/delete/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/get/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/get/post/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/head/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/link/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/long/origin/test/path/to/abcd	http://tonikaku.nagai.origin.no.testabcdefghijklmnoprstuvwxyz.abcdefghijklmnoprstuvwxyz.example	削除
	/max/age/negative/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/max/age/positive/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/multi/allow/header/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/multi/byte/description/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除

クロスオリジンリソース共有設定をエクスポートする

- 「システム管理」→「クロスオリジンリソース共有設定」をクリックします。
- 「エクスポート」をクリックします。

クロスオリジンリソース共有設定一覧画面

新規登録 インポート エクスポート エクスポート キャッシュクリア

編集	パス	Access-Control-Allow-Origin	削除
	/all/methods/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/asterisks/origin/false/credential/test/path/to/abcd	*	削除
	/asterisks/origin/true/credential/test/path/to/abcd	*	削除
	/connett/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/credential/false/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/credential/true/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/delete/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/get/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/get/post/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/head/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/link/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/long/origin/test/path/to/abcd	http://tonikaku.nagai.origin.no.testabcdefghijklmnoprstuvwxyz.abcdefghijklmnoprstuvwxyz.example	削除
	/max/age/negative/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/max/age/positive/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/multi/allow/header/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/multi/byte/description/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除

- 「決定」をクリックします。

The screenshot shows a list of CORS configuration entries. A confirmation dialog box is overlaid on the screen, asking 'Do you want to export CORS configuration settings?' with 'OK' and 'Cancel' buttons. The 'OK' button is highlighted with a red box.

編集	パス	Access-Control-Allow-Origin	削除
	/all/methods/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/asterisks/origin/false/credential/test/path/to/abcd	*	削除
	/asterisks/origin/true/credential/test/path/to/abcd	*	削除
	/connett/method/test/path/to/abcd		削除
	/credential/false/test/path/to/abcd		削除
	/credential/true/test/path/to/abcd		削除
	/delete/method/test/path/to/abcd		削除
	/get/method/test/path/to/abcd		削除
	/get/post/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/head/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/link/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/long/origin/test/path/to/abcd	http://tonikaku.nagai.origin.no.testabcdefghijklmnoprstuvwxyz .abcdefghijklmnoprstuvwxyz.example	削除
	/max/age/negative/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/max/age/positive/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/multi/allow/header/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/multi/bytde/description/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除

4. クロスオリジンリソース共有設定をエクスポートできました。

The screenshot shows the same list of CORS configuration entries. A green message box at the top center says 'クロスオリジンリソース共有設定のエクスポートに成功しました。' (Export of Cross-Origin Resource Sharing Configuration succeeded).

編集	パス	Access-Control-Allow-Origin	削除
	/all/methods/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/asterisks/origin/false/credential/test/path/to/abcd	*	削除
	/asterisks/origin/true/credential/test/path/to/abcd	*	削除
	/connett/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/credential/false/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/credential/true/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/delete/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/get/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/get/post/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/head/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/link/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/long/origin/test/path/to/abcd	http://tonikaku.nagai.origin.no.testabcdefghijklmnoprstuvwxyz .abcdefghijklmnoprstuvwxyz.example	削除
	/max/age/negative/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除
	/max/age/positive/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	削除

クロスオリジンリソース共有設定のキャッシュ情報を削除する

クロスオリジンリソース共有設定は、クロスオリジンリクエストを処理する度に参照されるため、高速化を目的として設定した内容がキャッシュされています。

設定通りにクロスオリジンリクエストが処理されない場合は、キャッシュ情報を削除してください。

1. 「システム管理」→「クロスオリジンリソース共有設定」をクリックします。
2. 「キャッシングクリア」をクリックします。

クロスオリジンリソース共有設定一覧画面			
	新規登録	インポート	エクスポート
検索条件			キャッシュクリア
編集	パス	Access-Control-Allow-Origin	削除
/all/methods/test/path/to/abcd	/all/methods/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/asterisks/origin/false/credential/test/path/to/abcd	/asterisks/origin/false/credential/test/path/to/abcd	*	
/asterisks/origin/true/credential/test/path/to/abcd	/asterisks/origin/true/credential/test/path/to/abcd	*	
/connett/method/test/path/to/abcd	/connett/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/credential/false/test/path/to/abcd	/credential/false/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/credential/true/test/path/to/abcd	/credential/true/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/delete/method/test/path/to/abcd	/delete/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/get/method/test/path/to/abcd	/get/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/get/post/method/test/path/to/abcd	/get/post/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/head/method/test/path/to/abcd	/head/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/link/method/test/path/to/abcd	/link/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/long/origin/test/path/to/abcd	/long/origin/test/path/to/abcd	http://tonikaku.nagai.origin.no.testabcdefghijklmnoprstuvwxyz .abcdefghijklmnoprstuvwxyz.example	
/max/age/negative/test/path/to/abcd	/max/age/negative/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/max/age/positive/test/path/to/abcd	/max/age/positive/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/multi/allow/header/test/path/to/abcd	/multi/allow/header/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/multi/byte/description/test/path/to/abcd	/multi/byte/description/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	

3. 「決定」をクリックします。

クロスオリジンリソース共有設定一覧画面			
	新規登録	インポート	エクスポート
検索条件			キャッシュクリア
編集	パス	Access-Control-Allow-Origin	削除
/all/methods/test/path/to/abcd	/all/methods/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/asterisks/origin/false/credential/test/path/to/abcd	/asterisks/origin/false/credential/test/path/to/abcd	*	
/asterisks/origin/true/credential/test/path/to/abcd	/asterisks/origin/true/credential/test/path/to/abcd	*	
/connett/method/test/path/to/abcd	/connett/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/credential/false/test/path/to/abcd	/credential/false/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/credential/true/test/path/to/abcd	/credential/true/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/delete/method/test/path/to/abcd	/delete/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/get/method/test/path/to/abcd	/get/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/get/post/method/test/path/to/abcd	/get/post/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/head/method/test/path/to/abcd	/head/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/link/method/test/path/to/abcd	/link/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/long/origin/test/path/to/abcd	/long/origin/test/path/to/abcd	http://tonikaku.nagai.origin.no.testabcdefghijklmnoprstuvwxyz .abcdefghijklmnoprstuvwxyz.example	
/max/age/negative/test/path/to/abcd	/max/age/negative/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/max/age/positive/test/path/to/abcd	/max/age/positive/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/multi/allow/header/test/path/to/abcd	/multi/allow/header/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
/multi/byte/description/test/path/to/abcd	/multi/byte/description/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	

4. クロスオリジンリソース共有設定のキャッシュが削除されます。

クロスオリジンリソース共有設定一覧画面			
新規登録	インポート	エクスポート	
クロスオリジンリソース共有設定のキャッシュをクリアしました。			
▶ 検索条件			
編集	パス	Access-Control-Allow-Origin	削除
	/all/methods/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/asterisks/origin/false/credential/test/path/to/abcd	*	
	/asterisks/origin/true/credential/test/path/to/abcd	*	
	/connett/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/credential/false/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/credential/true/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/delete/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/get/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/get/post/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/head/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/link/method/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/long/origin/test/path/to/abcd	http://tonikaku.nagai.origin.no.test.abcdefghijklmnopqrstuvwxyz.abcdefghijklmnopqrstuvwxyz.example	
	/max/age/negative/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/max/age/positive/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/multi/allow/header/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	
	/multi/byte/description/test/path/to/abcd	http://foo.example:8080	

システム用OAuthプロバイダ設定

システム用OAuthプロバイダ設定を一覧表示します。

システム用OAuthプロバイダ設定の新規登録、編集、削除、インポート、エクスポートなどの操作が行えます。

目次

- システム用OAuthプロバイダ設定の一覧を確認する
- システム用OAuthプロバイダ設定を登録する
- システム用OAuthプロバイダ設定を更新する
- システム用OAuthプロバイダ設定を削除する
- システム用OAuthプロバイダ設定をエクスポートする
 - すべての設定情報をエクスポートする
 - 特定の設定情報をエクスポートする
- システム用OAuthプロバイダ設定をインポートする

システム用OAuthプロバイダ設定の一覧を確認する

1. 「システム管理」→「システム用OAuthプロバイダ設定」をクリックします。

編集	ID	名前	説明
	provider-1	システムプロバイダ 1	システムプロバイダ 1 の説明です
	provider-2	システムプロバイダ 2	システムプロバイダ 2 の説明です

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION
Powered by intra-mart | top ↑

ツールバー項目の説明

項目	説明
新規登録	システム用OAuthプロバイダ設定の新規登録画面へ遷移します。
インポート	システム用OAuthプロバイダ設定のインポート画面へ遷移します。
エクスポート	システム用OAuthプロバイダ設定のエクスポート画面へ遷移します。
最新情報	システム用OAuthプロバイダ設定の最新情報を取得します。

リスト項目の説明

リスト項目	説明
編集	アイコンをクリックすることで、システム用OAuthプロバイダ設定の編集を行います。
ID	システムプロバイダIDを表示します。
名前	システムプロバイダ名を表示します。
説明	システム用OAuthプロバイダ設定の説明を表示します。

システム用OAuthプロバイダ設定を登録する

- 「システム管理」→「システム用OAuthプロバイダ設定」をクリックします。
- 「新規登録」をクリックします。

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

3. 「システム用OAuthプロバイダ設定」画面が表示されます。

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

- プロバイダ設定
 - システムプロバイダ設定の管理情報を設定します。
 - 名前、説明は「+」ボタンクリックで多言語入力が可能です。
- OAuth設定
 - 外部連携アプリケーションで利用するOAuthプロバイダの情報を設定します。

4. 「登録」をクリックします。

システム用OAuthプロバイダ設定

プロバイダ設定

システムプロバイダID*	provider-3
システムプロバイダ種別*	standard
名前	標準* [システムプロバイダ3] [+]
説明	標準 [プロバイダ3の説明です] [+]
アイコン	画像 [ファイル選択 icon4.png] 削除 [x]

OAuth設定

認可エンドポイント*	[REDACTED]
トークンエンドポイント*	[REDACTED]
クライアントID*	[REDACTED]
クライアントシークレット*	[REDACTED]
アクセス範囲（スコープ）	[REDACTED]
コード交換用証明キー（PKCE）	plain
追加設定	+ 行追加 [パラメータ名 param1 パラメータ値 value1] 削除 [x]

登録

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

5. 「決定」をクリックします。

システム用OAuthプロバイダ設定

プロバイダ設定

システムプロバイダID*	provider-3
システムプロバイダ種別*	standard
名前	標準* [システムプロバイダ3] [+]
説明	システムプロバイダ3の説明です [+]
アイコン	画像 [ファイル選択 icon4.png] 削除 [x]

OAuth設定

認可エンドポイント*	[REDACTED]
トークンエンドポイント*	[REDACTED]
クライアントID*	[REDACTED]
クライアントシークレット*	[REDACTED]
アクセス範囲（スコープ）	[REDACTED]
コード交換用証明キー（PKCE）	plain
追加設定	+ 行追加 [パラメータ名 param1 パラメータ値 value1] 削除 [x]

[確認] 設定情報を登録します。よろしいですか？

決定 取り消し

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

6. システム用OAuthプロバイダ設定を登録できました。

The screenshot shows the 'System OAuth Provider Settings' page. At the top, there is a green banner with the text '設定情報を登録しました。'. Below the banner is a table listing three OAuth providers:

編集	ID	名前	説明
	provider-1	システムプロバイダ1	システムプロバイダ1の説明です
	provider-2	システムプロバイダ2	システムプロバイダ2の説明です
	provider-3	システムプロバイダ3	システムプロバイダ3の説明です

At the bottom of the table, there is a pagination bar showing '1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 25 ▶▶ 3 件中 1 - 3 を表示'.

At the bottom of the page, there is a footer with 'Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION' and 'Powered by intra-mart' with a 'top ↑' link.

システム用OAuthプロバイダ設定を更新する

- 「編集」アイコンをクリックします。

The screenshot shows the same 'System OAuth Provider Settings' page as the previous one, but with a red box highlighting the 'Edit' icon in the first column of the third row (provider-3).

At the bottom of the table, there is a pagination bar showing '1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 25 ▶▶ 3 件中 1 - 3 を表示'.

At the bottom of the page, there is a footer with 'Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION' and 'Powered by intra-mart' with a 'top ↑' link.

- 「システム用OAuthプロバイダ設定」画面が表示されます。

システム用OAuthプロバイダ設定

プロバイダ設定

システムプロバイダID	provider-3		
システムプロバイダ種別*	standard		
名前	標準*	システムプロバイダ3	+
説明	標準	システムプロバイダ3の説明です	+
アイコン	画像	ファイル選択	削除
		ファイルを選択 指定されていません	×

OAuth設定

認可エンドポイント*	[REDACTED]					
トークンエンドポイント*	[REDACTED]					
クライアントID*	[REDACTED]					
クライアントシークレット*	[REDACTED]					
アクセス範囲（スコープ）	[REDACTED]					
コード交換用証明キー（PKCE）	plain					
追加設定	+ 行追加 <table border="1"> <tr> <td>パラメータ名</td> <td>param1</td> <td>パラメータ値</td> <td>value1</td> <td>削除</td> </tr> </table>	パラメータ名	param1	パラメータ値	value1	削除
パラメータ名	param1	パラメータ値	value1	削除		

更新 **削除**

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

3. 内容を変更し、「更新」をクリックします。

システム用OAuthプロバイダ設定

プロバイダ設定

システムプロバイダID	provider-3		
システムプロバイダ種別*	standard		
名前	標準*	システムプロバイダ3	+
説明	標準	システムプロバイダ3の説明です	+
アイコン	画像	ファイル選択	削除
		ファイルを選択 指定されていません	×

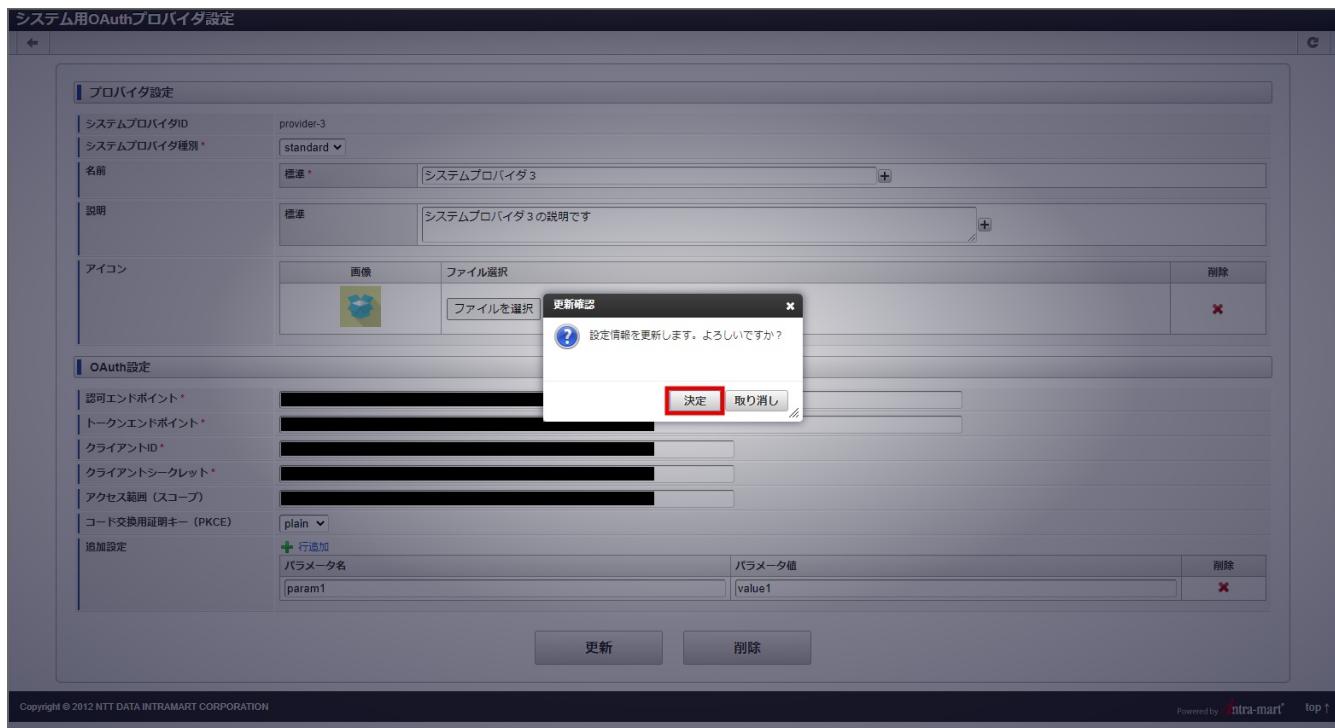
OAuth設定

認可エンドポイント*	[REDACTED]					
トークンエンドポイント*	[REDACTED]					
クライアントID*	[REDACTED]					
クライアントシークレット*	[REDACTED]					
アクセス範囲（スコープ）	[REDACTED]					
コード交換用証明キー（PKCE）	plain					
追加設定	+ 行追加 <table border="1"> <tr> <td>パラメータ名</td> <td>param1</td> <td>パラメータ値</td> <td>value1</td> <td>削除</td> </tr> </table>	パラメータ名	param1	パラメータ値	value1	削除
パラメータ名	param1	パラメータ値	value1	削除		

更新 **削除**

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

4. 「決定」をクリックします。



5. システム用OAuthプロバイダ設定を更新できました。

The screenshot shows the 'System OAuth Provider Settings' page after the update. A green message bar at the top right says '設定情報を更新しました。' (The settings have been updated.). The main area displays a table of providers:

編集	ID	名前	説明
	provider-1	システムプロバイダ1	システムプロバイダ1の説明です
	provider-2	システムプロバイダ2	システムプロバイダ2の説明です
	provider-3	システムプロバイダ3	システムプロバイダ3の説明です

At the bottom, there is a navigation bar with icons for back, forward, search, and page numbers (1/28).

システム用OAuthプロバイダ設定を削除する

- 「編集」アイコンをクリックします。

システム用OAuthプロバイダ設定

新規作成 インポート エクスポート

編集	ID	名前	説明
	provider-1	システムプロバイダ1	システムプロバイダ1の説明です
	provider-2	システムプロバイダ2	システムプロバイダ2の説明です
	provider-3	システムプロバイダ3	システムプロバイダ3の説明です

1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 25 3件中 1 - 3 を表示

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

2. 「システム用OAuthプロバイダ設定」画面が表示されます。

システム用OAuthプロバイダ設定

プロバイダ設定

システムプロバイダID	provider-3
システムプロバイダ種別*	standard
名前	標準* [システムプロバイダ3]
説明	標準 [システムプロバイダ3の説明です]
アイコン	画像 [ファイル選択]

OAuth設定

認可エンドポイント*	[Redacted]
トークンエンドポイント*	[Redacted]
クライアントID*	[Redacted]
クライアントシークレット*	[Redacted]
アクセス範囲（スコープ）	[Redacted]
コード交換用証明キー（PKCE）	plain
追加設定	パラメータ名 [param1] パラメータ値 [value1]

更新 削除

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

3. 「削除」をクリックします。

システム用OAuthプロバイダ設定

プロバイダ設定

システムプロバイダID	provider-3		
システムプロバイダ種別*	standard		
名前	標準*	システムプロバイダ3	+
説明	標準	システムプロバイダ3の説明です	+
アイコン	画像	ファイル選択	削除
		ファイルを選択	X

OAuth設定

認可エンドポイント*	[REDACTED]		
トークンエンドポイント*	[REDACTED]		
クライアントID*	[REDACTED]		
クライアントシークレット*	[REDACTED]		
アクセス範囲（スコープ）	[REDACTED]		
コード交換用証明キー（PKCE）	plain		
追加設定	+ 行追加		
	パラメータ名	パラメータ値	削除
	param1	value1	X

更新 **削除**

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

4. 「決定」をクリックします。

システム用OAuthプロバイダ設定

プロバイダ設定

システムプロバイダID	provider-3		
システムプロバイダ種別*	standard		
名前	標準*	システムプロバイダ3	+
説明	標準	システムプロバイダ3の説明です	+
アイコン	画像	ファイル選択	削除
		ファイルを選択	X

OAuth設定

認可エンドポイント*	[REDACTED]		
トークンエンドポイント*	[REDACTED]		
クライアントID*	[REDACTED]		
クライアントシークレット*	[REDACTED]		
アクセス範囲（スコープ）	[REDACTED]		
コード交換用証明キー（PKCE）	plain		
追加設定	+ 行追加		
	パラメータ名	パラメータ値	削除
	param1	value1	X

削除確認

設定情報を削除します。よろしいですか？

決定 **取り消し**

更新 **削除**

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

5. システム用OAuthプロバイダ設定を削除できました。

The screenshot shows the 'System OAuth Provider Settings' page. At the top, there is a green banner with the text '設定情報を削除しました。'. Below the banner is a table listing two providers:

編集	ID	名前	説明
	provider-1	システムプロバイダ1	システムプロバイダ1の説明です
	provider-2	システムプロバイダ2	システムプロバイダ2の説明です

At the bottom of the page, there is a navigation bar with links for '新規作成', 'インポート', and 'エクスポート'. The 'エクスポート' button is highlighted.

システム用OAuthプロバイダ設定をエクスポートする

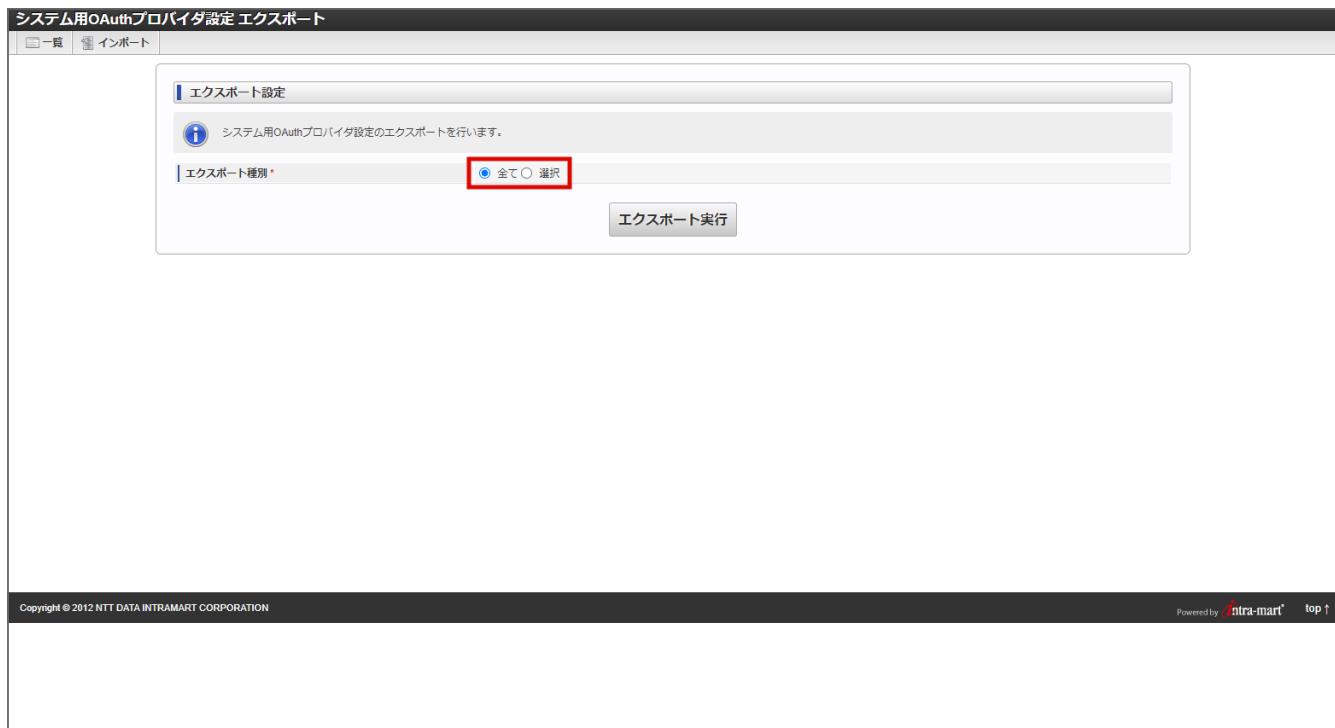
- すべての設定情報をエクスポートする
- 特定の設定情報をエクスポートする

すべての設定情報をエクスポートする

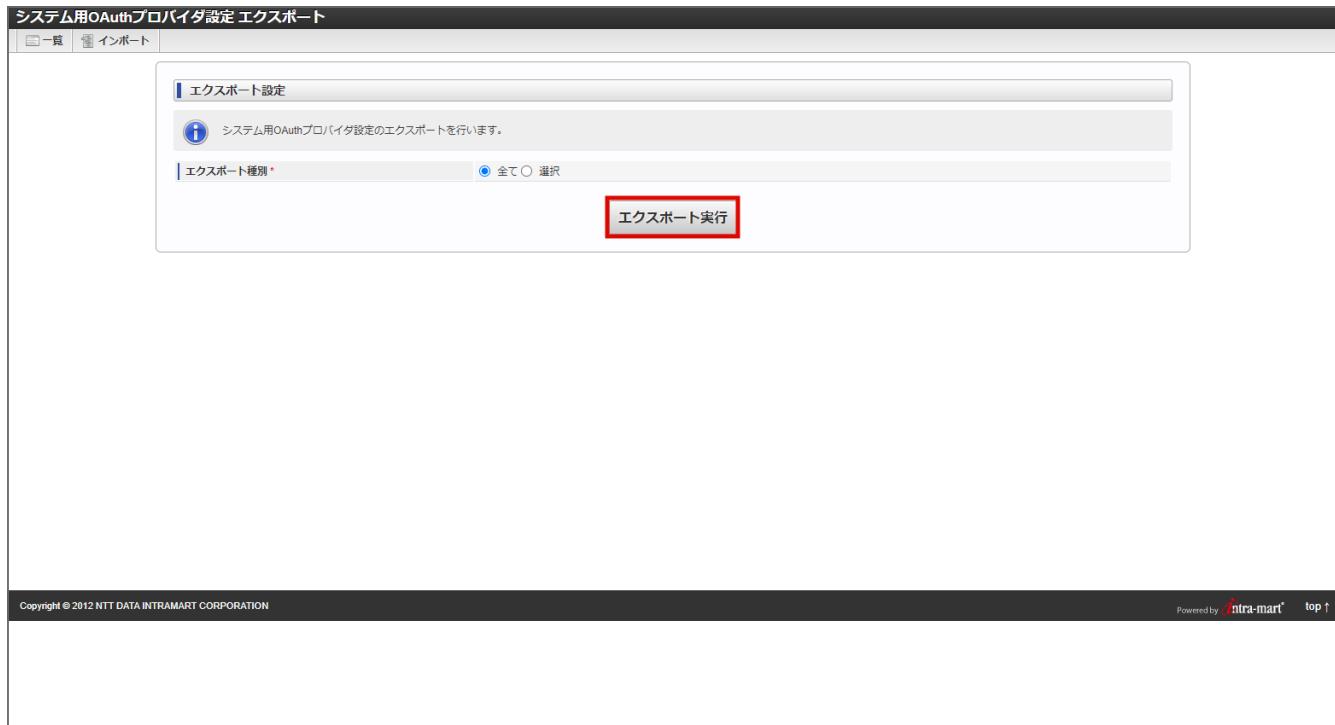
1. 「システム管理」→「システム用OAuthプロバイダ設定」をクリックします。
2. 「エクスポート」をクリックします。

The screenshot shows the 'System OAuth Provider Settings' page with the 'Export' tab selected. The table displays the same two providers as the previous screenshot.

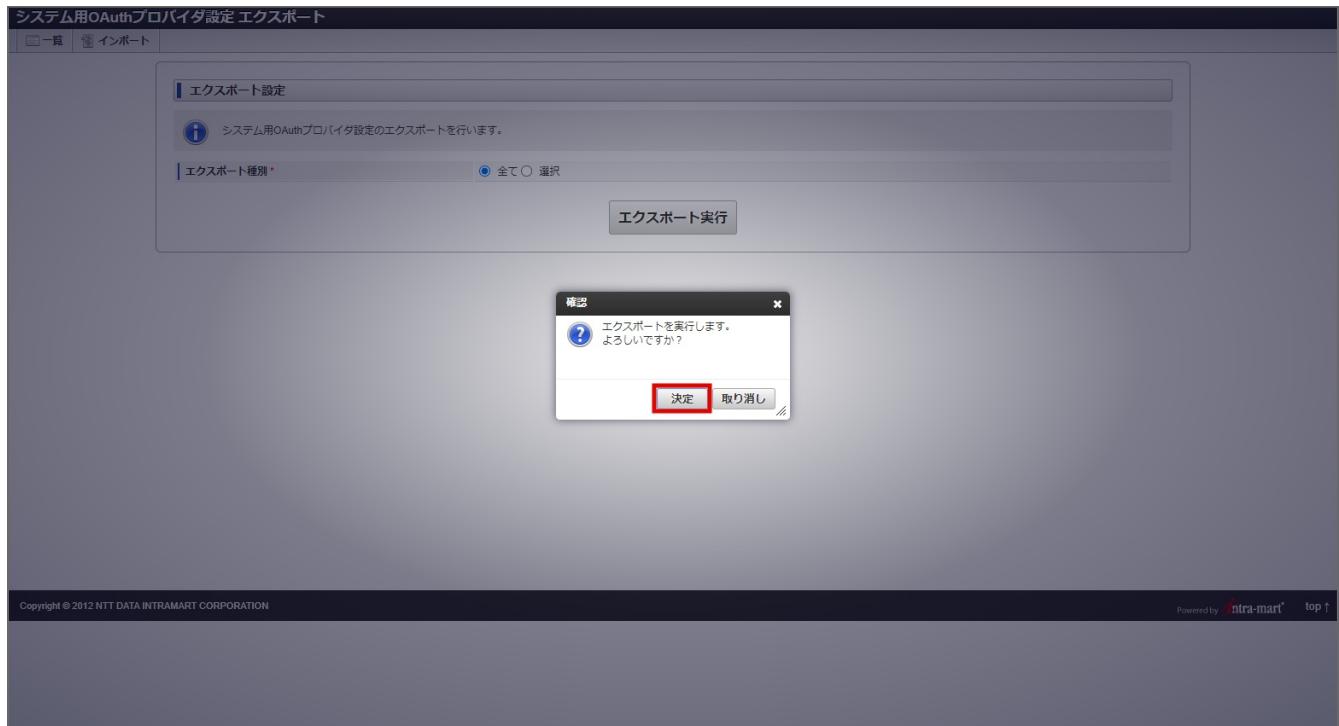
3. エクスポートタイプのラジオボタン「全て」にチェックが入っていることを確認します。



4. 「エクスポート実行」ボタンをクリックします。



5. 「決定」をクリックします。



6. システム用OAuthプロバイダ設定をエクスポートできました。



特定の設定情報をエクスポートする

- エクスポートタイプのラジオボタン「選択」をクリックし、システム用OAuthプロバイダ設定の一覧を表示します。

システム用OAuthプロバイダ設定 エクスポート

一覧 インポート

エクスポート設定

システム用OAuthプロバイダ設定のエクスポートを行います。

エクスポート種別*

全て 選択

対象一覧

参照	ID	名前	説明
<input type="checkbox"/>	provider-1	システムプロバイダ1	システムプロバイダ1の説明です
<input type="checkbox"/>	provider-2	システムプロバイダ2	システムプロバイダ2の説明です

1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 25 ページ | 2件中 1 - 2 を表示

エクスポート実行

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

2. 一覧からエクスポートする設定情報を選択します。

システム用OAuthプロバイダ設定 エクスポート

一覧 インポート

エクスポート設定

システム用OAuthプロバイダ設定のエクスポートを行います。

エクスポート種別*

全て 選択

対象一覧

参照	ID	名前	説明
<input checked="" type="checkbox"/>	provider-1	システムプロバイダ1	システムプロバイダ1の説明です
<input type="checkbox"/>	provider-2	システムプロバイダ2	システムプロバイダ2の説明です

1ページ中 1 ページ目 | ▶▶ 25 ページ | 2件中 1 - 2 を表示

エクスポート実行

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

3. 「エクスポート実行」ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'System OAuth Provider Settings Export' page. At the top, there are tabs for '一覧' (List) and 'インポート' (Import). Below the tabs, there's a message: 'システム用OAuthプロバイダ設定のエクスポートを行います。' (Exporting system OAuth provider settings). A radio button group 'エクスポート種別' is set to '選択' (Select). A table titled '対象一覧' (Target List) displays two entries:

参照	ID	名前	説明
<input checked="" type="checkbox"/>	provider-1	システムプロバイダ1	システムプロバイダ1の説明です
<input type="checkbox"/>	provider-2	システムプロバイダ2	システムプロバイダ2の説明です

At the bottom right of the table area, there is a red-bordered button labeled 'エクスポート実行' (Execute Export).

At the very bottom of the page, there is a footer with 'Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION' and 'Powered by intra-mart' with a 'top ↑' link.

4. 「決定」をクリックします。

This screenshot shows the same page as above, but with a confirmation dialog box overlaid. The dialog has a title '確認' (Confirmation) and contains the message: 'エクスポートを実行します。よろしいですか？' (We will execute the export. Is it okay?). It features two buttons: '決定' (Decision) with a red border and '取り消し' (Cancel). The rest of the page content is dimmed.

At the bottom right of the page, there is a footer with 'Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION' and 'Powered by intra-mart' with a 'top ↑' link.

5. システム用OAuthプロバイダ設定をエクスポートできました。

システム用OAuthプロバイダ設定 エクスポート

エクスポートに成功しました。

エクスポート設定

システム用OAuthプロバイダ設定のエクスポートを行います。

エクスポート種別: 全て 選択

対象一覧

参照	ID	名前	説明
<input checked="" type="checkbox"/>	provider-1	システムプロバイダ1	システムプロバイダ1の説明です
<input type="checkbox"/>	provider-2	システムプロバイダ2	システムプロバイダ2の説明です

エクスポート実行

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

system-oauth-provider.xml すべて表示 ×

システム用OAuthプロバイダ設定をインポートする

- 「システム管理」→「システム用OAuthプロバイダ設定」をクリックします。
- 「インポート」をクリックします。

システム用OAuthプロバイダ設定

新規作成 インポート エクスポート

編集 ID 名前 説明

	provider-1	システムプロバイダ1	システムプロバイダ1の説明です
	provider-2	システムプロバイダ2	システムプロバイダ2の説明です

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

項目	説明
インポート種別	インポート処理の種別を選択します。 新規：インポート対象の情報が存在しない場合のみインポートを行います。 更新：全ての情報のインポートを行います。インポート対象の情報が存在する場合、上書きされます。

- 「システム用OAuthプロバイダ設定をエクスポートする」でエクスポートしたインポートファイルを選択します。

システム用OAuthプロバイダ設定 インポート

一覧 エクスポート

インポート設定

システム用OAuthプロバイダ設定のインポートを行います。
新規：同じIDのデータが存在する場合スキップします。
更新：同じIDのデータが存在する場合上書きされます。

インポート種別 * 新規 更新

インポートファイル * ファイルを選択 system-oauth-provider.xml

インポート

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

4. 「インポート」をクリックします。

システム用OAuthプロバイダ設定 インポート

一覧 エクスポート

インポート設定

システム用OAuthプロバイダ設定のインポートを行います。
新規：同じIDのデータが存在する場合スキップします。
更新：同じIDのデータが存在する場合上書きされます。

インポート種別 * 新規 更新

インポートファイル * ファイルを選択 system-oauth-provider.xml

インポート

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

5. 「インポート実行」をクリックします。

システム用OAuthプロバイダ設定 インポート確認

インポートデータ			
ID	名前	説明	処理予定内容
provider-3	SystemProvider 3	Explanation of SystemProvider 3	システム用OAuthプロバイダ設定を新規登録します。

[戻る](#) [インポート実行](#)

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

6. システム用OAuthプロバイダ設定をインポートできました。

システム用OAuthプロバイダ設定 インポート結果

結果件数		
総件数	新規登録件数	スキップ件数
1	1	0

結果詳細	
ID	内容
provider-3	システム用OAuthプロバイダ設定を新規登録しました。

[インポート画面へ](#)

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

システム用外部連携アプリケーション

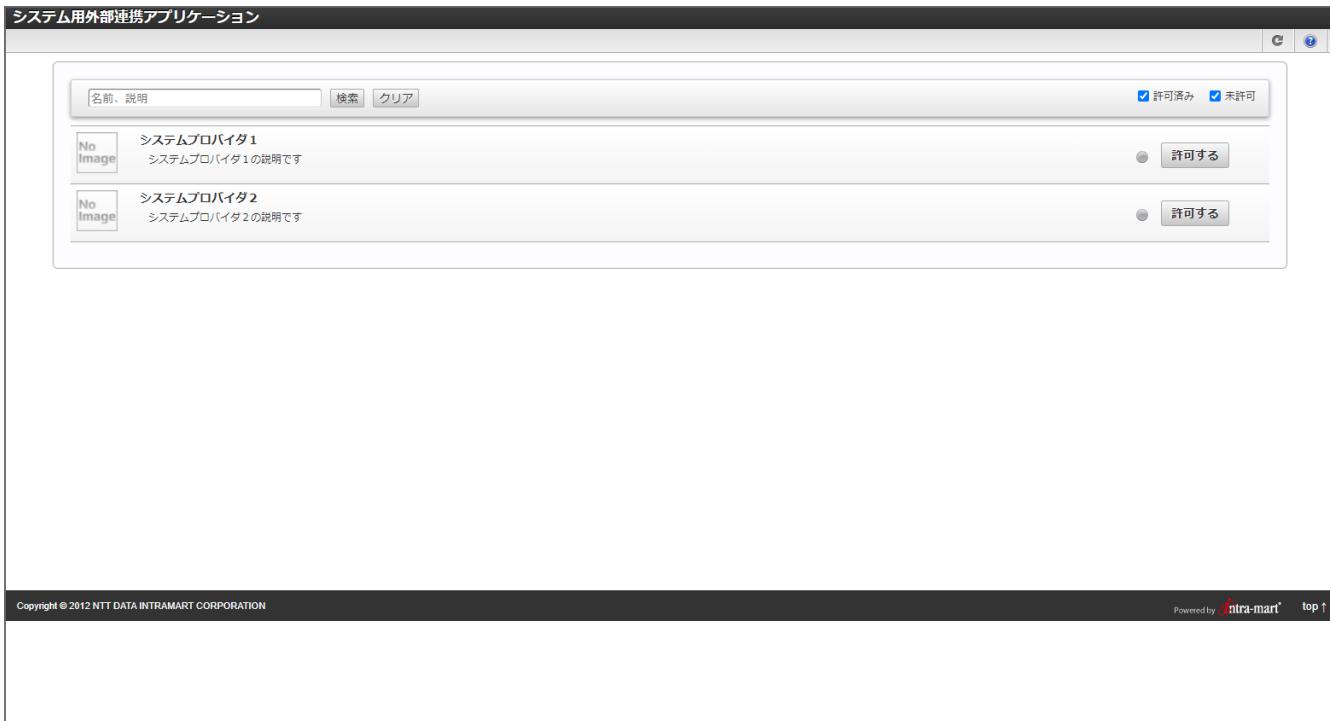
登録したシステム用OAuthプロバイダ設定の連携を許可、または解除します。

目次

- システム用OAuthプロバイダ設定の一覧を確認する
- システム用OAuthプロバイダ設定の連携を許可/解除する
 - 連携を許可する
 - 連携を解除する

システム用OAuthプロバイダ設定の一覧を確認する

1. 「システム管理」→「システム用外部連携アプリケーション」をクリックします。



ツールバー項目の説明

項目	説明
最新情報	システム用OAuthプロバイダ設定の最新情報を取得します。

検索エリアの説明

項目	説明
名前、説明検索欄	検索する「システムプロバイダ名」、または「システムプロバイダの説明」を表す文字列を入力します。 入力しない場合は、すべてが検索対象です。
検索ボタン	絞り込み検索を行います。
クリアボタン	検索条件に入力された値をクリアします。
許可済みチェックボック ス	許可済みのシステムプロバイダ設定のみ表示します。
未許可チェックボックス	未許可のシステムプロバイダ設定のみ表示します。

システム用OAuthプロバイダ設定の連携を許可/解除する

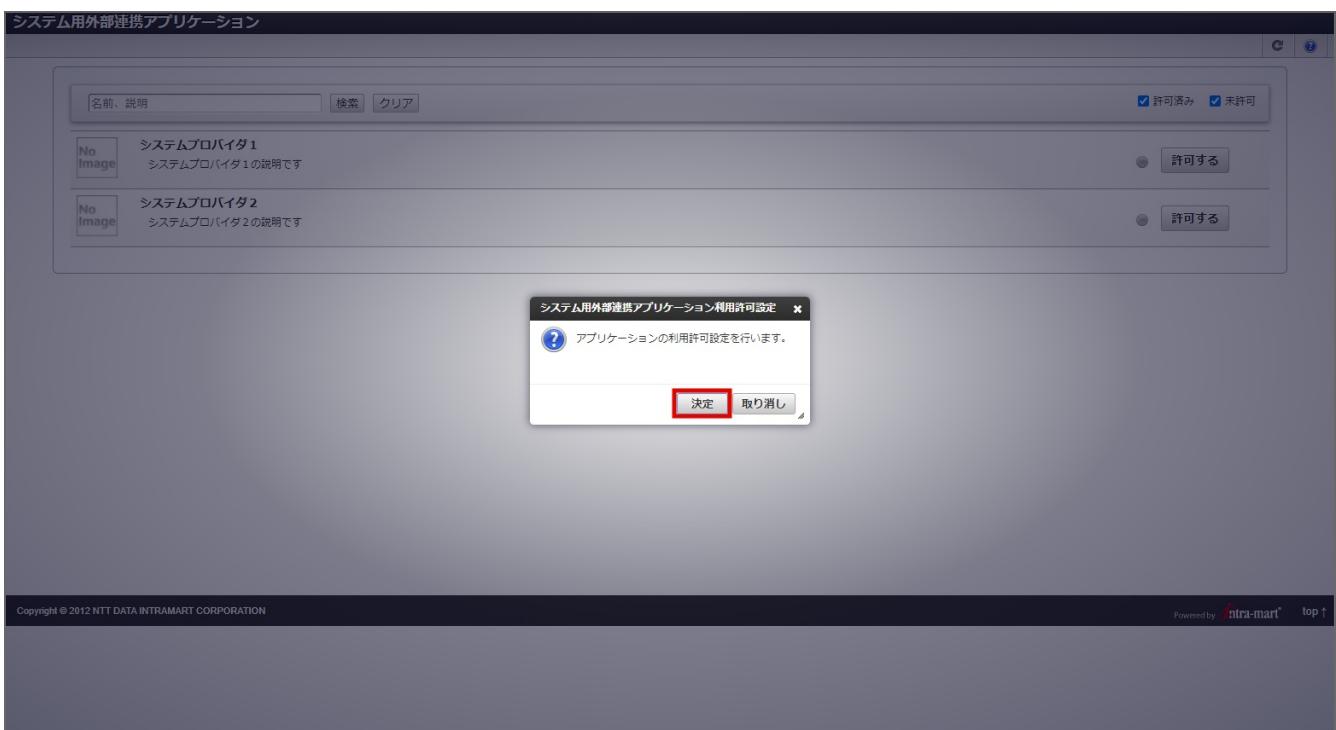
- 連携を許可する
- 連携を解除する

連携を許可する

1. 「システム管理」→「システム用外部連携アプリケーション」をクリックします。
2. 連携したいシステムプロバイダ設定の「許可する」をクリックします。

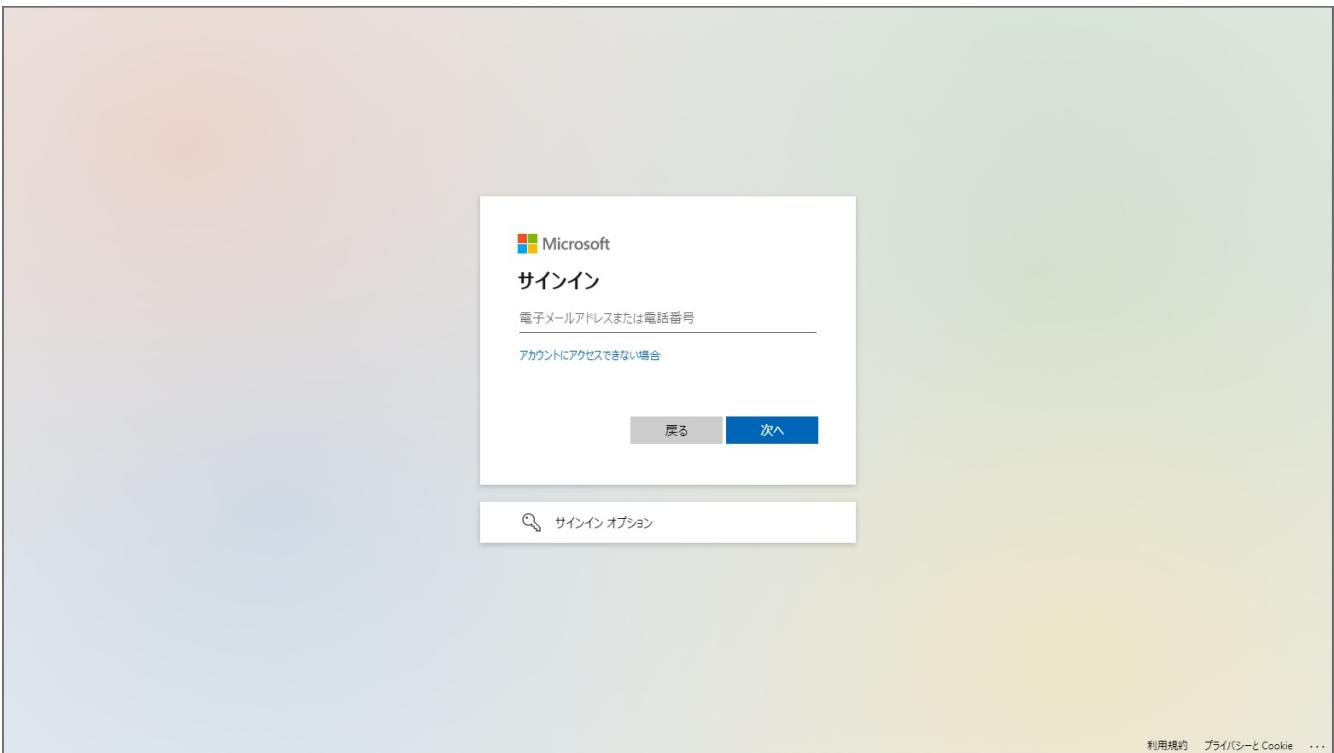


3. 「決定」をクリックします。



4. アプリケーションの認可を求める画面が表示されます。

(画像はMicrosoft 365のサインイン画面です。)



利用規約 プライバシーとCookie ...

5. 連携が完了しました。

名前、説明	許可済み	未許可
システムプロバイダ1 システムプロバイダ1の説明です	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> 解除する
システムプロバイダ2 システムプロバイダ2の説明です	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 許可する

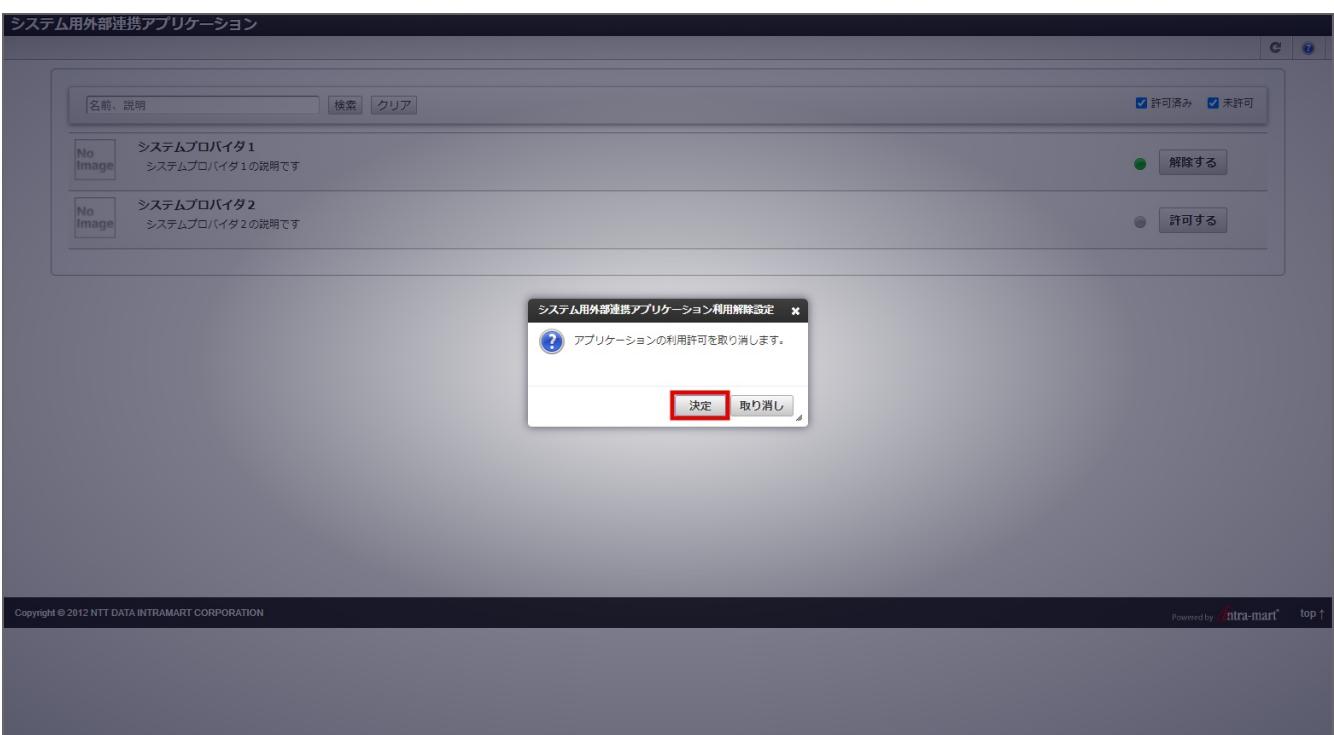
Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION Powered by intra-mart top ↑

連携を解除する

- 連携を解除したいシステムプロバイダ設定の「解除する」をクリックします。



2. 「決定」をクリックします。



3. 連携が解除されました。



SMTPサーバ設定

SMTPサーバ設定を一覧表示します。

SMTPサーバ設定の新規登録、設定変更、削除、インポート、エクスポートなどの操作が行えます。

目次

- [SMTPサーバ設定の一覧を確認する](#)
- [SMTPサーバ設定を登録する](#)
- [SMTPサーバ設定を変更する](#)
- [SMTPサーバ設定を削除する](#)
- [SMTPサーバ設定をエクスポートする](#)
 - [すべての設定情報をエクスポートする](#)
 - [特定の設定情報をエクスポートする](#)
- [SMTPサーバ設定をインポートする](#)

SMTPサーバ設定の一覧を確認する

1. 「システム管理」→「SMTPサーバ設定」をクリックします。

設定	ID	ホスト	ポート	設定の設定
<input checked="" type="radio"/>	default	localhost	25	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	tenant1	localhost	587	

ツールバー項目の説明

項目	説明
新規登録	SMTPサーバ設定の新規登録画面へ遷移します。
インポート	SMTPサーバ設定のインポート画面へ遷移します。
エクスポート	SMTPサーバ設定のエクスポート画面へ遷移します。
最新情報	SMTPサーバ設定の最新情報を取得します。

リスト項目の説明

リスト項目	説明
設定	アイコンをクリックすることで、SMTPサーバ設定の設定画面へ遷移します。
ID	SMTPサーバのサーバIDを表示します。
ホスト	SMTPサーバのホストを表示します。
ポート	SMTPサーバのポートを表示します。
規定の設定	SMTPサーバ設定画面から登録、または変更していない設定の場合にチェックが表示されます。 チェックがある設定は、削除、エクスポートができません。

SMTPサーバ設定を登録する

- 「システム管理」→「SMTPサーバ設定」をクリックします。
- 「新規登録」をクリックします。

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

3. 「SMTPサーバ設定」画面が表示されます。

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

項目	説明
SMTPサーバ設定	SMTPサーバ情報を設定します。 IDは設定対象のテナントIDを入力する必要があります。 ホスト、ポートは使用するSMTPサーバをご確認ください。
SMTPS(SMTP over SSL)設定	SMTPS(SMTP over SSL)を設定します。 SSL、TLS/STARTTLS、SSLプロトコルが利用できるかは使用するSMTPサーバをご確認ください。
SMTP Authentication 設定	認証情報を設定します。 認証方式でアクセストークンを選択した場合は、アクセストークンを発効するプロバイダを選択してください。 「システム用OAuth プロバイダ設定」 「システム用外部連携アプリケーション」
X-Mailerヘッダ	X-Mailerヘッダを設定します。
デバッグ設定	接続時のデバッグ情報をログに出力するか設定します。
コネクションタイムアウト設定 (ミリ秒)	コネクションタイムアウト時間をミリ秒で設定します。
タイムアウト設定 (ミリ秒)	タイムアウト設定 (ミリ秒) タイムアウト時間をミリ秒で設定します。

項目	説明
メールセッションプロパティ設定	SMTPのメールセッションプロパティを設定します。 メール送信時には一部のプロパティが自動的にメールセッションプロパティとして設定されます。 自動的に付与されたメールセッションプロパティと本設定のメールセッションプロパティが重複した場合、本設定のメールセッションプロパティが優先されます。



注意

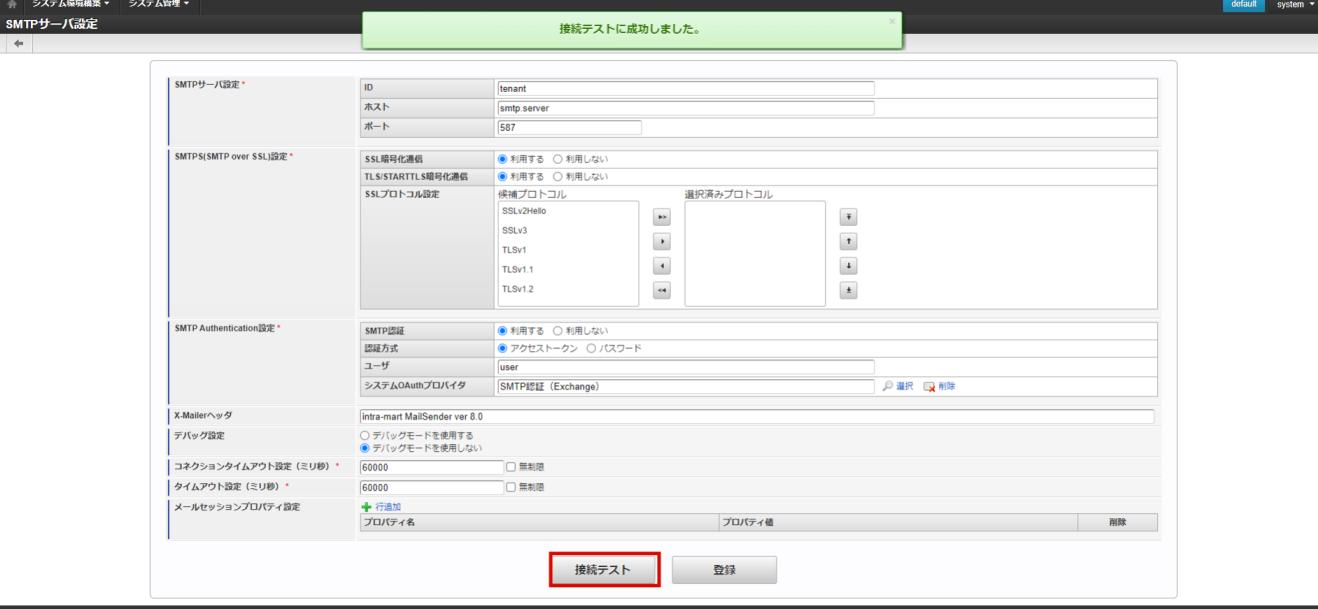
PayaraまたはOracle WebLogic Serverの環境でアクセストークンによる認証方式を利用する場合は、一部ライブラリの差し替え作業が必要です。

詳細は下記を参照してください。

- Payaraの場合
[jakarta.mail.jar の差し替え](#)
- Oracle WebLogic Serverの場合
[com.sun.mail.javamail.jar の差し替え](#)

4. 「接続テスト」をクリックします。

エラーとなる場合は、設定を修正してください。



SMTPサーバー設定

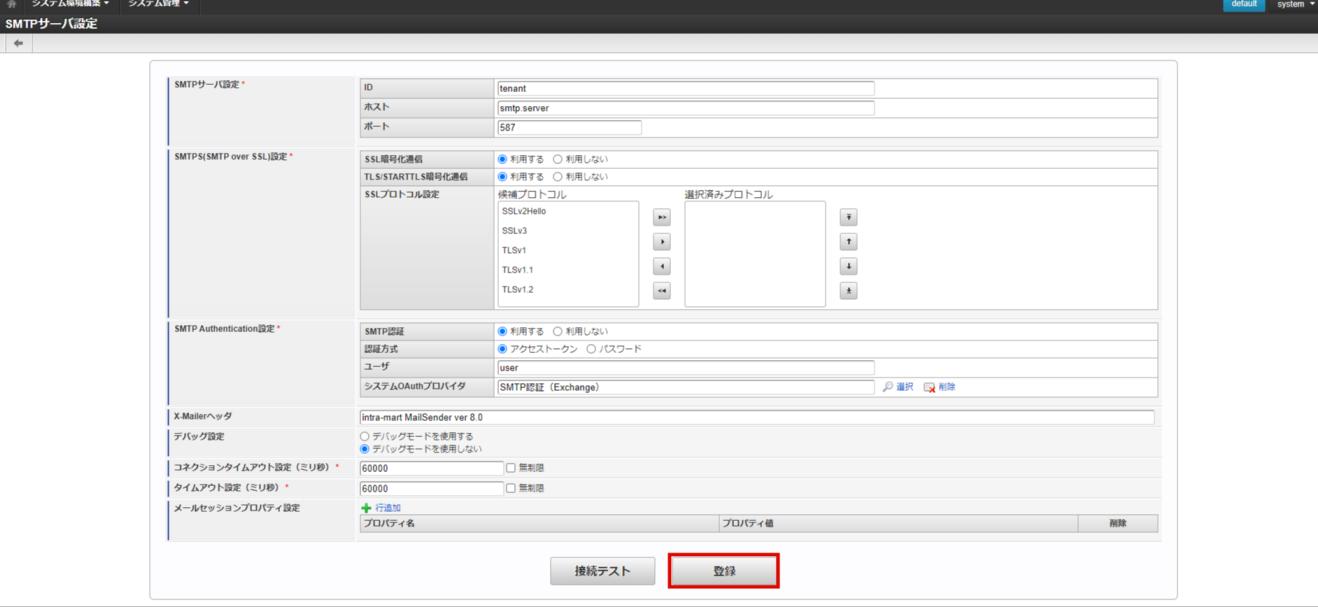
接続テストに成功しました。

SMTPサーバー設定*	ID: tenant ホスト: smtp.server ポート: 587
SMTPS(SMTP over SSL)設定*	SSL暗号化通信: 利用する TLS/STARTTLS暗号化通信: 利用する SSLプロトコル設定: 既定プロトコル (SSLv2Hello, SSLv3, TLSv1, TLSv1.1, TLSv1.2) → 選択済みプロトコル (SSLv2Hello, SSLv3, TLSv1)
SMTP Authentication設定*	SMTP認証: 利用する 認証方式: アクセストークン ユーザー: user システムOAuthプロバイダ: SMTP認証 (Exchange)
X-Mailerヘッダ	intra-mart MailSender ver 8.0
デバッグ設定	○デバッグモードを使用する ●デバッグモードを使用しない
コネクションタイムアウト設定 (ミリ秒) *	60000 (無制限)
タイムアウト設定 (ミリ秒) *	60000 (無制限)
メールセッションプロパティ設定	+ 行追加 プロパティ名: プロパティ値 削除

接続テスト **登録**

5. 「登録」をクリックします。

「接続テスト」でエラーだった場合でも、登録は可能です。

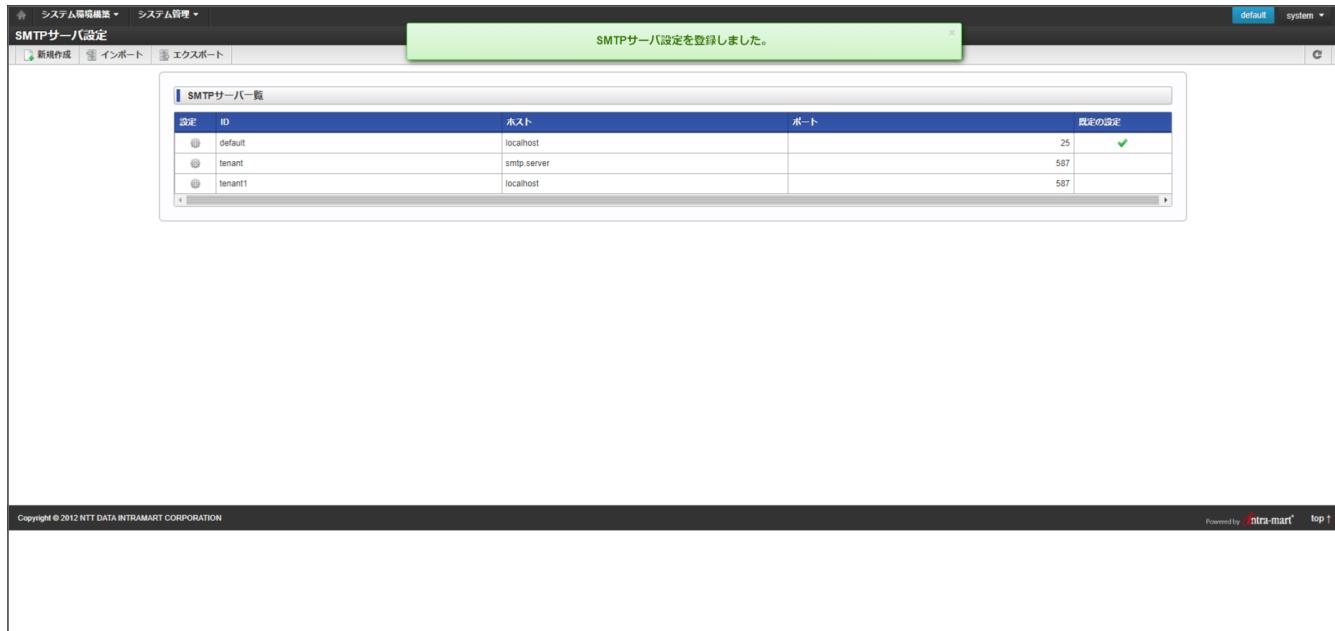


SMTPサーバー設定

SMTPサーバー設定*	ID: tenant ホスト: smtp.server ポート: 587
SMTPS(SMTP over SSL)設定*	SSL暗号化通信: 利用する TLS/STARTTLS暗号化通信: 利用する SSLプロトコル設定: 既定プロトコル (SSLv2Hello, SSLv3, TLSv1, TLSv1.1, TLSv1.2) → 選択済みプロトコル (SSLv2Hello, SSLv3, TLSv1)
SMTP Authentication設定*	SMTP認証: 利用する 認証方式: アクセストークン ユーザー: user システムOAuthプロバイダ: SMTP認証 (Exchange)
X-Mailerヘッダ	intra-mart MailSender ver 8.0
デバッグ設定	○デバッグモードを使用する ●デバッグモードを使用しない
コネクションタイムアウト設定 (ミリ秒) *	60000 (無制限)
タイムアウト設定 (ミリ秒) *	60000 (無制限)
メールセッションプロパティ設定	+ 行追加 プロパティ名: プロパティ値 削除

接続テスト **登録**

6. SMTPサーバ設定を登録できました。

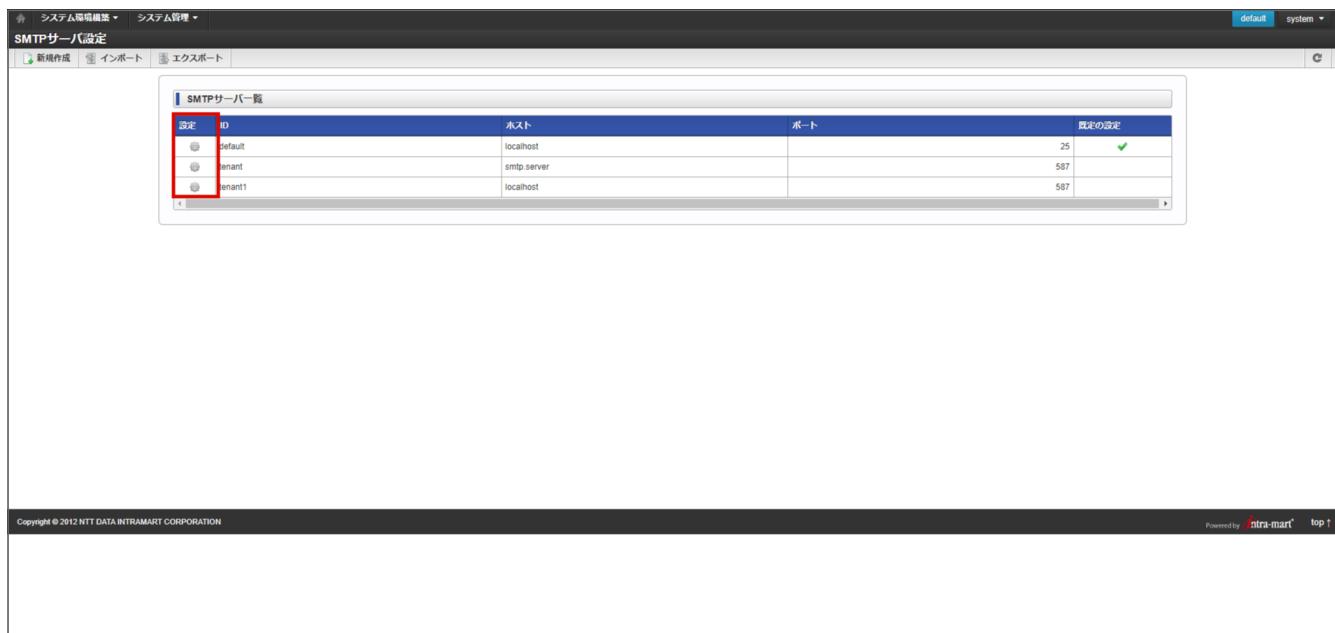


The screenshot shows the 'SMTP Server Settings' page in the intra-mart Accel Platform. A green banner at the top right indicates that the settings have been saved successfully: 'SMTPサーバ設定を登録しました。'. The main table lists three entries: 'default' (Host: localhost, Port: 25), 'tenant' (Host: smtp.server, Port: 587), and 'tenant1' (Host: localhost, Port: 587). The 'tenant' entry has a green checkmark in the '設定の設定' column.

設定	ID	ホスト	ポート	設定の設定
	default	localhost	25	✓
	tenant	smtp.server	587	
	tenant1	localhost	587	

SMTPサーバ設定を変更する

1. 「設定」アイコンをクリックします。



The screenshot shows the same 'SMTP Server Settings' page as before. The 'Settings' icon (a gear icon) in the first row ('default') is highlighted with a red box. The other two rows ('tenant' and 'tenant1') also have their 'Settings' icons visible but are not highlighted.

設定	ID	ホスト	ポート	設定の設定
	default	localhost	25	✓
	tenant	smtp.server	587	
	tenant1	localhost	587	

2. 「SMTPサーバ設定」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'SMTPサーバ設定' (SMTP Server Settings) page. The configuration details are as follows:

- SMTPサーバ設定***: ID: tenant, ホスト: smtp.server, ポート: 587.
- SMTPS(SMTP over SSL)設定***: SSL暗号化通信: 利用する (selected), TLS/STARTTLS暗号化通信: 利用する (selected). 候補プロトコル: SSLv2Hello, SSLv3, TLSv1, TLSv1.2. 選択済みプロトコル: TLSv1.1 (highlighted).
- SMTP Authentication設定***: SMTP認証: 利用する (selected), 認証方式: アクセストークン (selected), ユーザ: user, システムOAuthプロバイダ: SMTP認証 (Exchange).
- X-Mailerヘッダ**: intra-mart MailSender ver 8.0.
- デバッグ設定**: デバッグモードを使用する (selected).
- コネクションタイムアウト設定 (ミリ秒)***: 60000 (無制限).
- タイムアウト設定 (ミリ秒)***: 60000 (無制限).
- メールセッションプロパティ設定**: 行追加 (selected), プロパティ名: [empty].

Buttons at the bottom: 接続テスト, 更新 (highlighted), 削除.

3. 内容を変更し、「更新」をクリックします。

The screenshot shows the same 'SMTPサーバ設定' page after changes have been made. The configuration now includes:

- SMTPサーバ設定***: ID: tenant, ホスト: smtp.server2, ポート: 587.
- SMTPS(SMTP over SSL)設定***: SSL暗号化通信: 利用する (selected), TLS/STARTTLS暗号化通信: 利用する (selected). 候補プロトコル: SSLv2Hello, SSLv3, TLSv1, TLSv1.2. 選択済みプロトコル: TLSv1.1 (highlighted).
- SMTP Authentication設定***: 同上 (未変更).
- X-Mailerヘッダ**: intra-mart MailSender ver 8.0.
- デバッグ設定**: デバッグモードを使用する (selected).
- コネクションタイムアウト設定 (ミリ秒)***: 60000 (無制限).
- タイムアウト設定 (ミリ秒)***: 60000 (無制限).
- メールセッションプロパティ設定**: 行追加 (selected), プロパティ名: [empty].

Buttons at the bottom: 接続テスト, 更新 (highlighted with a red box), 削除.

4. SMTPサーバ設定を更新できました。

The screenshot shows the 'SMTPサーバ一覧' (List of SMTP Servers) page. The table displays the following data:

設定	ID	ホスト	ポート	既定の設定
default	localhost		25	✓
tenant	smtp.server2		587	
tenant1	localhost		587	

A green message bar at the top right says 'SMTPサーバ設定を更新しました。' (SMTP server settings updated successfully).

SMTPサーバ設定を削除する



注意

削除できるのは、「既定の設定」にチェックが表示されていない設定だけです。

- 「設定」アイコンをクリックします。

設定	ID	ホスト	ポート	既定の設定
<input checked="" type="radio"/>	default	localhost	25	
<input checked="" type="radio"/>	tenant	smtp.server2	587	
<input checked="" type="radio"/>	tenant1	localhost	587	

- 「SMTPサーバ設定」画面が表示されます。

SMTPサーバー設定

SMTPS(SMTP over SSL)設定*

SSL/TLS

SSL/TLS暗号化通信	<input checked="" type="radio"/> 利用する <input type="radio"/> 利用しない
TLS/STARTTLS暗号化通信	<input checked="" type="radio"/> 利用する <input type="radio"/> 利用しない
SSLプロトコル設定	候補プロトコル: SSLv2Hello, SSLv3, TLSv1, TLSv1.2 選択済みプロトコル: TLSv1.1

SMTP Authentication設定*

SMTP認証	<input checked="" type="radio"/> 利用する <input type="radio"/> 利用しない
認証方式	<input checked="" type="radio"/> アクセストークン <input type="radio"/> パスワード
ユーザー	user
システムOAuthプロバイダ	SMTP認証 (Exchange)

X-Mailerヘッダ

デバッグ設定	<input type="radio"/> デバッグモードを使用する <input checked="" type="radio"/> デバッグモードを使用しない
コネクションタイムアウト設定 (ミリ秒) *	60000 <input type="checkbox"/> 無制限
タイムアウト設定 (ミリ秒) *	60000 <input type="checkbox"/> 無制限
メールセッションプロバイダ設定	行追加 プロバイダ名:

接続テスト 更新 削除

- 「削除」をクリックします。

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

4. 「決定」をクリックします。

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

5. SMTPサーバ設定を削除できました。

設定	ID	ホスト	ポート	既定の設定
<input checked="" type="radio"/>	default	localhost	25	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="radio"/>	tenant1	localhost	587	<input type="checkbox"/>

Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

Powered by intra-mart top ↑

- すべての設定情報をエクスポートする
- 特定の設定情報をエクスポートする



注意

エクスポートできるのは、「既定の設定」にチェックが表示されていない設定だけです。

すべての設定情報をエクスポートする

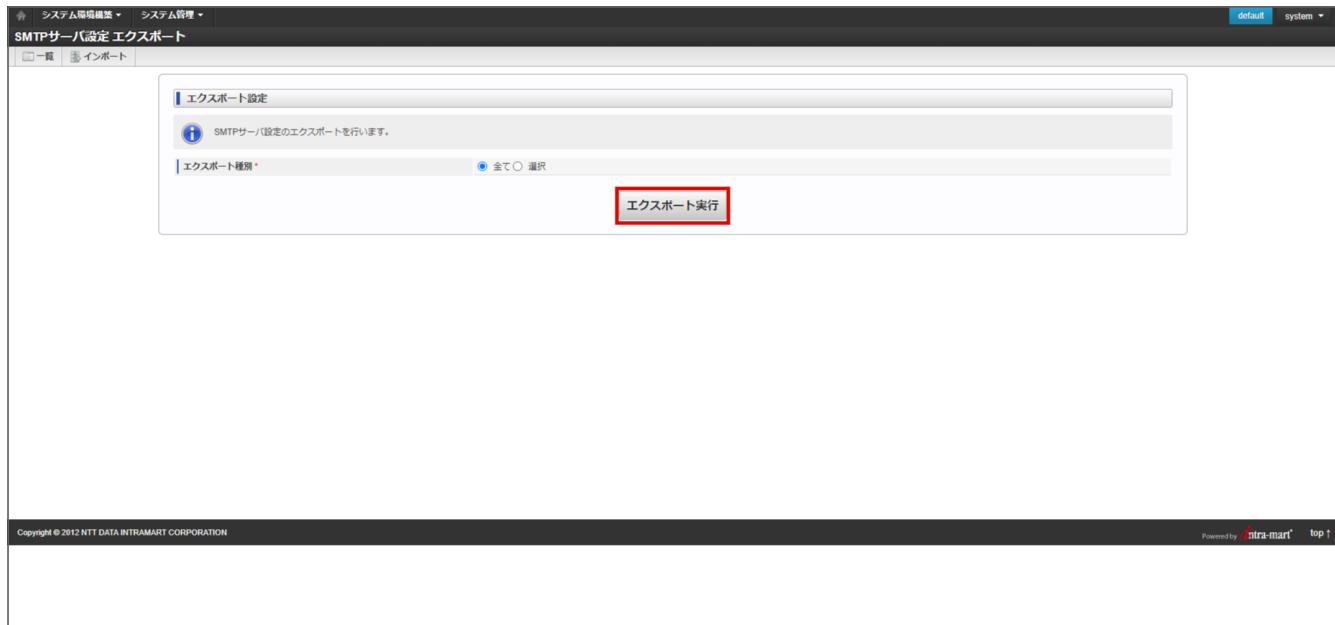
1. 「システム管理」→「SMTPサーバ設定」をクリックします。
2. 「エクスポート」をクリックします。

The screenshot shows the 'SMTP Server Settings' page in the system management interface. The 'Export' tab is highlighted with a red box. The main table displays two entries: 'default' and 'tenant1'. The 'default' entry has its port number '25' checked under 'Default Setting'. The 'tenant1' entry has its port number '587' checked under 'Default Setting'. The table has columns for 'Setting', 'ID', 'Host', 'Port', and 'Default Setting'.

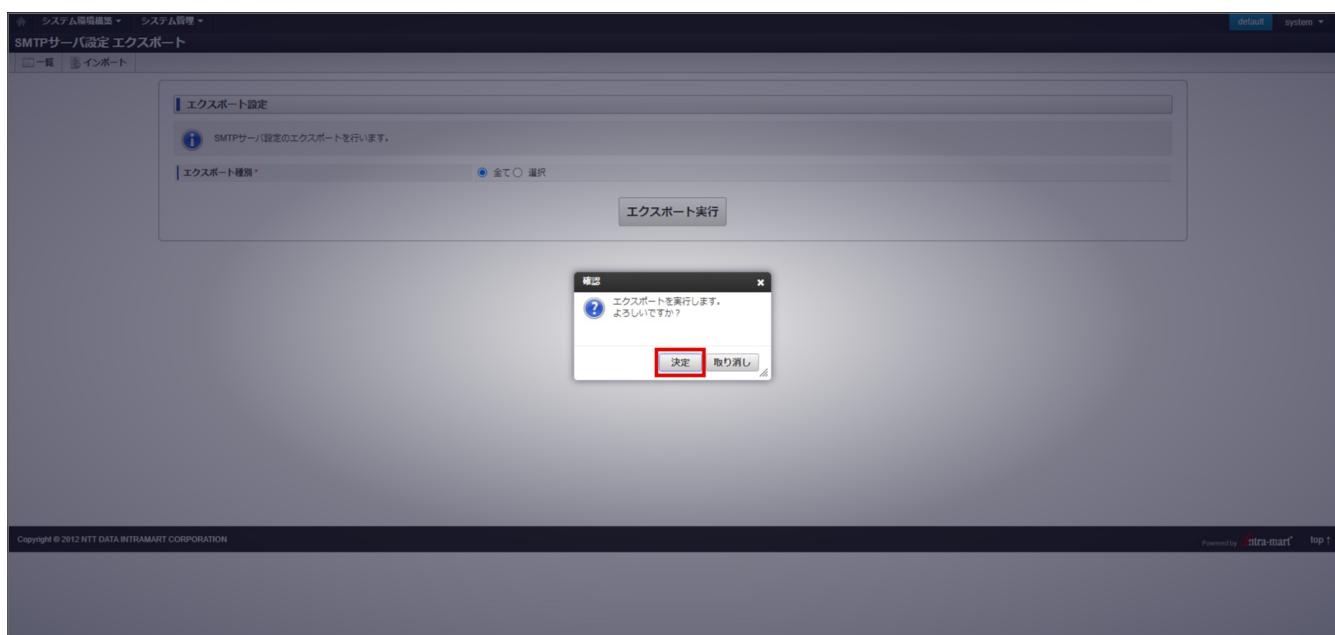
3. エクスポートタイプのラジオボタン「全て」にチェックが入っていることを確認します。

The screenshot shows the 'Export Settings' dialog box. It contains a message indicating that it will export the SMTP server settings. Below this, there is a section for 'Export Type' with a radio button labeled 'All' which is checked and highlighted with a red box. At the bottom right is a 'Export' button.

4. 「エクスポート実行」ボタンをクリックします。



5. 「決定」をクリックします。

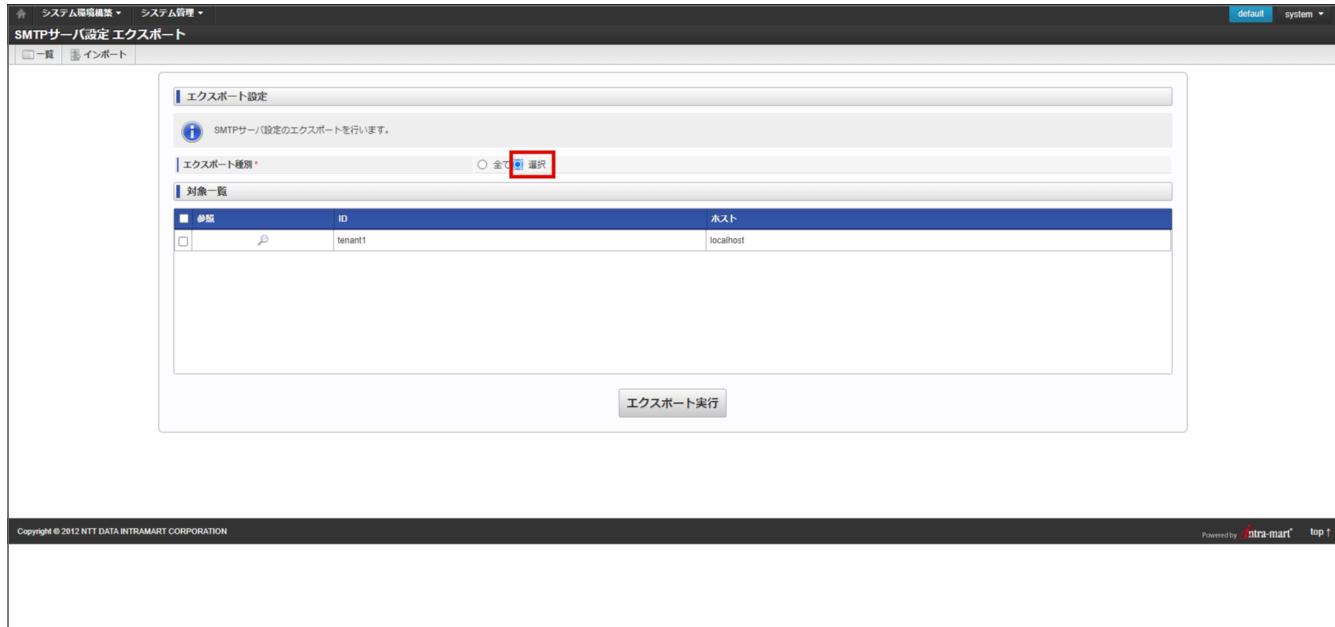


6. SMTPサーバ設定をエクスポートできました。



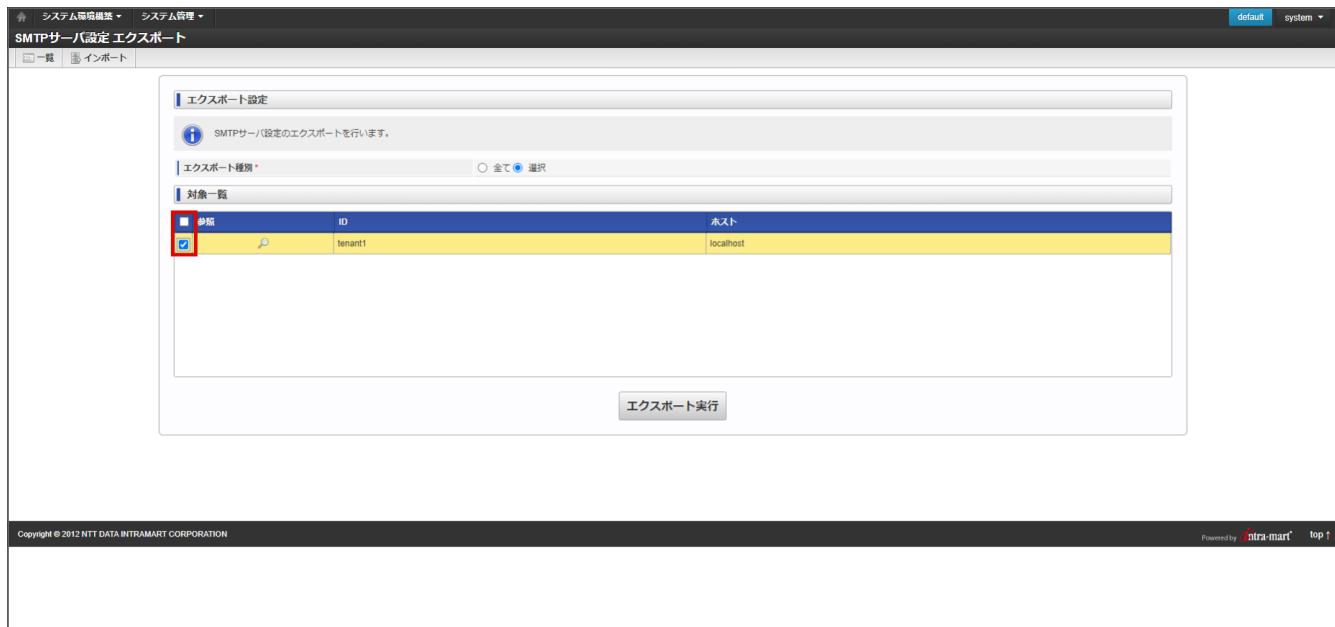
特定の設定情報をエクスポートする

1. エクスポートタイプのラジオボタン「選択」をクリックし、SMTPサーバ設定の一覧を表示します。



The screenshot shows the 'SMTP Server Settings Export' page. At the top, there is a message: 'SMTPサーバー設定のエクスポートを行います。' Below it, there are two radio buttons: 'エクスポート種別' (Export Type) with '全て' (All) selected, and '選択' (Selected). A red box highlights the '選択' button. Below this is a table titled '対象一覧' (Target List) with one row: '参照' (Reference), 'ID' (tenant1), and 'ホスト' (localhost). At the bottom right is a 'エクスポート実行' (Execute Export) button.

2. 一覧からエクスポートする設定情報を選択します。



This screenshot shows the same 'SMTP Server Settings Export' page as above, but with a specific row selected. The first row in the '対象一覧' table has a checked checkbox in the '参照' column, indicated by a red box. The rest of the table rows are unselected. The 'エクスポート実行' button is visible at the bottom right.

3. 「エクスポート実行」ボタンをクリックします。

This screenshot shows the 'SMTP Server Settings Export' page. At the top, there are tabs for 'System Management' and 'SMTP Server Settings Export'. Below the tabs, there are buttons for 'One Page' and 'Import'. The main area contains a form titled 'Export Settings' with an information message: 'SMTP server settings export is being performed.' It includes sections for 'Export Type' (radio buttons for 'All' or 'Selected') and 'Target List' (a table showing one item: 'tenant1' with ID 'tenant1' and Host 'localhost'). A red-bordered button at the bottom right labeled 'Export' is highlighted.

4. 「決定」をクリックします。

This screenshot shows the same 'SMTP Server Settings Export' page as above, but with a confirmation dialog box overlaid. The dialog asks 'Are you sure you want to perform the export?'. It has 'OK' and 'Cancel' buttons, with 'OK' highlighted by a red border. The 'Export' button at the bottom right of the main form is also highlighted with a red border.

5. SMTPサーバ設定をエクスポートできました。

This screenshot shows the final state of the 'SMTP Server Settings Export' page. A green message bar at the top center says 'Export was successful.' The rest of the page is identical to the previous screenshots, showing the export settings form and the 'tenant1' target entry.

SMTPサーバ設定をインポートする

1. 「システム管理」→「SMTPサーバ設定」をクリックします。

2. 「インポート」をクリックします。

This screenshot shows the 'SMTPサーバー設定' (SMTP Server Settings) page. At the top, there are tabs for '新規作成' (New Creation), 'インポート' (Import) which is highlighted with a red box, and 'エクスポート' (Export). Below the tabs is a table titled 'SMTPサーバー一覧' (List of SMTP Servers) with two entries:

設定	ID	ホスト	ポート	既定の設定
<input checked="" type="radio"/>	default	localhost	25	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="radio"/>	tenant1	localhost	587	

At the bottom of the page, there is a copyright notice 'Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION' and a footer bar with 'Powered by intra-mart' and a 'top ↑' link.

3. 「インポート種別」を選択します。

This screenshot shows the 'SMTPサーバー設定 インポート' (SMTP Server Settings Import) page. At the top, there are tabs for '一覧' (List) and 'エクスポート'. Below the tabs is a section titled 'インポート設定' (Import Settings) with the following information:

- A note: 'SMTPサーバー設定のインポートを行います。
新規：同じIDのデータが存在する場合スキップします。
更新：同じIDのデータが存在する場合上書きされます。' (Importing SMTP server settings.
New: If data with the same ID exists, it will be skipped.
Update: If data with the same ID exists, it will be overwritten.)
- 'インポート種別' (Import Type) section with radio buttons: '新規' (New) is selected and highlighted with a red box, while '更新' (Update) is unselected.
- 'インポートファイル' (Import File) section with a file selection input field: 'ファイルを選択' (Select file) and '選択されていません' (Not selected).
- A large 'インポート' (Import) button at the bottom right.

At the bottom of the page, there is a copyright notice 'Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION' and a footer bar with 'Powered by intra-mart' and a 'top ↑' link.

項目	説明
インポート種別	インポート処理の種別を選択します。 新規：インポート対象の情報が存在しない場合のみインポートを行います。 更新：全ての情報のインポートを行います。インポート対象の情報が存在する場合、上書きされます。

4. 「SMTPサーバ設定をエクスポートする」でエクスポートしたインポートファイルを選択します。

This screenshot shows the 'SMTP Server Settings Import' screen. At the top, there is a message about importing SMTP server settings. Below it, there are two radio buttons: 'New' (新規) and 'Update' (更新), with 'Update' selected. A red box highlights the 'Import File' input field, which contains the value 'javamail-smtp.xml'. At the bottom right is a 'Import' button.

5. 「インポート」をクリックします。

This screenshot shows the same 'SMTP Server Settings Import' screen as the previous one, but the 'Import' button at the bottom right is now highlighted with a red box.

6. 「インポート実行」をクリックします。

This screenshot shows the 'SMTP Server Settings Import Confirmation' screen. It displays a table of imported data with one row: 'tenant1' (ID) and 'localhost' (Host). The 'Processing Content' column indicates that the SMTP server settings will be updated. At the bottom right is a 'Import Execution' button, which is highlighted with a red box.

7. SMTPサーバ設定をインポートできました。

The screenshot shows a software interface for managing system configurations. At the top, there are tabs for 'System Configuration Categories' and 'System Management'. Below that, a specific section titled 'SMTP Server Setting Import Result' is displayed. This section contains two tables: one for 'Import Results' and another for 'Import Details'. The 'Import Results' table shows 1 item imported, 0 new registered items, and 1 updated item. The 'Import Details' table lists a single entry with ID 'tenant1' and content 'SMTP server setting was updated.' A button labeled 'Import Page' is located at the bottom right of this section. The footer of the page includes copyright information for NTT DATA INTRAMART CORPORATION (© 2012), a 'Powered by intra-mart' logo, and a 'top ↑' link.

モバイル通知

モバイル通知に関する設定が行えます。

コラム

このメニューは、モバイル通知機能を利用している場合に表示されます。
モバイル通知機能を利用するには、モバイル通知機能というモジュールが選択されている必要があります。
モジュールの選択については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「[プロジェクトの作成とモジュールの選択](#)」を参照してください。

目次

- [Firebase サービスアカウント認証情報](#)

Firebase サービスアカウント認証情報

モバイル端末への通知を送信する際に使用する Firebase サービスアカウント認証情報の更新が行えます。

詳細は「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」 - 「[サービスアカウントの認証情報ファイルの更新](#)」を参照してください。

ここではシステム管理者の設定についてを説明します。

パスワードを変更する

ログイン中のシステム管理者のパスワードを変更します。

1. 画面右上のユーティリティメニュー → 「個人設定」 → 「パスワード」をクリックします。
2. 現在のパスワード、新しいパスワードと新しいパスワード（確認用）を入力します。
3. 「変更」をクリックします。

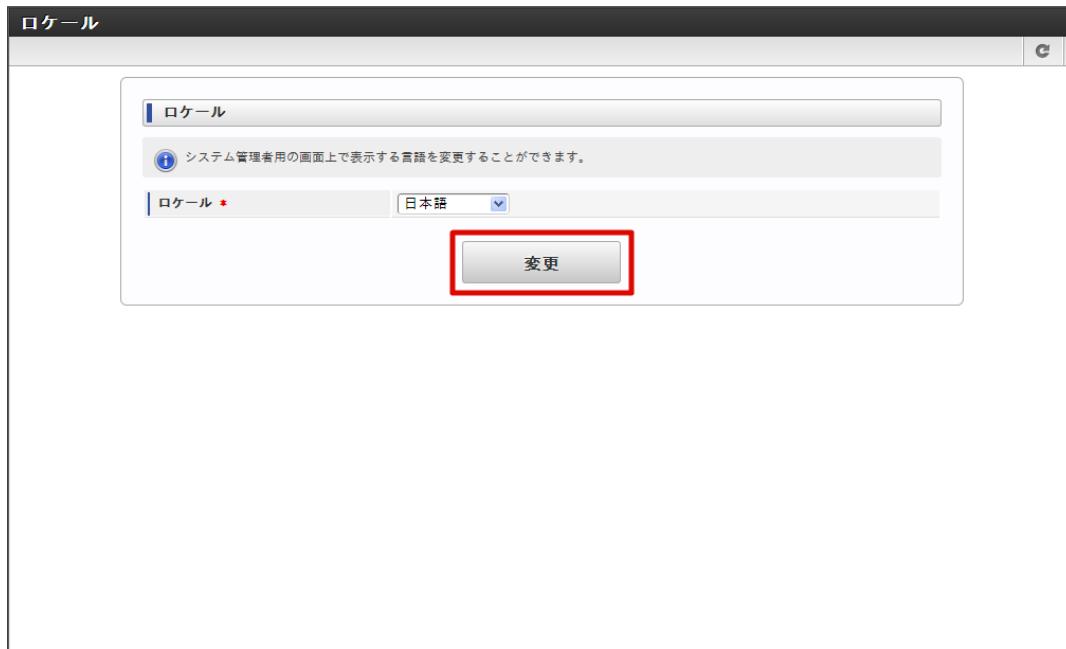


4. システム管理者のパスワードが変更されます。

ロケールを変更する

ログイン中のシステム管理者のロケールを変更します。

1. 画面右上のユーティリティメニュー → 「個人設定」 → 「ロケール」をクリックします。
2. ロケールから変更したい表示のロケールを選択します。
3. 「変更」をクリックします。



4. システム管理者のロケールが変更されます。

i コラム

intra-mart Accel Platform 2013 Winter 以前のバージョンから 2014 Spring 以降へアップデートした場合、ロケールは未選択状態です。

ロケールが未選択状態の場合、システム管理者画面のロケールはブラウザのロケール設定によって決定されます。

しかし、ブラウザによっては画面表示や処理のタイミングでロケールが適切に解決されないことがあります。

そのため intra-mart Accel Platform 2014 Spring 以降では、ロケールを明示的に設定することを推奨しています。

ロケールを選択して変更後、再度未選択状態に戻すことはできません。

多要素認証を設定する

多要素認証とは、本人であると特定するために複数の要素をユーザーに要求する認証です。

多要素認証を利用すると、ログイン時に通常のパスワードの他に、確認コードを入力することがユーザーに求められます。

これにより、もしパスワードが盗まれてしまったとしてもアカウントが不正に利用されることを防げます。

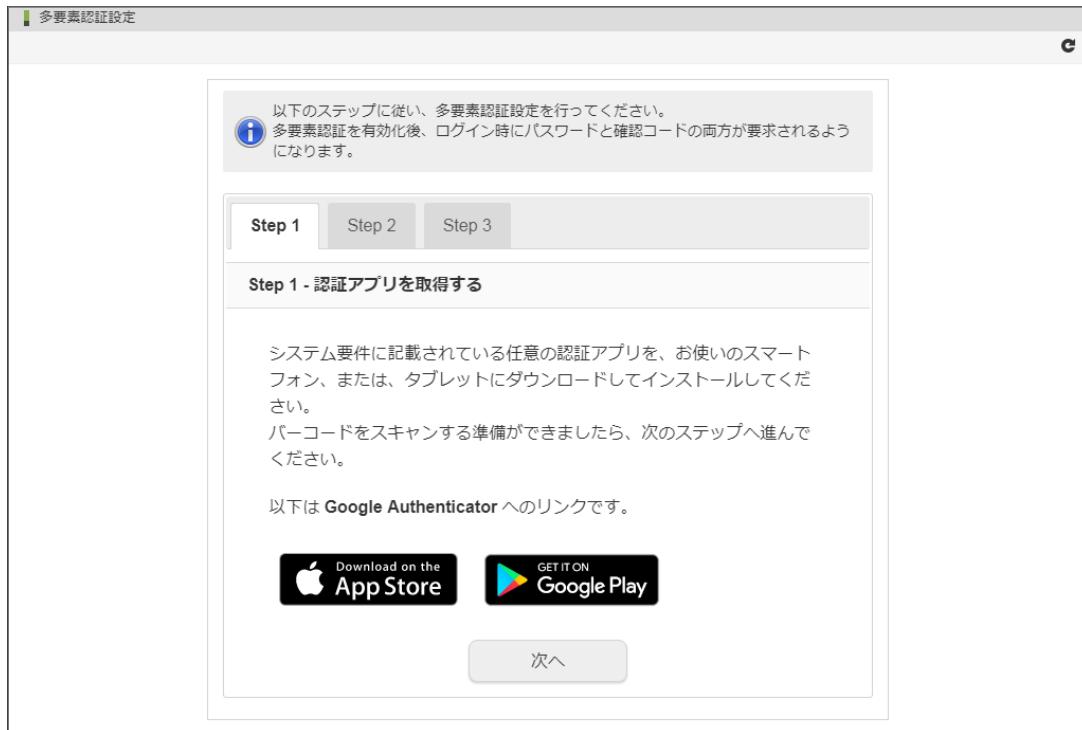
ここでは、システム管理者が多要素認証を利用する方法を紹介します。

項目

- 多要素認証を有効化する
- 多要素認証を無効化する
- バックアップコードを作成する
- 信頼済みブラウザ情報を削除する
- 期限切れブラウザ情報を削除する

多要素認証を有効化する

1. 「ユーティリティメニュー」→「システム管理者設定」→「多要素認証設定」の順にクリックします。
2. 「多要素認証設定」画面が表示されます。



3. Step 1 のメッセージに従って、認証アプリを取得して「次へ」をクリックします。



4. Step 2 のメッセージに従って、認証アプリでバーコードをスキャンして「次へ」をクリックします。



5. Step 3 のメッセージに従って、確認コードを入力して「有効化」をクリックします。



6. 多要素認証を有効化できました。



多要素認証を無効化する



注意

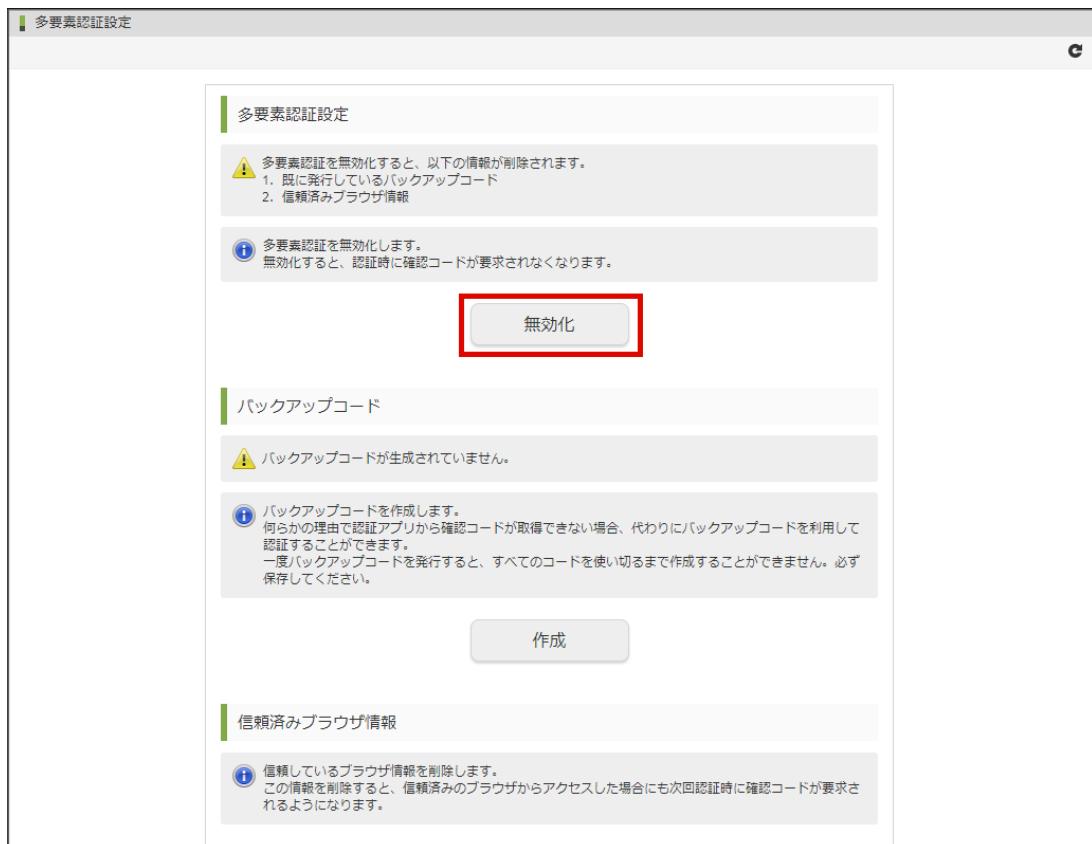
多要素認証を無効化すると、以下の情報が削除されます。

1. 既に発行しているバックアップコード
2. 信頼済みブラウザ情報

1. 「ユーティリティメニュー」→「システム管理者設定」→「多要素認証設定」の順にクリックします。
2. 「多要素認証設定」画面が表示されます。



3. 「無効化」をクリックします。



4. 多要素認証を無効化できました。

The screenshot shows a step-by-step guide for setting up multi-factor authentication. Step 1 is titled 'Obtain the authentication app'. It includes instructions to download the app from the App Store or Google Play, and a note that after enabling it, both a password and a verification code will be required for login. Step 2 and Step 3 are also visible at the top.

バックアップコードを作成する



注意

一度バックアップコードを発行すると、すべてのコードを使い終わるまで再作成することができません。
バックアップコードはスクリーンショットを撮ったりメモに残したりして、必ず保存してください。



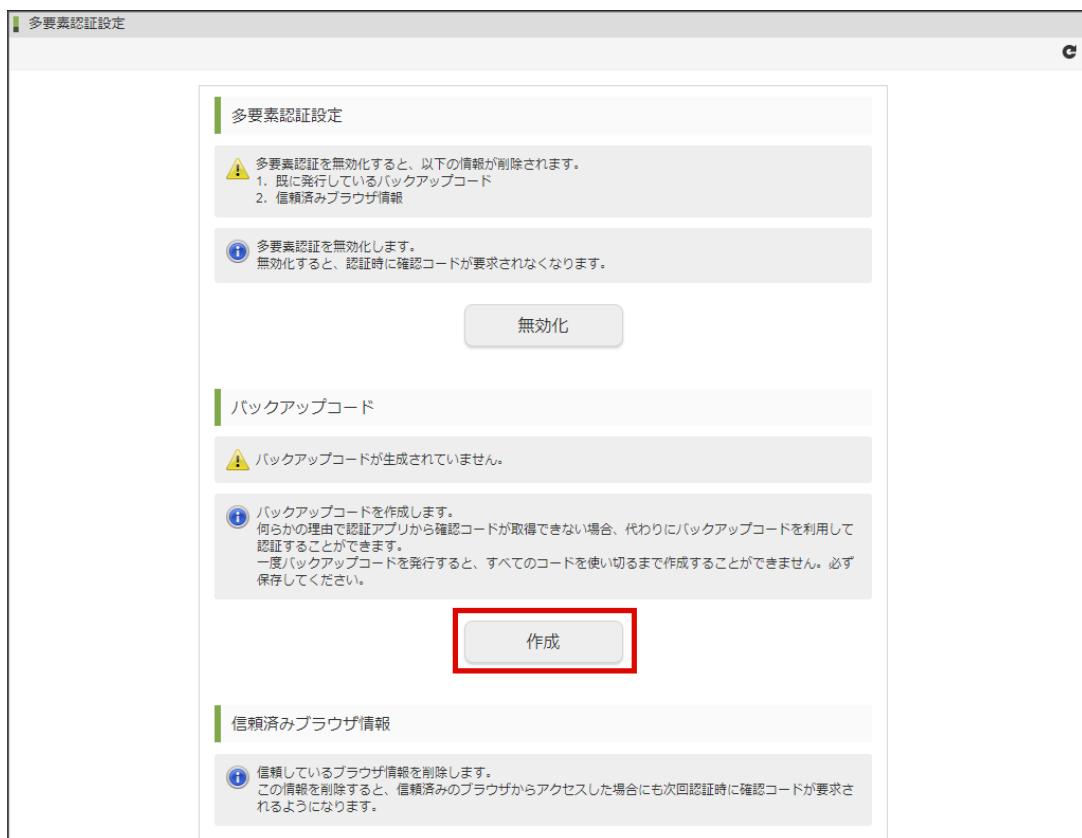
注意

バックアップコードはパスワードと同等の価値を持つ大切なコードです。
保存したスクリーンショットやメモは安全に保管しておくことをおすすめします。

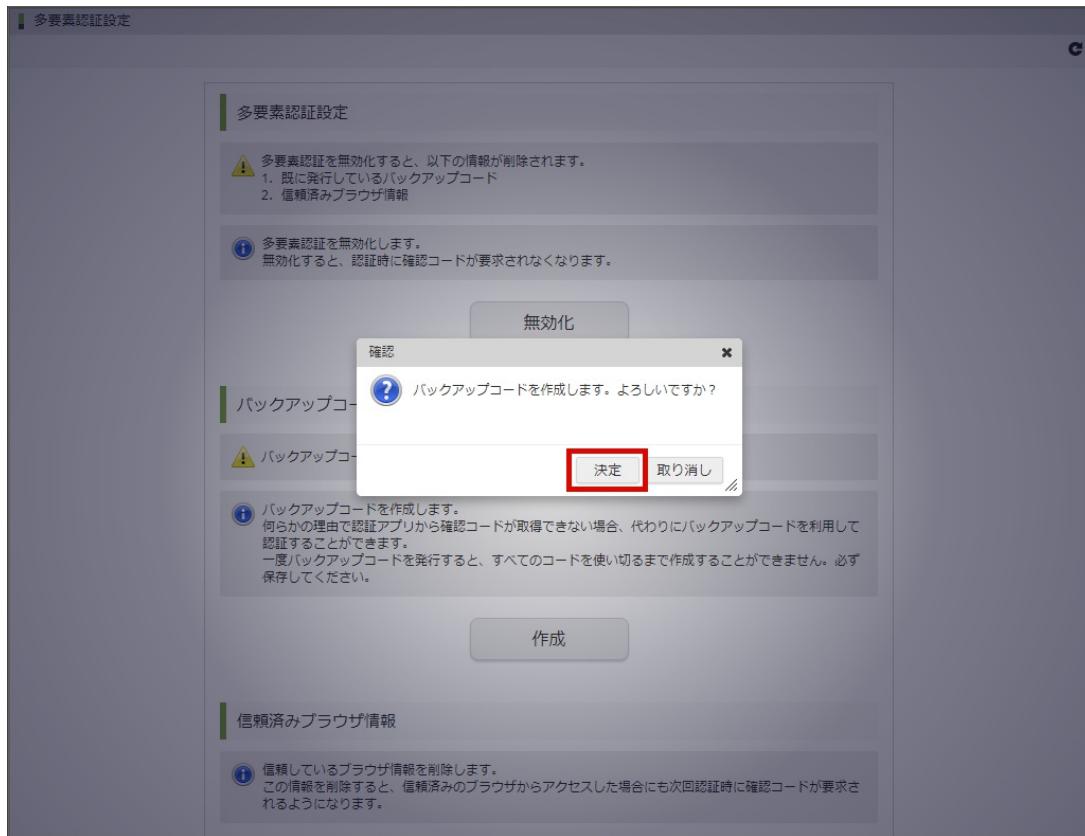
1. 「ユーティリティメニュー」→「システム管理者設定」→「多要素認証設定」の順にクリックします。
2. 「多要素認証設定」画面が表示されます。



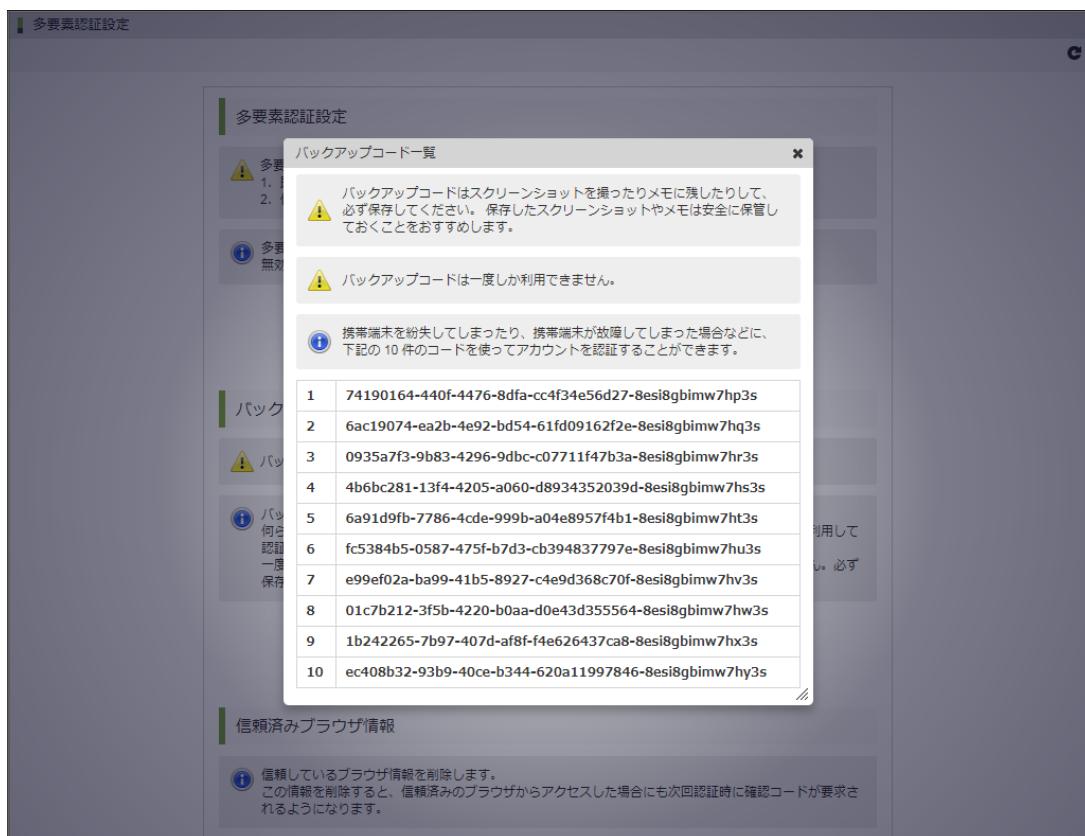
3. 「作成」をクリックします。



4. 「決定」をクリックします。



5. バックアップコードが作成されました。

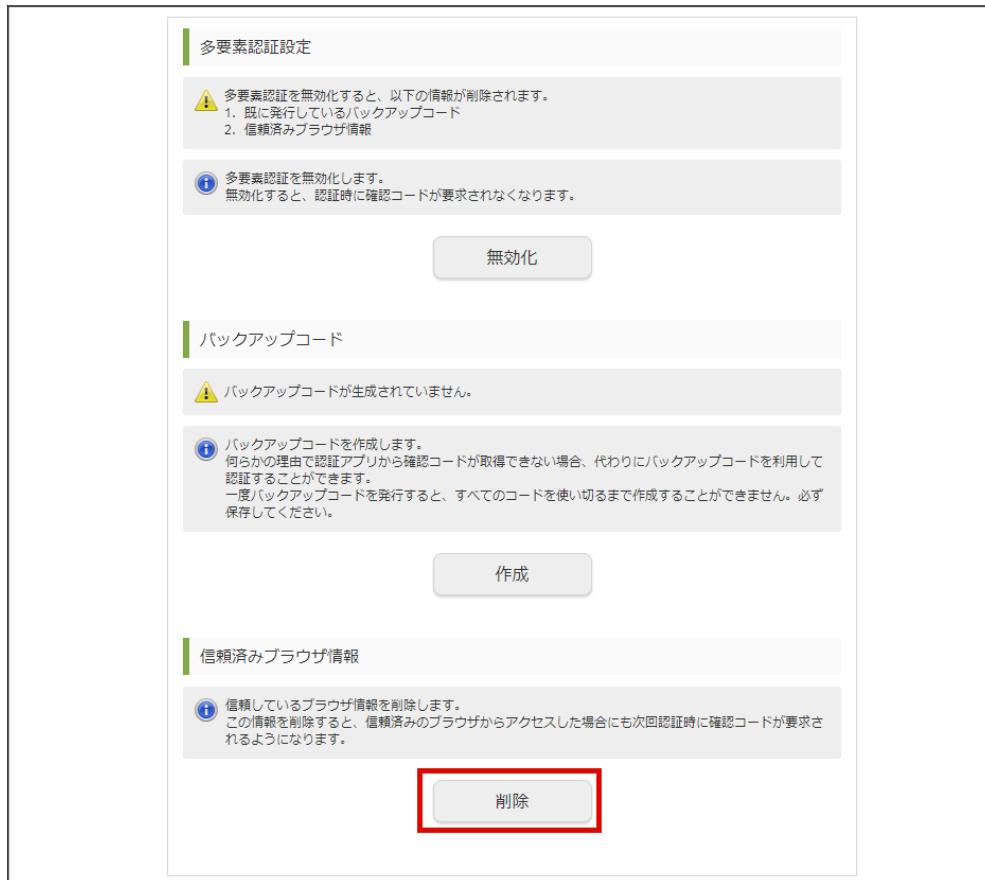


信頼済みブラウザ情報を削除する

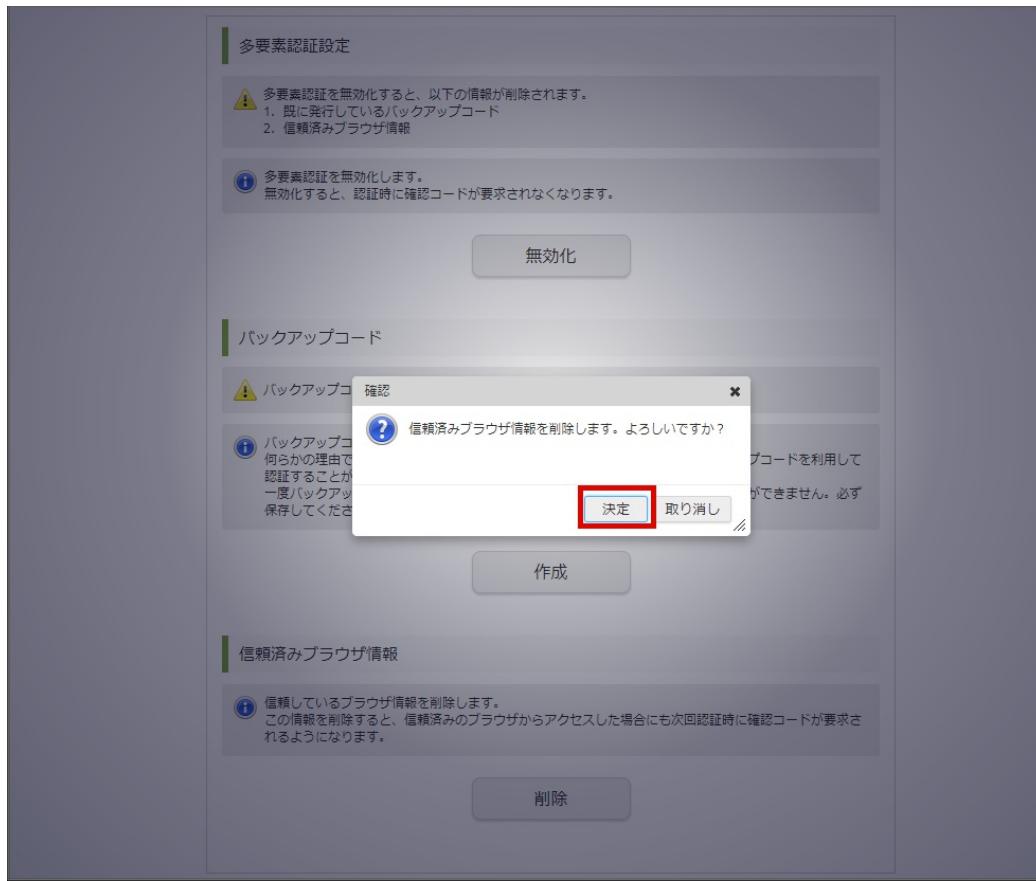
- 「ユーティリティメニュー」→「システム管理者設定」→「多要素認証設定」の順にクリックします。
- 「多要素認証設定」画面が表示されます。



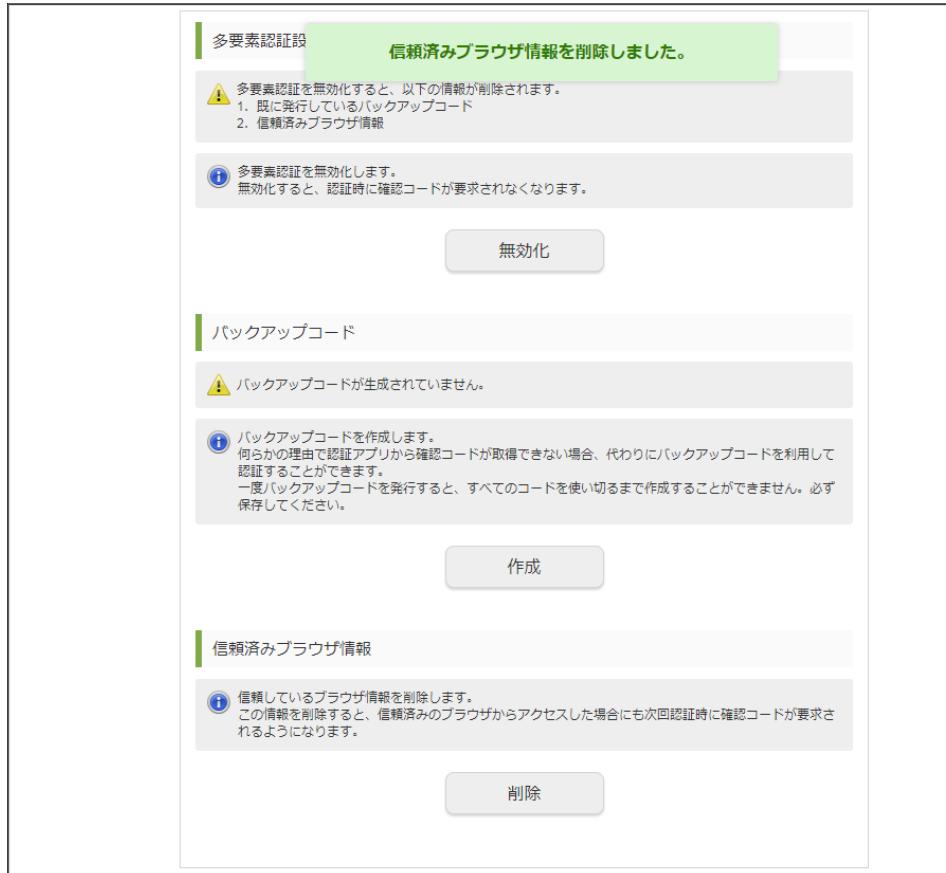
3. 「削除」をクリックします。



4. 「決定」をクリックします。

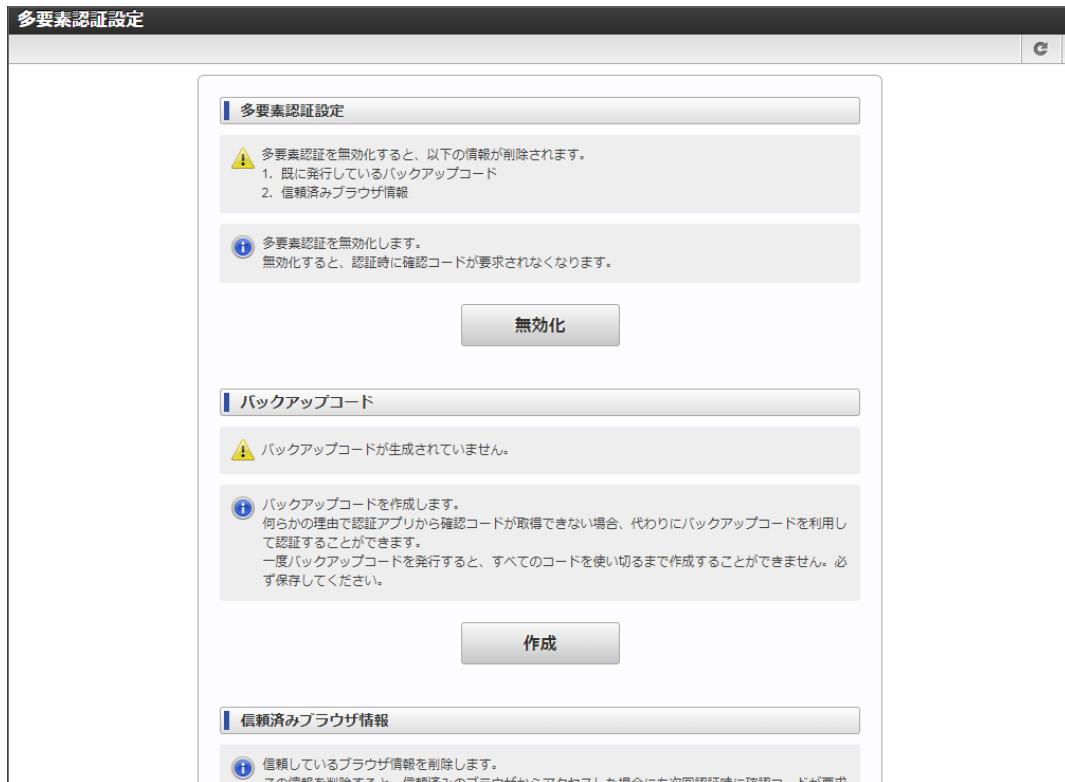


5. 信頼済みブラウザ情報が削除されました。

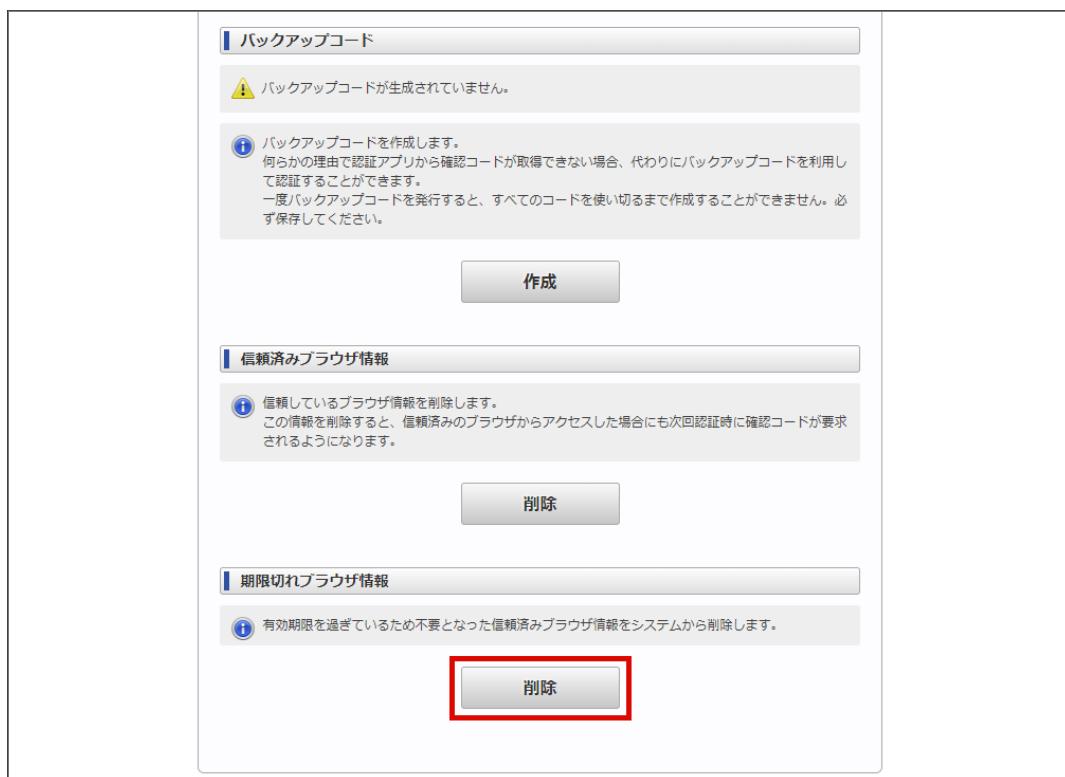


期限切れブラウザ情報を削除する

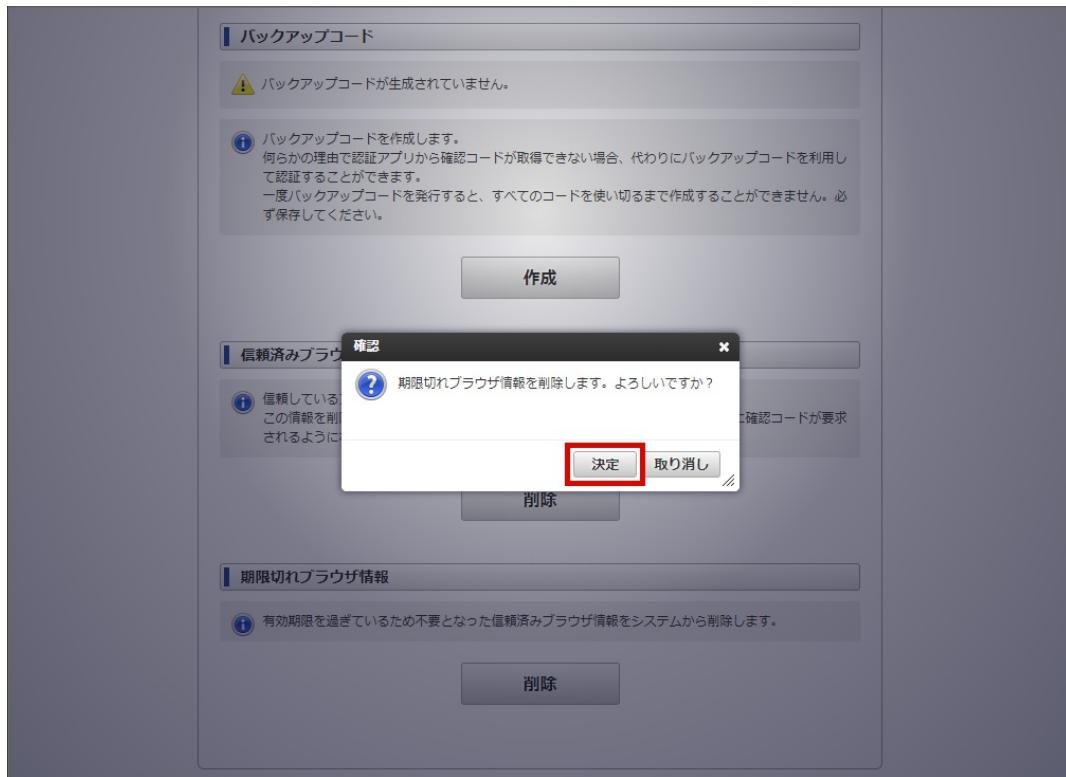
- 「ユーティリティメニュー」→「システム管理者設定」→「多要素認証設定」の順にクリックします。
- 「多要素認証設定」画面が表示されます。



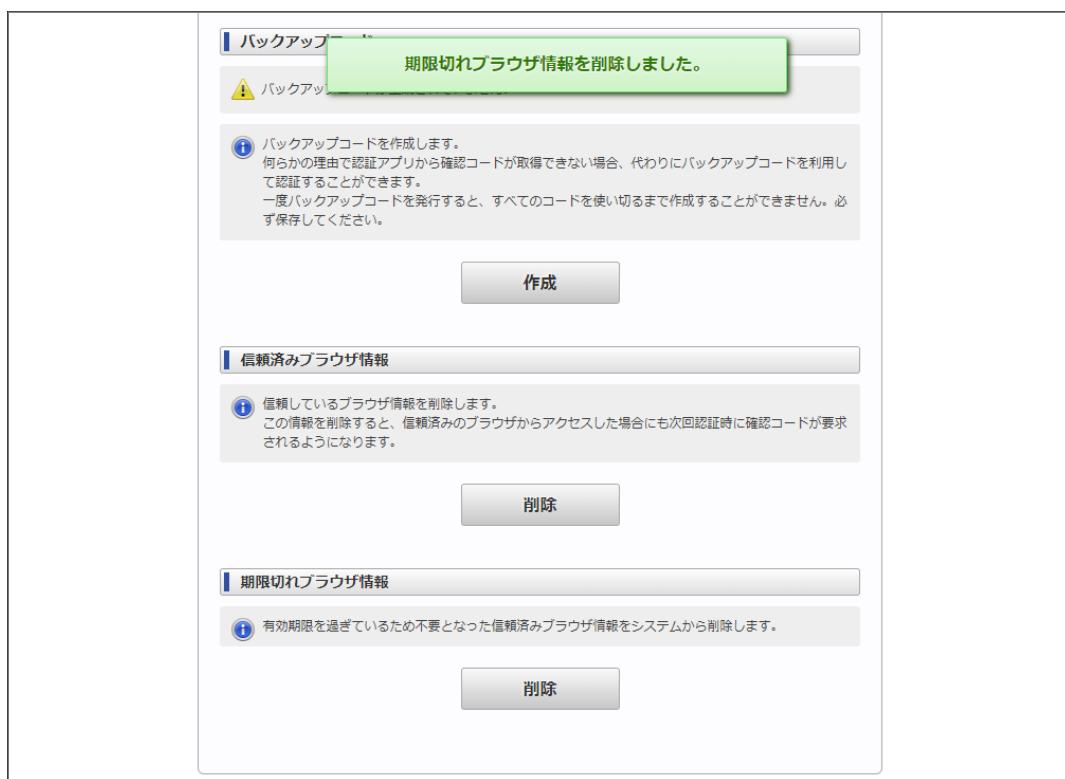
3. 「削除」をクリックします。



4. 「決定」をクリックします。



5. 期限切れブラウザ情報が削除されました。



ここでは多要素認証を利用したログインについてを説明します。

項目

- 確認コードを利用してログインする
- バックアップコードを利用してログインする
- ログインできなくなってしまった場合

確認コードを利用してログインする

1. システム管理者としてログインするに従ってパスワードを入力して認証します。
2. 「確認コード入力」画面が表示されます。

多要素認証

アプリ認証

認証アプリを利用し、確認コードを入力してください。

確認コード ログイン

このブラウザでは次回から表示しない

[認証アプリを利用できない方はコチラ](#)

3. 認証アプリに表示されている確認コードを入力して「ログイン」をクリックします。

多要素認証

アプリ認証

認証アプリを利用し、確認コードを入力してください。

確認コード
 ログイン

このブラウザでは次回から表示しない
認証アプリを利用できない方はコチラ



コラム

「このブラウザでは次回から表示しない」を ON にしてログインすることで、一定期間そのブラウザが記憶されます。記憶されたブラウザを使ってログインする際は、パスワードの入力だけでログインすることができます。

「[信頼済みブラウザ情報を削除する](#)」で記憶されたブラウザの情報を削除することができます。

4. ログインできました。

システム環境構築 ▾ システム管理 ▾ default system ▾

システム管理者ホーム

Server Manager

Task Service

Job Scheduler

Salesforce Streaming Client Service

intra-mart Home Page ↗

Partner Site ↗

intra-mart Developer Site ↗

intra-mart FAQ ↗

intra-mart Products Information Site ↗

Product Demonstration Site ↗

API Documentation ↗

Locale English

TimeZone Asia/Tokyo

intra-mart Accel Platform Standard Edition 20

[バックアップコードを利用してログインする](#)

i コラム

携帯端末を紛失してしまったり携帯端末が故障してしまったなどで確認コードの入力ができない場合に、事前に作成したバックアップコードを入力することでログインできます。
バックアップコードの作成方法は、「[バックアップコードを作成する](#)」を参照ください。

注意

バックアップコードは一つのコードにつき一度しか利用できません。

1. [システム管理者としてログインする](#) に従ってパスワードを入力して認証します。
2. 「確認コード入力」画面が表示されます。



3. 「認証アプリを利用できない方はコチラ」をクリックします。

多要素認証



4. バックアップコード入力ダイアログが表示されます。



5. バックアップコード入力して「ログイン」をクリックします。



6. ログインできることを確認します。

Server Manager Task Service Job Scheduler Service Salesforce Streaming Client Service

Locale English
TimeZone Asia/Tokyo

intra-mart Home Page
Partner Site
intra-mart Developer Site
intra-mart FAQ
intra-mart Products Information Site
Product Demonstration Site
API Documentation

intra-mart Accel Platform Standard Edition 20

ログインできなくなってしまった場合

多要素認証機能を有効にしている場合、ユーザコード・パスワードでの認証後に確認コードの入力を求められます。
システム管理者に対する多要素認証機能を無効化するためには以下のシステムプロパティを設定します。

プロパティ名	<code>jp.co.intra_mart.system.mfa.certification.MultiFactorAuthAdminCertification.disable</code>
プロパティ値	<code>true</code>

指定例

```
-Djp.co.intra_mart.system.mfa.certification.MultiFactorAuthAdminCertification.disable=true
```

